

シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和3年度



目 次

授業科目一覧	1
卒業要件、履修要件	5

【1 学年】

前 期

(一般教養科目)

情報処理	8
医療のための生物と化学	9
セラピーと俳句	10
人文教養特別講義 I (自然と文化①).....	11
思考と表現	12
健康と運動の理論と実践	13
英語 I (読解)	14
英語 I (文法)	15
中国語 I	16
韓国語 I	17

(医学系科目)

人体構造機能学 I	18
-----------------	----

(専門科目)

基礎看護学 I (概論)	19
基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	20

(実習科目)

臨地実習の項目を参照	96
------------------	----

後 期

(一般教養科目)

統計学	21
心理学	22
人間と生き方 (哲学)	23
社会と家族	24
芸術	25
英語 II	26
中国語 II	27
韓国語 II	28

(医学系科目)

人体構造機能学 II	29
生化学	30
病態治療学 I (総論)	31

(保健・福祉系科目)

食生活と看護	32
福祉教育の本質	33

(専門科目)

基礎看護学Ⅱ(フィジカルアセスメントの技術)	34
基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	35
看護学原論	36
成人看護学Ⅰ(概論)	37

【2 学年】

前 期

(一般教養科目)

人間関係論	38
人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	39
英語Ⅲ	40

(医学系科目)

病態治療学Ⅱ	41
病態治療学Ⅲ	42
生命と倫理	43
公衆衛生学	44
薬理学Ⅰ(総論)	45

(保健・福祉系科目)

病態心理学	46
社会保障と福祉	47
医療と経済	48

(専門科目)

基礎看護学Ⅳ(診療の補助技術)	49
看護診断学Ⅰ	50
公衆衛生看護学論	51
老年看護学Ⅰ(概論)	52
小児看護学Ⅰ(概論)	53
母性看護学Ⅰ(概論)	54
母性看護学Ⅱ-a(概論)	55
精神看護学Ⅰ(概論)	56

後 期

(一般教養科目)

法と人権	57
英語Ⅳ	58

(医学系科目)

薬理学Ⅱ(臨床薬理)	59
感染と免疫	60

(保健・福祉系科目)

保健医療福祉行政論Ⅰ	61
医療と人権	62
カウンセリング論	63

(専門科目)

基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	64
在宅看護論Ⅰ(概論)	65
公衆衛生看護学Ⅰ(対象別公衆衛生看護活動論)	66
成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	67
成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	68
成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	69
老年看護学Ⅱ(援助論)	70
小児看護学Ⅱ(援助論)	71
母性看護学Ⅱ-b(援助論)	72
精神看護学Ⅱ(援助論)	73

(実習科目)

臨地実習の項目を参照	97
------------	----

【3 学年】

前 期

(一般教養科目)

英語Ⅴ	74
-----	----

(医学系科目)

疫学	75
----	----

(保健系科目)

カウンセリング論	76
----------	----

(専門科目)

在宅看護論Ⅱ(援助論)	77
公衆衛生看護学Ⅱ(公衆衛生看護管理論)	78
成人看護学Ⅳ-a(援助方法論)	79
成人看護学Ⅳ-b(援助方法論)	80
老年看護学Ⅲ(援助方法論)	81
小児看護学Ⅲ(援助方法論)	82
母性看護学Ⅲ(援助方法論)	83
精神看護学Ⅲ(援助方法論)	84

(発展科目)

看護診断学Ⅱ	85
リスクマネジメント	86
地域保健福祉ネットワーク論	87
健康と科学	88
国際・災害看護	89

後 期

(実習科目)

臨地実習の項目を参照	99
------------	----

【4 学年】

前 期

(一般教養科目)

英語Ⅵ	90
-----------	----

(発展科目)

看護研究の方法	91
卒業研究	92

(実習科目)

臨地実習の項目を参照	107
------------------	-----

後 期

(専門科目)

公衆衛生看護学特論	93
-----------------	----

(発展科目)

看護管理論	94
-------------	----

【臨地実習】

(実習科目)

老年看護学実習Ⅰ(1学年)	96
基礎看護学実習(2学年)	97
看護過程論実習(2学年)	98
在宅看護学実習(3・4学年)	99
成人看護学実習Ⅱ(3・4学年)	100
老年看護学実習(3・4学年)	101
小児看護学実習(3・4学年)	102
母性看護学実習(3・4学年)	103
精神看護学実習(3・4学年)	104
公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)(3・4学年)	105
公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)(3・4学年)	106
課題実習(4学年)	107

関西看護医療大学カリキュラム

区分	授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当								計			
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期				
基礎 分野	情報処理	2	30	◎		必修 6 単位 + 選択 6 単位	2										2	
	心理学	1	30	◎			1											1
	生物学	1	30		○		1											1
	化学	1	30		○		1											1
	思考と表現	1	30		○		1											1
	健康と運動の理論と実践	2	30		○		2											2
	統計学	1	30	◎				1										1
	人間と生き方(哲学)	1	30	◎				1										1
	社会と家族	1	30	◎				1										1
	芸術	1	30		○			1										1
	教育の本質	1	30		○			1										1
	言語情報リテラシー	1	30		○					1								1
	人間関係論	1	30		○					1								1
	人文教養特別講義I(自然と文化①)	1	15		○					1								1
	人文教養特別講義II(自然と文化②)	1	15		○				1								1	
	法と人権	2	30		○					2							2	
	英語Ⅰ	1	30	◎			1										1	
	英語Ⅱ	1	30	◎				1									1	
	英語Ⅲ	1	30		○				1								1	
	英語Ⅳ	1	30		○					1							1	
英語Ⅴ	1	30		○						1						1		
英語Ⅵ	1	30		○							1					1		
中国語Ⅰ	1	30		○		1										1		
中国語Ⅱ	1	30		○			1									1		
韓国語Ⅰ	1	30		○		1										1		
韓国語Ⅱ	1	30		○			1									1		
計						18	11	8	4	4	1	0	1	0		29		
専門 基礎 分野	人体構造機能学Ⅰ	2	60	◎		(看) 必修 21 単位 + 選択 5 単位	2										2	
	人体構造機能学Ⅱ	1	45	◎				1										1
	生化学	2	30	◎				2										2
	病態治療学Ⅰ(総論)	1	30	◎				1										1
	病態治療学Ⅱ	2	60	◎					2									2
	病態治療学Ⅲ	1	30	◎					1									1
	生命と倫理	2	30	◎					2									2
	公衆衛生学	1	15	◎						1								1
	薬理学Ⅰ(総論)	1	30	◎						1								1
	薬理学Ⅱ(臨床薬理)	1	30	◎							1							1
	感染と免疫	1	30	◎							1							1
	疫学	☆	2	30			○					2						2
	食生活と看護	2	30	◎		(保) 必修 25 単位 + 選択 2 単位		2									2	
	病態心理学	2	30	◎						2								2
	医療と経済	1	30		○					1								1
	医療と人権	1	30		○						1							1
カウンセリング論	1	30		○							1						1	
生涯教育論	1	30		○			1										1	
社会保障と福祉	2	30	◎					2								2		
保健医療福祉行政論	☆	2	30		○					2						2		
計						(看) 26 (保) 27	3	6	12	5	3	0	0	0		29		

(留意事項)

①保健師国家試験受験資格を得るためには、以下の選択科目(7科目)をすべて修得する必要があります。

(カリキュラム表中の授業科目に☆及び★印の入っている科目)

【疫学】【保健福祉行政論(演習)】【公衆衛生看護学Ⅰ(公衆衛生看護活動展開論)】【公衆衛生看護学Ⅱ(公衆衛生看護活動管理論)】
【公衆衛生看護学特論】【公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)】【公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論実習)】

②また、☆印は看護師課程履修者でも選択することができる科目を表し、★印は保健師課程履修者のみ選択することができる科目を表す。

関西看護医療大学カリキュラム

区分	授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当													
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	計					
専 門 科 目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎			2													2
	基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション)	1	15	◎			1													1
	基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	1	30	◎			1													1
	基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	2	60	◎				2												2
	基礎看護学Ⅲ-c(生活の援助技術)	1	30	◎					1											1
	基礎看護学Ⅳ(フィジカルアセスメント)	1	45	◎						1										1
	基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30	◎						2										2
	看護学原論	1	30	◎				1												1
	看護診断学Ⅰ	1	30	◎					1											1
	地域看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎					2											2
	地域看護学Ⅱ(地域保健活動論)	2	30	◎					2											2
	地域看護学Ⅲ(個人・家族・集団・組織の支援)	2	30	◎						2										2
	在宅看護論Ⅰ(概論)	1	15	◎						1										1
	在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30	◎								2								2
	公衆衛生看護学Ⅰ(公衆衛生看護活動展開論)	★	4	60		○						4								4
	公衆衛生看護学Ⅱ(公衆衛生看護管理論)	★	3	45		○						3								3
	公衆衛生看護学特論	★	1	15		○													1	1
	成人看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎					2											2
	成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30	◎							2									2
	成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	30	◎							1									1
	成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30	◎							2									2
	成人看護学Ⅳ-a(援助方法論)	1	30	◎			(看) 必修77単位 +選択4単位					1							1	
	成人看護学Ⅳ-b(援助方法論)	1	45	◎								1							1	
	老年看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1										1
	老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2									2
	老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎								1							1	
	小児看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1										1
	小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2									2
	小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎								1								1
	母性看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1										1
	母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15	◎							1									1
	母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15	◎							1									1
	母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎			(保) 必修90単位					1							1	
	精神看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1										1
	精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2									2
	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎								1								1
	実 習 科 目	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	◎			1												1
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	◎				2											2
		在宅看護学実習	2	90	◎									2						2
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	★	2	90		○								2					2
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	★	3	135		○								3					3
		成人看護学実習Ⅰ	3	135	◎						3				1					3
		成人看護学実習Ⅱ	3	135	◎										3					3
		老年看護学実習	4	180	◎										4					4
		小児看護学実習	2	90	◎										2					2
母性看護学実習		2	90	◎										2					2	
精神看護学実習		2	90	◎										2					2	
課題実習		2	90	◎											2				2	
発 展 科 目		看護診断学Ⅱ	1	30	◎							1								1
	リスクマネジメント	1	30	◎							1								1	
	地域保健福祉ネットワーク論	2	30		○						2								2	
	健康と科学	2	30		○						2								2	
	国際・災害看護	2	30		○						2								2	
	看護研究の方法	2	30	◎										2					2	
	卒業研究	4	60	◎												4			4	
看護管理論	2	30		○												2		2		
計							(看) (保)	81 90	5	7	10	26	19	0	24	7	98			
合 計							(看) (保)	125 135	19	21	26	35	23	0	25	7	156			

関西看護医療大学カリキュラム

区分	授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当												
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	計				
基礎分野	情報処理	2	30	◎		必修 13 単位 + 選択 6 単位	2										2		
	医療のための生物と化学	2	30	◎			2											2	
	セラピーと俳句	1	15	◎			1											1	
	人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)※	1	15		○		1												1
	思考と表現	2	30		○		2												2
	健康と運動の理論と実践	2	30		○		2												2
	統計学	2	30	◎				2											2
	心理学	2	30	◎				2											2
	人間と生き方(哲学)	2	30	◎				2											2
	社会と家族	2	30	◎				2											2
	芸術	2	30		○			2											2
	人間関係論	2	30		○					2									2
	人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	1	15		○					1									1
	法と人権	2	30		○					2								2	
	英語Ⅰ	1	30	◎			1											1	
	英語Ⅱ	1	30	◎				1										1	
	英語Ⅲ	1	30		○				1									1	
	英語Ⅳ	1	30		○					1								1	
	英語Ⅴ	1	30		○						1							1	
	英語Ⅵ	1	30		○							1						1	
中国語Ⅰ	1	30		○			1										1		
中国語Ⅱ	1	30		○				1									1		
韓国語Ⅰ	1	30		○			1										1		
韓国語Ⅱ	1	30		○				1									1		
計						25	13	13	4	3	1	0	1	0			35		
専門基礎分野	人体構造機能学Ⅰ	2	60	◎		(看) 必修 28 単位 + 選択 4 単位	2											2	
	人体構造機能学Ⅱ	2	60	◎				2											2
	生化学	2	30	◎				2											2
	病態治療学Ⅰ(総論)	2	30	◎				2											2
	病態治療学Ⅱ	2	60	◎					2										2
	病態治療学Ⅲ	2	30	◎					2										2
	生命と倫理	2	30	◎					2										2
	公衆衛生学	1	15	◎						1									1
	薬理学Ⅰ(総論)	2	30	◎						2									2
	薬理学Ⅱ(臨床薬理)	2	30	◎							2								2
	感染と免疫	2	30	◎							2								2
	疫学 ☆	2	30		○							2							2
	食生活と看護	2	30	◎			(保) 必修 31 単位 + 選択 2 単位		2										2
	福祉教育の本質	2	30		○			2											2
	病態心理学	2	30	◎					2										2
	社会保障と福祉	2	30	◎					2										2
	医療と経済	2	30		○				2										2
保健医療福祉行政論Ⅰ	1	15	◎							1								1	
医療と人権	2	30		○						2								2	
カウンセリング論	2	30		○						2								2	
保健医療福祉行政論Ⅱ ☆	1	15		○											1		1		
計						(看) 32 (保) 33	2	10	15	9	2	0	0	1			39		

(留意事項)

①保健師国家試験受験資格を得るためには、以下の選択科目(9科目)をすべて履修することが必要です。

(カリキュラム表中の授業科目に☆及び★印の入っている科目)

【疫学】【保健医療福祉行政論Ⅱ】【公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)】【公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)】

【地域看護診断論】【公衆衛生看護技術論】【公衆衛生看護管理論】【公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)】

【公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)】

②また、☆印は看護師課程履修でも選択することができる科目を表し、★印は保健師課程履修者のみ選択することができます。

③※【人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)】は選択必修科目です。

④基礎分野の選択科目については、1セメスターの履修登録上限を選択必修科目及び外国語科目を除いて2単位までとする。

関西看護医療大学カリキュラム

区分	授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当									
							1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	計	
専 門 科 目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30	○			2									2
	基礎看護学Ⅱ(フィジカルアセスメントの技術)	1	45	○				1								1
	基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	1	30	○			1									1
	基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	2	60	○				2								2
	基礎看護学Ⅳ(診療の補助技術)	1	30	○					1							1
	基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30	○						2						2
	看護学原論	1	30	○				1								1
	看護診断学Ⅰ	1	30	○					1							1
	在宅看護論Ⅰ(概論)	2	30	○						2						2
	在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30	○							2					2
	公衆衛生看護学概論	2	30	○					2							2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別公衆衛生看護活動論)	1	15	○						1						1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)★	4	60		○						4					4
	公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)★	2	30		○							2				2
	地域看護診断論	★	2	30		○						2				2
	公衆衛生看護技術論	★	2	30		○							2			2
	公衆衛生看護管理論	★	1	15		○								2		2
	成人看護学Ⅰ(概論)	1	15	○										1		1
	成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30	○				1								1
	成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	15	○						2						2
	成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30	○						1						1
	成人看護学Ⅳ(援助方法論)	1	45	○						2						2
	老年看護学Ⅰ(概論)	1	15	○							1					1
	老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○					1							1
	老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○						2						2
	小児看護学Ⅰ(概論)	1	15	○							1					1
	小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○					1							1
	小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○						2						2
	母性看護学Ⅰ(概論)	1	15	○							1					1
	母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15	○						1						1
	母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15	○							1					1
	母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○								1				1
	精神看護学Ⅰ(概論)	1	15	○								1				1
	精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○					1							1
	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○						2						2
	基礎看護学実習	3	135	○						3						3
	看護過程論実習	3	135	○							3					3
	在宅看護学実習	2	90	○								2				2
	公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	★	2	90		○							2			2
	公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	★	3	135		○							3			3
成人看護学実習Ⅰ	2	90	○								2				2	
成人看護学実習Ⅱ	2	90	○								2				2	
老年看護学実習Ⅰ	1	45	○				1								1	
老年看護学実習Ⅱ	2	90	○								2				2	
小児看護学実習	2	90	○								2				2	
母性看護学実習	2	90	○								2				2	
精神看護学実習	2	90	○								2				2	
課題実習	2	90	○									2			2	
看護診断学Ⅱ	1	30	○							1					1	
リスクマネジメント	1	30	○							1					1	
国際看護学・災害看護学	2	30	○						2						2	
卒業研究	4	60	○									4			4	
看護管理論	1	15			○								1		1	
看護倫理	1	15			○								1		1	
計						(看) 73 (保) 88	4	5	12	20	15	0	27	7	90	
合 計						(看) 130 (保) 146	19	28	31	32	18	0	28	8	164	

卒業要件

本学を卒業するには、本学に4年以上在学し、基礎分野・専門基礎分野・専門分野ごとに定められた、卒業に必要な単位は下記の通りです。

◎ H27～H31年度生は、125 単位以上(看護師)、135 単位以上(保健師) の修得が必要となります。

◎ R 2年度生は 130 単位以上(看護師)、146 単位以上(保健師) の修得が必要になります。

【卒業要件単位数】

[H27～H31年度生]

区	分	必修	選択	計
基礎分野	一般教養科目	(看)(保) 8	(看)(保)10	(看)(保)18
専門基礎分野	医学系科目	(看) 15 (保) 17	(看) 5 (保) 2	(看) 26 (保) 27
	保健系科目	(看)(保) 4		
	福祉系科目	(看) 2 (保) 4		
専門分野	専門科目	(看) 46 (保) 54	(看) 4	(看) 85 (保) 94
	実習科目	(看) 23 (保) 28		
	発展科目	(看)(保) 8		
計		(看) 106 (保) 123	(看) 19 (保) 12	(看) 125 (保) 135

[R 2年度生]

区	分	必修	選択	計
基礎分野	一般教養科目	(看)(保)15	(看)(保)10	(看)(保)25
専門基礎分野	医学系科目	(看) 21 (保) 23	(看) 4 (保) 2	(看) 32 (保) 33
	保健・福祉系科目	(看) 7 (保) 8		
専門分野	専門科目	(看) 41 (保) 52	(看) 1	(看) 73 (保) 88
	実習科目	(看) 23 (保) 28		
	発展科目	(看)(保) 8		
計		(看) 115 (保) 134	(看) 15 (保) 12	(看) 130 (保) 146

- 必修科目は、看護学を学ぶ上で必要不可欠な科目であり、決められた年次の開講科目は全て履修してください。
- 選択科目は、選択により卒業要件として修得必要単位数を履修しなければならない科目です。分野毎に履修すべき単位数が決められています。
 - 「不開講科目の決定に関する内規」に基づき、受講希望者が5名以下の場合、開講しないことがあります。
 - 養護教諭第2種免許の取得を希望する場合は、「法と人権」「健康と運動の理論と実践」を必ず選択してください。

看護学実習の履修要件

(2016年度入学生)

看護学実習	授業科目 (講義・実習)
基礎看護学実習 I	基礎看護学 II (コミュニケーション) 基礎看護学 III-a (生活の援助技術)
基礎看護学実習 II	基礎看護学 I (概論) 基礎看護学 II (コミュニケーション) 基礎看護学 III-a (生活の援助技術) 基礎看護学実習 I 基礎看護学 III-b (生活の援助技術)
成人看護学実習 I	基礎看護学 III-b (生活援助技術) 基礎看護学 III-c (生活援助技術) 看護診断学 I 成人看護学 I (概論) 基礎看護学実習 II 基礎看護学 IV (フィジカルアセスメント) 基礎看護学 V (問題解決技法) 成人看護学 II-a (急性期援助論) 成人看護学 II-b (急性期援助論) 成人看護学 III (慢性期援助論)
成人看護学実習 II 在宅看護学実習 老年看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 精神看護学実習	実習開始時点で定期試験の受験資格を有していること 単位修得 実習開始時点で定期試験の受験資格を有していること 単位修得 実習開始時点で定期試験の受験資格を有していること 単位修得 成人看護学実習 I の単位修得及び専門基礎分野の必修科目 14 科目 21 単位の修得が必要である 単位修得 在宅看護学実習 在宅看護学 I (概論) 地域看護学 II (地域保健活動論) 地域看護学 III (個人・家族・集団・組織の支援) 在宅看護学 I (概論) 在宅看護学 I (援助論)

(2016年度入学生)

看護学実習	授業科目 (講義・実習)
成人看護学実習 II	成人看護学 II-a (急性期援助論) 成人看護学 II-b (急性期援助論) 成人看護学 III (慢性期援助論) 成人看護学 IV-a (援助方法論) 成人看護学 IV-b (援助方法論)
老年看護学実習	老年看護学 I (概論) 老年看護学 II (援助論) 老年看護学 III (援助方法論)
小児看護学実習	小児看護学 I (概論) 小児看護学 II (援助論) 小児看護学 III (援助方法論)
母性看護学実習	母性看護学 I (概論) 母性看護学 II-a (援助論) 母性看護学 II-b (援助論) 母性看護学 III (援助方法論)
精神看護学実習	精神看護学 I (概論) 精神看護学 II (援助論) 精神看護学 III (援助方法論)
課題実習	原則として、全領域の看護学実習が終了しており、 その全ての単位認定が見込まれること
公衆衛生看護学実習 I 公衆衛生看護学実習 II 【保健師選択科目】	疫学 保険医療福祉行政論 公衆衛生看護学 I (公衆衛生看護活動展開論) 公衆衛生看護学 II (公衆衛生看護管理論)

各授業科目の履修要件

R2・3年度入学生

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
基礎看護学実習	必	3	<ul style="list-style-type: none"> 人体構造機能学 I 人体構造機能学 II 基礎看護学 I 基礎看護学 II 基礎看護学 III-a 基礎看護学 III-b 基礎看護学 IVの受験資格を有している。
成人看護学 II-a (急性期援助論)	必	4	成人看護学 I の単位取得
成人看護学 II-b (急性期援助論)	必	4	成人看護学 I の単位取得
成人看護学 III (慢性期援助論)	必	4	成人看護学 I の単位取得
老年看護学 II (援助論)	必	4	老年看護学 I の単位取得
小児看護学 II (援助論)	必	4	小児看護学 I の単位取得
母性看護学 II-b (援助論)	必	4	母性看護学 I・母性看護学 II-a の単位取得
精神看護学 II (援助論)	必	4	精神看護学 I の単位取得
看護過程論実習	必	4	<ul style="list-style-type: none"> 人体構造機能学 I 人体構造機能学 II 基礎看護学 I 基礎看護学 II 基礎看護学 III-a 基礎看護学 III-b 基礎看護学 IV 基礎看護学実習 基礎看護学 Vの受験資格を有している。
在宅看護論 II (援助論)	必	5	在宅看護論 I の単位取得
成人看護学 IV (援助方法論)	必	5	<ul style="list-style-type: none"> 成人看護学 II-a 成人看護学 II-b 成人看護学 III
老年看護学 III	必	5	老年看護学 II の単位取得
小児看護学 III	必	5	小児看護学 II の単位取得
母性看護学 III	必	5	母性看護学 II-b の単位取得
精神看護学 III	必	5	精神看護学 II の単位取得
看護診断学 II	必	5	看護診断学 I の単位取得

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
全看護学実習 (保健師実習除く)			3年夏期に大学が指定する集中講義を受講していること
在宅看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 在宅看護論 I } 単位修得 在宅看護論 II }
公衆衛生看護学実習 I (個人・家族・集団・組織の支援実習)	選	7	<ul style="list-style-type: none"> 疫学 保健医療福祉行政論 I 公衆衛生看護活動論 I 公衆衛生看護活動論 II
公衆衛生看護学実習 II (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	選	7	<ul style="list-style-type: none"> 疫学 保健医療福祉行政論 I 公衆衛生看護活動論 I 公衆衛生看護活動論 II
成人看護学実習 I	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学 II-a } 単位修得 成人看護学 II-b } 成人看護学 III } 成人看護学 IV }
成人看護学実習 II	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学 II-a } 単位修得 成人看護学 II-b } 成人看護学 III } 成人看護学 IV }
老年看護学実習 II	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 老年看護学実習 I } 単位修得 老年看護学 I } 老年看護学 II } 老年看護学 III }
小児看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 小児看護学 I } 単位修得 小児看護学 II } 小児看護学 III }
母性看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 母性看護学 I } 単位修得 母性看護学 II-a } 母性看護学 II-b } 母性看護学 III }
精神看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 精神看護学 I } 単位修得 精神看護学 II } 精神看護学 III }
課題実習	必	7	原則として、全領域の看護学実習が終了しており、その全ての単位認定が見込まれること

授業科目名	情報処理	担当教員名	高見 栄喜			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-1	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 医療現場における定期的、定量的な観察、医療情報の入手や理解、カルテの電子化など、医療・看護・保健分野における情報処理能力の必要性は高まっている。 情報処理の基礎知識として、ワード・ドキュメントによる文書作成、エクセル・スプレッドシートによる表計算やグラフ機能、パワーポイント・スライドによるプレゼンテーション資料作成の技術などを中心に学習および演習する。学生がソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理、また医療職としてのコミュニケーションの側面からも理解を深めたい。 〔学修目標〕 学生が医療職としての情報コミュニケーションスキルの基本を習得し、主体的に情報処理ツールを用いて応用し、活用できる基礎的能力を養う。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間		
第 1 回	ガイダンス、コミュニケーションツールとしての情報技術	シラバス確認		0.5 時間		
第 2 回	コミュニケーションの基本	① p2-55		0.5 時間		
第 3 回	情報セキュリティ、マナー、モラル、ネットワーク etc.	① p58-92		0.5 時間		
第 4 回	PC等の基本的操作とワード・ドキュメントの使用法	① p168-197		0.5 時間		
第 5 回	ワード・ドキュメントでの課題、文書作成と演習 (1)	演習課題の予習と復習		0.5 時間		
第 6 回	ワード・ドキュメントでの課題、文書作成と演習 (2)	演習課題の予習と復習		1 時間		
第 7 回	エクセル・スプレッドシートでの表計算と関数 (1)	演習課題の予習と復習		0.5 時間		
第 8 回	エクセル・スプレッドシートでの表計算と関数 (2)	演習課題の予習と復習		1 時間		
第 9 回	エクセル・スプレッドシートでの課題、作成と演習 (1)	演習課題の予習と復習		0.5 時間		
第 10 回	エクセル・スプレッドシートでの課題、作成と演習 (2)	演習課題の予習と復習		1 時間		
第 11 回	パワーポイント・スライドでのプレゼン資料の作成 (1)	プレゼン課題		1 時間		
第 12 回	パワーポイント・スライドでのプレゼン資料の作成 (2)	プレゼン課題		1 時間		
第 13 回	パワーポイント・スライドでのプレゼン発表 (1)	プレゼン課題		1.5 時間		
第 14 回	パワーポイント・スライドでのプレゼン発表 (2)	プレゼン課題		1.5 時間		
第 15 回	自己評価発表 まとめ	資料・演習課題まとめ		0.5 時間		
学修評価の方法 (成績割合%)	課題発表(試験、約50%)、課題提出(約30%)、授業中の態度・貢献度、出欠等(約20%)					
課題のフィード バックの方法	提出課題・プレゼン発表等は、当日や次講義以降に復習やフィードバックをする。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①大嶋淳俊著、情報活用学入門-情報化社会の「攻め方」・「守り方」、学文社。					
履修上の留意点	授業をきっかけとして、PC室や自宅で積極的にPCを使用してください。苦手意識のある方は、1日1回はPCに触れ、情報処理技術が身に付く習慣を持ってください。					

授業科目名	医療のための生物と化学	担当教員名	百田 芳春			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-2	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要	〔授業の概要〕 生物と化学の様々な基本的な概念や用語を取り上げ解説し、今後の生理学や薬理学また病態生理学の授業時において、授業中に使用される専門用語の円滑な理解を図る。					
学 修 目 標	〔学修目標〕 生理学や薬理学また病態を説明するには、主に化学的、物理的な専門用語を用いて説明解説される。それらの用語を理解するために、医療系で知っておいた方が有利な化学と生物の基本的な用語が示す内容と、その理解を目標とする。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第 1 回	世界を構成する物質	教科書 第1章 P10~17	の通読	45分程度		
第 2 回	世界を構成する物質	教科書 第1章 P10~27	の通読	45分程度		
第 3 回	生体を構成する物質	教科書 第2章 P28~39	の通読	45分程度		
第 4 回	生体を構成する物質	教科書 第2章 P39~48	の通読	45分程度		
第 5 回	身体内外の圧力	教科書 第3章 P50~65	の通読	45分程度		
第 6 回	酸と塩基	教科書 第4章 P66~85	の通読	45分程度		
第 7 回	細胞	教科書 第4章 P66~85	の通読	45分程度		
第 8 回	体の電気	教科書 第5章 P86~100	の通読	45分程度		
第 9 回	遺伝情報	教科書 第6章 P102~116	の通読	45分程度		
第 10 回	細胞分裂1	教科書 第7章 P118~129	の通読	45分程度		
第 11 回	細胞分裂2	教科書 第7章 P129~135	の通読	45分程度		
第 12 回	人体の階層構造	教科書 第8章 P136~156	の通読	45分程度		
第 13 回	ホメオスタシス	教科書 第9章 P158~174	の通読	45分程度		
第 14 回	生体防御と免疫	教科書 第10章 P176~193	の通読	45分程度		
第 15 回	成長と老化	教科書 第11章 P194~205	の通読	45分程度		
学修評価の方法 (成績割合%)	出席(10%), 期末試験(90%)					
課題のフィード バックの方法	ゲーグルドライブなど遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する。					
テ キ ス ト	解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理 (著:岡田隆夫、イラスト:村山絵理子) 羊土社					
参 考 図 書	高校教科書(生物・化学)、高校の理科の参考書など 人体の構造と機能 ① 解剖生理学 医学書院					
履修上の留意点	理解できているところと、理解出来ていないところを予習と復習で自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。					

授業科目名	セラピーと俳句	担当教員名	鈴木 貞雄 江川 隆子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間		●			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-3	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 俳句づくりの基本と心構え、独特の表現法、俳句づくりのポイントおよび俳句づくりの実際と鑑賞を通して、現象を具体的にとらえ、その現象に潜む本質を表現するための方法とその重要性を教授する。さらに現象の表現に伴うリフレクションが、自分自身の癒しにつながることを教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 俳句についての基本的な知識が理解できる。 2 俳句の作り方とそのポイントが理解できる。 3 俳句づくりと鑑賞を通して、現象の奥にある本質を文字に表現することの重要性が理解できる。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・俳句とは		各回 ・事前に参考図書の 講読 ・配布資料の復習		各回 60分	
第 2 回	俳句の歴史					
第 3 回	俳句のユーモア					
第 4 回	俳句と写生					
第 5 回	季語の働き					
第 6 回	五七五の調べ					
第 7 回	俳句の表現					
第 8 回	セラピーと俳句					
学修評価の方法 (成績割合%)	レポート (80%) 出席 (20%)					
課題のフィード バックの方法	担当教員からのコメントを入れて返却					
テキスト	毎時間、担当教員からレジメを示す。					
参考図書	「わかりやすい俳句の作り方 俳句づくりの基本から句会、吟行まで」 鈴木 貞雄 (日本文芸社) 2011年					
履修上の留意点	日本の伝統文化である俳句は「Haiku」の名で国際社会に普及し、ユネスコの文化遺産入りを間近にしています。 一方、俳句は、高齢化社会を迎えた現代の日本において、高齢者の生き甲斐、心の支えとして大きな役割を果たしています。講義では、俳句の基本と作り方をお話し、皆さんにも俳句を作る喜びを知って頂くとともに看護の仕事にも役立てて頂きたいと願っています。					

授業科目名	人文教養特別講義Ⅰ (自然と文化①)	担当教員名	栗井 光代			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間		○●			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-4	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、きわめて重要である。この科目では、「自然と文化」という大枠の中から、必ずしも看護と直接関係しない任意のテーマ（例えば政治、社会、言語、歴史、人間、科学、生命、物質）を講義する。人文教養特別講義Ⅰでは主として「文化」に関わるテーマを、人文教養特別講義Ⅱでは主として「自然」に関わるテーマを選ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1 言語についての基本的な考え方を理解できる。 2 言語についての基本的な概念を理解できる。 3 言語についての特徴、機能、表記法を理解する。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・ことばとは		授業ごとに予習・復習の内容を説明します。 (日々の生活の中で新聞、雑誌等を見て、使われていることばに注意を払うこと。これにより、授業で得た疑問などを解決するために調べたり、考えたりする姿勢が重要。授業後には講義ノートを整理事ること。		各回30分 から 60分	
第 2 回	話しことばの特性					
第 3 回	書きことばの特性					
第 4 回	方言の特性とことば					
第 5 回	文字と表記、文章の構成					
第 6 回	文章の作成(1) 事実を書く、考えを書く					
第 7 回	文章の作成(2) 気持ちを書く、用件を書く					
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合)	出席状況(25%)、受講態度(25%)、課題・レポート(50%)をあわせて総合的に評価する。					
課題のフィード バックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するもので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	言語について学び、表現力(特に話す力・書く力の向上)をめざす。また、自らの考えを表現し、発信していく力を身につける。					

授業科目名	思考と表現	担当教員名	山本 道雄			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		○			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-5	D P 記号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 現代論理学の基本を学びます。併せてレポートの作成法も学びます。</p> <p>〔学修目標〕 問題を実際に解くことによって論理的思考とは何かが理解できるようになります。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	レポートの作成の仕方		各回について教科書の 問題を解いてもらいます			
第 2 回	論理とは何か					
第 3 回	命題について					
第 4 回	命題について					
第 5 回	真理値分析					
第 6 回	真理値分析					
第 7 回	真理関数論					
第 8 回	真理関数論					
第 9 回	真理関数論					
第 10 回	意味論的推理論					
第 11 回	意味論的推理論					
第 12 回	形式的推理論					
第 13 回	形式的推理論					
第 14 回	形式的推理論					
第 15 回	形式的推理論					
学修評価の方法 (成績割合%)	授業中に教科書の問題を解いてもらいます(30パーセント)。期末に小試験をします(70パーセント)。					
課題のフィード バックの方法	授業中の解題解決によって理解度を評価。					
テキスト	飯田他「論理学の基礎」昭和堂					
参考図書	特になし。					
履修上の留意点	大人数の聴講はこの授業にふさわしくないので、受講生の数を抽選によって40名程度に制限することもあります。					

授業科目名	健康と運動の理論と実践	担当教員名	高見 栄喜			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		○			
授業形態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-6	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>現在、個人や社会において生活習慣病等に対する健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について、学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>これらの学習を通じて、学生自身が成人期以降の適切な運動実践と自己のライフステージや心身の状態に応じた身体活動や健康増進活動の理論を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を醸成する。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方, 内容, 評価 etc.)		シラバス確認		0.5時間	
第 2 回	健康 (人生 100 年時代) と働き方 (看護師)		資料の予習と復習		0.5時間	
第 3 回	小論文 (小テスト・レポート etc.) の書き方について		資料の予習と復習		0.5時間	
第 4 回	現代社会での健康について<理論編>		①p2-7		0.5時間	
第 5 回	-生活習慣病と健康, 予防医学, 疫学の視点から-		①p7-13 ②p1-7		1時間	
第 6 回	ライフステージと運動・スポーツ 生涯スポーツ		③p55-65 ④p65-92		0.5時間	
第 7 回	<実践編>-卓球, バレーボール, テニス①		ルール (図書館)		0.5時間	
第 8 回	-卓球, バレーボール, テニス②		ルール (図書館)		0.5時間	
第 9 回	-卓球, バレーボール, テニス③		ルール (図書館)		0.5時間	
第 10 回	楽しむということ (フロー理論)-運動・スポーツ-		資料の予習と復習		0.5時間	
第 11 回	がんと健康・ケアについて (視聴覚教材)		資料の予習と復習		0.5時間	
第 12 回	生活習慣病 (メタボリック症候群等) の現状と課題		③p91-101		1時間	
第 13 回	健康に関する文献①		資料の予習と復習		1時間	
第 14 回	健康に関する文献②		資料の予習と復習		1時間	
第 15 回	まとめ 最終課題		資料のまとめ		1時間	
学修評価の方法 (成績割合%)	課題レポート(約 80%)、気づき課題、授業中への取組み、感想など(約 20%)					
課題のフィード バックの方法	小テスト・気づき課題・レポート課題等は、次講義以降に復習やフィードバックをする。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義第 2 版」杏林書院。②日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学-疫学への招待-改訂第 2 版」南江堂。③青木高・太田壽監修, 山口泰雄編「健康・スポーツの社会学」健帛社。④M・チクセントミハイ著, 今村浩明訳「楽しみの社会学」新思索社。					
履修上の留意点	健康について皆さんと共に考え認識を深め、また、身体を使って楽しく学びたいと思っています。					

授業科目名	英語 I (読解)	担当教員名	西垣 有夏			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1 単位・30 時間		●			
授 業 形 態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-15	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 英語の基礎力を養うために、最低限必要な英文法の学習と100語程度の短い英文の読解を行う。授業では適宜小テストを行い、知識の定着を図る。</p> <p>〔学修目標〕 読解のための基礎的な語彙力・文法力をみにつけること。また、それらを用いて、まとまった量の英文を正確に読めるようになること。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・クラス分けテスト					
第 2 回	筆記体の練習・辞書の使い方					
第 3 回	Unit1		単語の練習(筆記体)		60分	
第 4 回	Unit1		単語学習		60分	
第 5 回	Unit2		単語学習		60分	
第 6 回	Unit2		単語学習		60分	
第 7 回	Unit3		復習		60分	
第 8 回	中間テスト /Unit3		単語学習		60分	
第 9 回	Unit4		単語学習		60分	
第 10 回	Unit4		単語学習		60分	
第 11 回	Unit5		単語学習		60分	
第 12 回	Unit5		単語学習		60分	
第 13 回	Unit6		単語学習		60分	
第 14 回	Unit6		単語学習		60分	
第 15 回	予備・まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	中間テスト (40%), 小テスト (20%), 期末テスト (40%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive 等を用いて適正に行う。					
テ キ ス ト	アンドルー・E.ベネット「リーディングフュージョン 2—Reading Fusion」南雲堂					
参 考 図 書						
履修上の留意点	予習をして授業に臨むこと。 必ず辞書を持ってくること。(携帯を辞書として使うことは認めません)					

授 業 科 目 名	英語 I (文法)		担 当 教 員 名		西 垣 有 夏			
	期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4	
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 30 時 間	講 義 ・ 演 習		● - 必 修 ・ ○ - 選 択				
授 業 形 態			カリキュラム記号	A - 1 - 15	D P 記 号	DP-1		
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 英語の基礎力を養うために、最低限必要な英文法の学習と100語程度の短い英文の読解を行う。授業では適宜小テストを行い、知識の定着を図る。</p> <p>〔学修目標〕 基礎的な文法と語彙の習得を目標とする。また、簡単な英文を正確に読む能力を養う。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第 1 回	ガイダンス・クラス分けテスト							
第 2 回	筆記体の練習・辞書の使い方							
第 3 回	文法・文型の基礎 1			単語の練習(筆記体)			60分	
第 4 回	文法・文型の基礎 2			練習問題1			60分	
第 5 回	Unit 1, 2 (名詞・冠詞)			Practice 1, 2&reading			60分	
第 6 回	Unit 3, 4 (代名詞 1, 2)			Practice 3, 4&reading			60分	
第 7 回	Unit 5 (基本時制)			テスト勉強			60分	
第 8 回	中間テスト / Unit 6 (進行形)			Practice 6&reading			60分	
第 9 回	Unit 7 (完了形)			Practice 7&reading			60分	
第 10 回	Unit 10 (受動態 1)			Practice 10&reading			60分	
第 11 回	Unit 11 (受動態 2)			Practice 11&reading			60分	
第 12 回	Unit 20, 21 (比較 1, 2)			テスト勉強			60分	
第 13 回	Unit 23 (関係詞 1)			Practice23			60分	
第 14 回	Unit 24 (関係詞 2)			Practice24			60分	
第 15 回	予備・まとめ							
学修評価の方法 (成績割合%)	中間テスト (40%), 小テスト (20%), 期末テスト (40%)							
課題のフィード バックの方法	Google Drive 等を用いて適正に行う。							
テ キ ス ト	福井慶一郎、北山長貴、山中マーガレット『読解力をみがく基本英文法』、朝日出版社							
参 考 図 書								
履修上の留意点	予習をして授業に臨むこと。 必ず辞書を持ってくること。(携帯を辞書として使うことは認めません)							

授 業 科 目 名	中国語 I	担 当 教 員 名	孫 涛			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 30 時間		○			
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-21	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>テキストの音読を通じて、中国語の発音を定着させ、基礎文法・文型を身につけさせる。授業では、中国語の発音を表記するための記号であるピンインの読み書きに重点を置く。また、現代中国の社会や文化について適宜紹介するつもりである。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>この授業では、ピンインの読み書きができる、簡単な日常あいさつや質問、自己紹介ができるようになることを目指す。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授 業 時 間 外 (準 備 学 修) の 内 容	必要時間			
第 1 回	ガイダンス、中国語についての説明 挨拶①	特になし				
第 2 回	声調と単母音、複合母音 数字 挨拶②	授業内容の予習・復習	30 分			
第 3 回	子音 数字 挨拶③	授業内容の予習・復習	30 分			
第 4 回	鼻母音 数字 挨拶④	授業内容の予習・復習	30 分			
第 5 回	第1課 中国人留学生と知り合う	授業内容の予習・復習	30 分			
第 6 回	第1課 中国人留学生と知り合う	授業内容の予習・復習	30 分			
第 7 回	第2課 携帯の写真を見て	授業内容の予習・復習	30 分			
第 8 回	第2課 携帯の写真を見て	授業内容の予習・復習	30 分			
第 9 回	第3課 いっしょに勉強しよう	授業内容の予習・復習	30 分			
第 10 回	第3課 いっしょに勉強しよう	授業内容の予習・復習	30 分			
第 11 回	第4課 ファストフード店で	授業内容の予習・復習	30 分			
第 12 回	第4課 ファストフード店で	授業内容の予習・復習	30 分			
第 13 回	第5課 T シャツを買う	授業内容の予習・復習	30 分			
第 14 回	第5課 T シャツを買う	授業内容の予習・復習	30 分			
第 15 回	前期まとめ・到達度確認	授業内容の予習・復習	30 分			
学修評価の方法 (成績割合%)	普段の小テスト及び課題 50%、定期テスト 50% を合わせて成績を評価する。					
課題のフィード バックの方法	課題配布後、翌週回収する。					
テ キ ス ト	『中国語1年目』緒方昭 小林光考 胡慶華 (白水社)出版					
参 考 図 書	相原茂・石田知子・戸沼市子『中国語の文法書』 同学社 出版					
履修上の留意点	授業に真面目に出席し、授業中ただ席に座っているのではなく、積極的に授業に参加すること。また、中国語が正しく発音できるまで挫折せず練習すること。					

授業科目名	韓国語 I	担当教員名	朴 鍾祐			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間		○			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-23	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 はじめて韓国語を学ぶ学生のための入門授業である。 韓国語の文字であるハングル習得から簡単な文型を覚え、実践会話に挑戦する。</p> <p>〔学修目標〕 ①ハングルの成り立ち、組み合わせ、発音をわかりやすく説明しながらハングルの読み書きを習得する。 ②日本語にとっても類似している文型を学び、あいさつことばや簡単な実践的表現を身につける。 ③韓国文化や音楽にも触れ、韓国語や韓国文化にも親しんでもらう。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	韓国語概観、ハングルについて、文字紹介		ハングル読み書き練習 課題の準備 毎回小テストの勉強		毎回60分	
第 2 回	ハングル構造① 基本子音・母音について					
第 3 回	ハングル構造② 激音、濃音、合成母音					
第 4 回	ハングル構造③ 発音法則、文字読み練習					
第 5 回	第1課 単語覚える 文法説明					
第 6 回	第1課 本文、練習問題					
第 7 回	第2課 単語覚える 文法説明					
第 8 回	第2課 本文、練習問題					
第 9 回	第3課 単語覚える 文法説明					
第 10 回	第3課 本文、練習問題					
第 11 回	第4課 単語覚える 文法説明					
第 12 回	第4課 本文、練習問題					
第 13 回	第5課 単語覚える 文法説明					
第 14 回	第5課 本文、練習問題					
第 15 回	前期 復習					
学修評価の方法 (成績割合%)	毎回課題提出(10%)、学習確認口頭テスト(20%)、単語・本文の復習小テスト(20%)、出席状況などの平常点(10%)を含み、学期末テスト(40%)をあわせて総合的に成績評価を行う。					
課題のフィード バックの方法	授業の前に課題のチェックし、また小テストを通して学習の内容を確認し、結果を返す。					
テキスト	ミニマム韓国語 高秀賢(国書刊行会)					
参考図書	なし					
履修上の留意点	①最初の数回の授業でハングル文字を読めるように必死で努力。②毎回授業の積み重ねを心がけて時間を割いて復習する。③語学を楽しむ心や異文化への好奇心を持って授業に臨む。					

授業科目名	人体構造機能学 I		担当教員名	百田 芳春			
期 間	前期		履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2 単位・60 時間			●			
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-2-1		D P 記号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 人体の仕組みと働きを講義する。人体の解剖生理を体系的に学習するために、細胞から始まり組織学、器官ごとに理解を深め、最終的に、体全体的統合的な働きを理解する。</p> <p>〔学修目標〕 各臓器の働きを、適切な解剖学的用語を用いて、説明できるようになる。そのため、体、組織、器官の構造と生理機能を合わせて理解するようにする。構造があって中身の機能が備わるため、解剖をおろそかにせずに、生理機能を丹念に理解していく。</p>						
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	解剖生理学のための基礎知識			授業内容は概ね、指定教科書に沿って展開されます。予習では、左記の授業内容を参考にして、該当する教科書の項目を通読してください。どのような臓器の何について学ぶのか確認してください。復習では理解の確認を行い、特に理解できていないところを自分で発見することが一番最初に重要な作業になります。次に、何がわからないのかを突き詰めてみましょう。このような手当を自分でしてください。わからないことは質問などを行い、早期に対処しましょう。		授業の前日に30分程度を行います。授業が終わった日に、もう一度教科書と配布物を見て、何を学んだかを15分程度かけて、確認しましょう。後日、授業内容に応じて、月に2、3回は復習を2、3時間行いましょう。	
第 2 回	解剖生理学のための基礎知識						
第 3 回	栄養の吸収と消化 概観						
第 4 回	栄養の吸収と消化 咀嚼と嚥下						
第 5 回	栄養の吸収と消化 胃の解剖生理						
第 6 回	栄養の吸収と消化 肝臓膵臓胆嚢の解剖生理						
第 7 回	栄養の吸収と消化 小腸での消化と吸収						
第 8 回	栄養の吸収と消化 大腸の働き・排便						
第 9 回	呼吸と血液の働き 上気道・咽頭・喉頭						
第 10 回	呼吸と血液の働き 肺の構造と機能						
第 11 回	呼吸と血液の働き 呼吸運動						
第 12 回	呼吸と血液の働き ガスの運搬						
第 13 回	呼吸と血液の働き 血液の組成と機能						
第 14 回	呼吸と血液の働き 赤血球						
第 15 回	呼吸と血液の働き 凝固・線溶						
第 16 回	呼吸と血液の働き 白血球の働き						
第 17 回	呼吸と血液の働き 白血球の働き						
第 18 回	免疫系 生体防御機構						
第 19 回	免疫系 生体防御機構						
第 20 回	血液の循環とその調節 概観						
第 21 回	心臓の働き						
第 22 回	末梢循環系						
第 23 回	特殊循環						
第 24 回	体液の調節 腎臓の構造と機能						
第 25 回	体液の調節 腎臓の構造と機能						
第 26 回	体液の調節 腎臓の構造と機能						
第 27 回	体液の調節 血圧の調節						
第 28 回	体液の調節 血圧の調節						
第 29 回	体液の調節 酸塩基の調節						
第 30 回	体液の調節 脈管での物質移動						
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (10%), 期末試験 (90%)						
課題のフィードバックの方法	Google Drive など遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する。						
テ キ ス ト	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院						
参 考 図 書	人体の正常構造と機能 日本医事新報社, ギャノン 生理学 (丸善株式会社), ガイトン生理学・グレイ解剖学 (ELSEVIER), Ross 組織学 (南江堂), ラングマン人体発生学 (医学書院)						
履修上の留意点	理解できているところと、理解出来ていないところを予習と復習を通して、自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。						

授業科目名	基礎看護学 I (概論)	担当教員名	奥津 文子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2 単位・30 時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-1	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護の 5 概念を基礎にして、看護・看護学の歴史の変遷と今日の看護の機能や役割、実際の活動について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 看護とは何か、現在の看護の考え方はどのような看護理論の歴史の変遷を経てきたのか、特に看護学の 5 概念（人間、環境、社会、看護目標、看護実践）を基礎に学ぶ。また、今後どのようなことが看護に期待され、看護学として発展するのかについて学ぶ。さらに、保健医療福祉行政・活動の中で、重要な役割を担う看護の位置づけ、看護の機能や役割、継続性をもって行われる看護活動について学際的視野で学ぶ。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	コースガイダンス、看護の対象①		①看護職を志望した理由についてまとめる		30分	
第 2 回	看護の対象②					
第 3 回	健康と社会		②患者とは、人間とはについてまとめる		30分	
第 4 回	看護とは①					
第 5 回	看護とは②		③社会が健康に及ぼす影響について具体例を考えまとめる		30分	
第 6 回	職業としての看護					
第 7 回	看護提供の仕組み		④看護のイメージについて		30分	
第 8 回	看護実践の現場（看護実践家より講義）		⑤看護提供の場について		30分	
第 9 回	医療と看護の歴史①		⑥看護に関連する法律		30分	
第 10 回	医療と看護の歴史②		⑦看護提供のしくみについてインターネットで調べる		30分	
第 11 回	医療と看護の歴史 発表会②		⑧実践家への質問		30分	
第 12 回	医療と看護の歴史 発表会②		⑨⑩⑪⑫グループで時間を作り、調べまとめる		2時間	
第 13 回	看護における倫理①		⑬看護師が守らなければならないことについてまとめる		30分	
第 14 回	看護における倫理②					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (80%)、課題提出状況 (20%)					
課題のフィードバックの方法	授業の中で解説する					
テ キ ス ト	系統看護学講座専門分野I基礎看護学①看護学概論 茂野香おる他 医学書院 看護をめぐる法と人権 (ナーシング・グラフィカ) メディカ出版					
参 考 図 書	随時紹介する					
履修上の留意点	無断欠席は認めない					

授業科目名	基礎看護学Ⅲ-a (生活の援助技術)	担当教員名	犀川 由紀子・太田 智美 奥津 文子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-3	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護技術とは何か、看護の対象に看護技術を用いることの意味を考える。その上で健康障害を持つ対象の療養上のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための看護技術の基本的知識と技術を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象の日常生活および治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 対象にとっても看護者にとっても安全で安楽な日常生活の援助技術を実践するための知識と技術を習得する。 3. 看護技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	コースガイダンス 看護技術とは					
第 2 回	感染予防の基礎知識		正しいマスクの装着方法、			20分
第 3 回	感染予防に対する看護技術(マスク・手洗い)		手洗い方法の自主練習			30分
第 4 回	活動・運動に関する基礎知識		基本体位、日常生活における体の使い方、動かし方の学習			30分
第 5 回	安全・環境に関する基礎知識	病床環境の整備	自分の寝床がどのようになっているか確認し環境を整える			30分
第 6 回	安全・環境に関する基礎知識	病床環境の整備	環境についてまとめる			60分
第 7 回	安全・環境に関する看護技術	①環境整備	自主練習			60分
第 8 回	安全・環境に関する看護技術	②臥床患者の体位変換・シーツ交換				
第 9 回	睡眠・休息に関する基礎知識		自身の睡眠時間・睡眠に対する満足度をふりかえる			60分
第 10 回	栄養・代謝に関する基礎知識		必要栄養摂取量についてまとめる			30分
第 11 回	栄養・代謝に関する基礎知識					
第 12 回	摂食に関する看護技術 ③食事介助の技術		食事の意義と楽しさについてまとめる			30分
第 13 回	摂食に関する看護技術 ④口腔ケアの技術					
第 14 回	技術のまとめ		自己学習(復習)			90分
第 15 回	まとめ		自己学習(復習)			90分
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(70%) 技術のまとめ(10%) 小テスト・課題・提出物(20%)					
課題のフィードバックの方法	技術のフィードバックは演習時に対面で実施。小テスト終了後は解答を解説する。課題・提出物は提出後にコメントをつけて返却する。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 看護技術プラクティス(学研)					
参 考 図 書	随時紹介する					
履修上の留意点	授業時間だけでは技術習得は不可能。自己のスケジュール管理・空き時間の有効活用による計画的な技術習得への取り組みが不可欠である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。					

授業科目名	統計学		担当教員名		高見 栄喜			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4	
単位数・時間	2単位・30時間			●				
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択					
カリキュラム記号	A-1-7		D P 記 号	DP-2				
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 医療・保健分野においても統計学が広く活用されており、特に大量の医療データから患者様にとって有効な情報を得るためには、医療従事者は統計学の基礎知識とその活用法を習得しておくことが求められる。記述統計学では、得られた標本データの分布や、その特徴を各種の統計量で要約するための技法を学ぶ。また推測統計学では、母集団から抽出された標本から得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な考え方について学ぶ。学生は、課題に対してPC等でエクセル・スプレッドシート等を使って自らが処理、文章化、グラフ化する。課題提出ファイルを作成・提出し、成績評価の資料とする。</p> <p>〔学修目標〕 統計に関する基本を理解し、その有用性と限界を知って統計資料を判断できるようにする。自らが調査・収集したデータの統計処理ができるようにする。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		必要時間		
第 1 回	はじめに、統計学とは何か			①1章1・テキスト		0.5時間		
第 2 回	医療保健分野と統計学、疫学統計を学ぶ目的			①2-3・テキスト		0.5時間		
第 3 回	-研究事例 etc.			①4-6・テキスト		1時間		
第 4 回	記述統計学			②p74-79・テキスト		0.5時間		
第 5 回	-母集団と標本、平均、標準偏差、中央値 etc.			②p80-85・テキスト		0.5時間		
第 6 回	-標本の記述：度数分布表とヒストグラム etc.			②p87-93・テキスト		0.5時間		
第 7 回	-記述統計量：平均値と期待値、分散と標準偏差 etc.			②p94-99・テキスト		0.5時間		
第 8 回	-統計の基本用語、具体例 etc.			③p48-61・テキスト		0.5時間		
第 9 回	-国家試験問題（保健師）の演習 etc.			資料・テキストの予習と復習		1.5時間		
第 10 回	中間試験			資料・テキストの復習		1.5時間		
第 11 回	統計的検定の基礎について（演習）			①2章1-2・テキスト		0.5時間		
第 12 回	-パラメトリック検定法、相関関係 etc.			①3章1-3・テキスト		0.5時間		
第 13 回	-医療、福祉分野での応用、課題演習 etc.			①4章2-3・テキスト		0.5時間		
第 14 回	実技演習試験			資料・テキストの復習		1.5時間		
第 15 回	まとめ			資料・テキストのまとめ		0.5時間		
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験（約50%）、中間・実技試験等（約30%）、授業中の態度・貢献度、出欠等（約20%）							
課題のフィード バックの方法	小テスト・中間テスト・実技演習試験等は、次講義以降に復習やフィードバックをする。							
テ キ ス ト	白戸亮吉、鈴木研太著「ていねいな保健統計学」羊土社。							
参 考 図 書	①山蔭道明監修、及川慶浩著「超入門らしく使えるはじめての統計学」メディカ出版。②福富和夫・橋本修二著「保健統計・疫学5版」南山堂。③横川博英監修、藤林和俊著「統計と臨床疫学」学研メディカル秀潤社。④山田実編「メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法」羊土社。							
履修上の留意点	統計学は、科学的研究や思考、またEBMの基礎を支えます。1つ1つ着実に理解し、医療・看護・保健分野での応用や研究活動に、ぜひ活かせるようになってください。							

授業科目名	心理学	担当教員名	花村 カテリーナ			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授業形態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-8	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 患者を理解するためにはまず自分を理解することが大切である。私たちの心の仕組みと人格の形成・発達について基本的な知識を幅広く教授する。心理学の古典的研究に加えて最新の研究成果を概観するとともに、心の働きの生物学的基礎についても教授する。</p> <p>[学修目標] 1. 感覚・知覚・注意・記憶・思考・行動・学習・動機づけ・感情などの心の仕組み、その発達および生物学的基盤について理解する。 2. 対人関係と集団における人の心理と行動の特徴について理解する。 3. 人格の形成と発達について概観をつかむ。 4. ストレスの心理的・生理的側面について理解する。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・心とは		各回とも、テキストならびに講義資料を復習してください。		各回とも 30分程度	
第 2 回	感覚・知覚					
第 3 回	注意					
第 4 回	記憶					
第 5 回	思考・意思決定					
第 6 回	知能					
第 7 回	行動・学習					
第 8 回	感情・動機づけ					
第 9 回	性格					
第 10 回	自己と他者					
第 11 回	集団の心					
第 12 回	心の発達とライフサイクル論					
第 13 回	心の発達と無意識					
第 14 回	心と身体：気分・ストレス・トラウマ					
第 15 回	心を知る方法					
学修評価の方法 (成績割合)	授業参加度 (30%)、小テスト (30%)、期末試験 (40%)					
課題のフィード バックの方法	Google drive 等の遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する。					
テ キ ス ト	「系統看護学講座基礎分野 心理学」 山村豊 (代表著者) 医学書院 2017 年					
参 考 図 書	「心理学入門-心理学はこんなに面白い」 サトウタツヤ・渡邊芳之著 有斐閣アルマ 2011 年					
履修上の留意点	自分や他者の心について理解を深めるための手がかりがたくさん詰まった授業です。各回とも「何かひとつ自分について発見をしてみよう」という気持ちで臨むと良いです。					

授業科目名	人間と生き方 (哲学)	担当教員名	山本 道雄			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-9	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 この講義では「人間と生き方」というテーマを、将来医療職に就かれる皆さんの関心に応じて、「科学・社会・医療」という切り口から具体的に考えていきます。特に現代科学・技術の根底にある特定の自然観を取り出すようにします。後半では脳死と臓器移植の問題について少し詳しく見ていきます。</p> <p>〔学修目標〕 科学という営み（医療もここに含まれます）の意味を世界と人間との関わりのなかから捉え直すのが、この講義の目的です。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	はじめに 文化=耕作=破壊 農業革命 「柔らかな自然観」vs「硬い自然観」 環境問題の二側面 様々な自然観 — 東洋的・ギリシア的・キリスト教的 科学革命 「自然は人間の作品である」という命題について 決定論的世界観 非決定論的世界観 現代の心の哲学（機能主義・ダマシオの情動説） 三つの脳死概念 アメリカにおける脳死・臓器移植の展開	各テーマに関して講義中に指示した問題について資料・文献等で調べてくこと。	1時間程度			
学修評価の方法 (成績割合%)	出席は期末試験受験のための必要条件。単位認定は期末試験によってのみ判定。					
課題のフィード バックの方法	Google Meet の Class Room を利用して理解度を確認し、必要なアドバイスを与えるようにする。					
テ キ ス ト	柘植尚則、ブレップ倫理学、弘文堂					
参 考 図 書	講義中に適宜紹介します。					
履修上の留意点	ノートをしっかりとって下さい。					

授業科目名	社会と家族	担当教員名	西村 由実子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-10	D P 記号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 人は社会の中に生まれ、日常生活における他者との相互作用の中で様々な行動様式・規範を身につける。家族はその社会を構成する基本的な単位の一つである。多様かつダイナミックに変化し続ける現代社会と家族のあり様を家族社会学の視点を通して学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する諸理論を理解する 2. 現代の社会と家族が抱える課題と解決のための方法を探る 3. 家族研究の方法を理解する 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス		好きな季節を考える		30分	
第 2 回	家族の構造と機能		(a)はじめに通読		30分	
第 3 回	日本の近代家族論		(a)第1,2章通読		30分	
第 4 回	家族の比較文化論		課題「この社会を通じて」		30分	
第 5 回	家族の人口学		(a) 第3章通読		30分	
第 6 回	多様化する家族 (1)		(a) 第4章通読		30分	
第 7 回	多様化する家族 (2)		(a) 第5章通読		30分	
第 8 回	中間テスト		第1-7回の復習		30分	
第 9 回	ジェンダーとセクシュアリティ		(a)第7章通読		30分	
第 10 回	ファミリー・バイオレンス		(a)第8,10章通読		30分	
第 11 回	子育てと介護		(b)3章通読		30分	
第 12 回	コミュニティと地域社会		(b)7章通読		30分	
第 13 回	国家と国際社会		(b) 8章通読		30分	
第 14 回	疾病・災害と遺児		“シンプルギフト”パンフ通読		30分	
第 15 回	家族研究の方法・まとめ		第1-14回の総復習		30分	
学修評価の方法 (成績割合)	出席 (15%)、中間テスト (20%)、レポート (15%)、定期試験 (50%)					
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、レポート等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テキスト	講義の中で適宜プリントを配布する。					
参考図書	井上眞理子編『家族社会学を学ぶ人のために』世界思想社・(a) 平野ら編『ナーシング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活』メディカ出版 (最新版)・(b)					
履修上の留意点	履修希望者は第1回ガイダンスに必ず出席してください。 自分自身やクラスメンバー、社会についての小さな気づきを大切に学びましょう。					

授業科目名	芸術		担当教員名		吉村 誠			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4	
単位数・時間	2単位・30時間			○				
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択					
カリキュラム記号	A-1-11		D P 記 号	DP-1				
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>音楽や映像は、人間のさまざまな感情を表現したり誘発したりすることによって、心と身体の健康を大きく向上させます。この授業では音楽や映像を創造する人の立場から捉えることで、それらを意識的に使いこなす術を体得することを目指し、看護対象者への心身のケアをはかる方法を学びます。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>看護師には看護対象者への共感能力が必要です。この授業では、人間の共感能力の基である「聴く力」と「観る力」を高め、看護の現場で音楽や映像を使いこなせることを目標とします。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容				必要時間	
第 1 回	看護は人間学。看護対象への心身の共感力。		「探偵ナイトスクープ」確認				30分	
第 2 回	映画『君に読む物語』から、恋愛と老人医療。		『君に読む物語』確認				1時間	
第 3 回	人間の身体の記憶・5感の発生の人類史。		『私の頭の中の消しゴム』				30分	
第 4 回	映画『魔女の宅急便』から「私」とは何か。		『魔女の宅急便』確認				1時間	
第 5 回	ヒトは真似をすることが出来る生き物である。		LGBTQとは何かを調べる				30分	
第 6 回	映画『リリーのすべて』からLGBTQについて。		『リリーのすべて』確認				1時間	
第 7 回	「ことば」とは「話すオトのことば」である。		「母語」を確認自覚する				30分	
第 8 回	映画『フラガール』から母語と方言について。		『フラガール』確認				1時間	
第 9 回	人類の歴史から「人間の身体」を知る。		教科書 7p～14p 予習				1時間	
第 10 回	人間の「子育て」と「集団化」の歴史。		教科書 179p～183p 予習				30分	
第 11 回	「音楽」と「踊り」が共感能力を育てる。		「家族」の思い出の歌を選ぶ				30分	
第 12 回	「家族」や「共同体」を思い出す楽曲。		童謡・Jpop・Kpopを聴く				1時間	
第 13 回	「ことば・音楽」は仲間を作るために在る。		「音楽する」ことを経験する				30分	
第 14 回	人の言語学習と音楽知覚と共感能力について。		乳幼児や老人への発声練習				30分	
第 15 回	良い看護師とは「人間」を良くわかる人。		『私の1曲』CDを作成する				1時間	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席回数と受講態度・50% (私語が多いと減点) 課題 50%(表現力を評価)							
課題のフィード バックの方法	提出された課題をコメント付きで返却します。							
テ キ ス ト	吉村誠『お笑い芸人の言語学』(ナカニシヤ出版)							
参 考 図 書	正高信男『ヒトはいかにして人になったか』(岩波書店)							
履修上の留意点	興味と好奇心を持って音楽や映像を視聴してください。							

授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	西垣 有夏			
期間	後期	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	1 単位・30 時間		●			
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-16	D P 記号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 英語Ⅱでは、英語のリスニングとスピーキングを CD 聴解やタスクを通してトレーニングしていく。</p> <p>〔学修目標〕 英語で、生活一般に関するコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。</p>					
授業回数	授業の内容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第 1 回	ガイダンス / Unit 1					
第 2 回	Unit 1 Hi, is this seat taken?					
第 3 回	Unit 2 That's a lovely T-shirt.	単語学習			60 分	
第 4 回	Unit 2 / Unit 3 Pardon	単語学習			60 分	
第 5 回	Unit 3 / Unit 4 I really enjoy it.	単語学習			60 分	
第 6 回	Unit 4 / Unit 6 How about you?	単語学習			60 分	
第 7 回	Unit 6	復習			60 分	
第 8 回	(中間テスト) / Unit 7 Thank you so much	単語学習			60 分	
第 9 回	Unit 7 / Unit 11	単語学習			60 分	
第 10 回	Unit 11 / Unit 12 How about next Sunday?	単語学習			60 分	
第 11 回	Unit 12 How about next Sunday?	単語学習			60 分	
第 12 回	Unit 13 I'll think about it.	単語学習			60 分	
第 13 回	Unit 13 / Unit14 That's a good idea, but...	単語学習			60 分	
第 14 回	Unit 14	単語学習			60 分	
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	課題(中間テスト)(40%),小テスト(20%),期末テスト(40%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive 等を用いて適正に行う。					
テキスト	大谷麻美ほか著, "Keep Talking [New edition]," 桐原書店					
参考図書						
履修上の留意点	スピーキング課題に積極的に取り組むようにしてください。					

授業科目名	中国語Ⅱ		担当教員名				孫 涛			
期 間	後期		履 修 学 年				1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間						○			
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択							
カリキュラム記号	A-1-22		D P 記 号				DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 中国語Ⅰに引き続き、テキストを音読させ、中国語の基礎となる文字語彙・文法・文型を学ぶ。授業では、「読む・聞く・話す・書く」の四技能のうち、「聞く・話す」の練習に重点を置く。また、現代中国の社会や文化などについても適宜紹介する。</p> <p>〔学修目標〕 この授業では、前期で学んだ内容を基礎に、中国語での日常会話能力の向上を目指す。</p>									
授 業 回 数	授 業 の 内 容				授業時間外(準備学修)の内容				必要時間	
第 1 回	第6課 いっしょに遊びに出かける				特になし				30分	
第 2 回	第6課 いっしょに遊びに出かける				授業内容の予習・復習				30分	
第 3 回	第7課 花火は何時から?				授業内容の予習・復習				30分	
第 4 回	第7課 花火は何時から?				授業内容の予習・復習				30分	
第 5 回	第8課 学園祭				授業内容の予習・復習				30分	
第 6 回	第8課 学園祭				授業内容の予習・復習				30分	
第 7 回	第9課 カラオケに行く				授業内容の予習・復習				30分	
第 8 回	第9課 カラオケに行く				授業内容の予習・復習				30分	
第 9 回	第10課 中国の映画を見る				授業内容の予習・復習				30分	
第 10 回	第10課 中国の映画を見る				授業内容の予習・復習				30分	
第 11 回	第11課 帰国を前にして				授業内容の予習・復習				30分	
第 12 回	第11課 帰国を前にして				授業内容の予習・復習				30分	
第 13 回	第12課 空港で				授業内容の予習・復習				30分	
第 14 回	第12課 空港で				授業内容の予習・復習				30分	
第 15 回	後期まとめ・到達度確認				授業内容の予習・復習				30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	普段の小テスト及び課題 50%、定期テスト 50% を合わせて成績を評価する。									
課題のフィード バックの方法	課題配布後、翌週回収する。									
テ キ ス ト	『中国語1年目』 緒方昭 小林光考 胡慶華 (白水社) 出版									
参 考 図 書	相原茂・石田知子・戸沼市子『中国語の文法書』 同学社 出版									
履修上の留意点	授業に真面目に出席し、授業中ただ席に座っているのではなく、積極的に授業に参加すること。また、中国語が正しく発音できるまで挫折せず練習すること。									

授業科目名	韓国語Ⅱ		担当教員名		朴 鍾祐			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4	
単位数・時間	1 単位・30 時間			○				
授 業 形 態	講 義		●-必修・○-選択					
カリキュラム記号	A-1-24		D P 記 号	DP-1				
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 韓国語Ⅰに続きの授業となる。ハングル文字に慣れつつ、様々な動詞の活用を使って多様な場面での基礎文型を学習する。そのうえ、旅行先でもすぐ使える簡単実践会話も同時身につけて韓国語を楽しめるとともに、歌や韓国文化にも触れ、総合的韓国語の理解を目指す。</p> <p>〔学修目標〕 1) 初級韓国語からより多様な文型を覚え、日常的簡単な会話も駆使できるようにする。 2) 毎回語彙テストを行い語彙力強化することで多様な表現を目指す。 3) 韓国の音楽や映画にも適宜触れ総合的韓国語の向上を目指す。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間		
第 1 回	前期の復習		ハングル読み書き練習 課題の準備 毎回小テストの勉強			毎回60分		
第 2 回	第6課 単語、文法説明 (己語幹の活用)							
第 3 回	第6課 文法練習 本文練習							
第 4 回	第7課 単語、文法説明 (用言の否定表現)							
第 5 回	第7課 文法練習 本文練習							
第 6 回	第8課 単語、文法説明 (敬語表現)							
第 7 回	第8課 文法練習、本文練習							
第 8 回	第9課 単語説明、文法、(数詞、可能形)							
第 9 回	第9課 文法練習、本文							
第 10 回	第10課 単語説明、文法、(動詞の連体形)							
第 11 回	第10課 文法練習、本文							
第 12 回	第11課 単語説明、文法、本文 (イエ体)							
第 13 回	第11課 文法練習、本文							
第 14 回	第12課 単語、本文説明 (形容詞連体形)							
第 15 回	第12課 文法練習、本文							
学修評価の方法 (成績割合%)	毎回課題提出 (10%)、学習確認口頭テスト (20%)、単語・本文の復習小テスト (20%)、出席状況などの平常点 (10%) を含み、学期末テスト (40%) をあわせて総合的に成績評価を行う							
課題のフィード バックの方法	授業の前に課題のチェックし、また小テストを通して学習の内容を確認し、結果を返す。							
テ キ ス ト	ミニマム韓国語 高秀賢 (国書刊行会)							
参 考 図 書	なし							
履修上の留意点	毎回授業の積み重ねが大事。時間をかけて復習する。語学を楽しむ心と好奇心をもって臨む							

授業科目名	人体構造機能学Ⅱ		担当教員名	百田 芳春			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2 単位・60 時間			●			
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-2-2		D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 人体の仕組みと働きを講義する。人体の解剖生理を体系的に学習するために、細胞から始まり組織学、器官ごとに理解を深め、最終的に、体全体的の統合的な働きを理解する。</p> <p>〔学修目標〕 各臓器の働きを、適切な解剖学的用語を用いて、説明できるようになる。そのため、体、組織、器官の構造と生理機能を合わせて理解するようにする。構造があつて中身の機能が備わるため、解剖をおろそかにせずに、生理機能を丹念に理解していく。</p>						
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必 要 時 間		
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 30 回	身体の指示と運動 体幹の骨と筋 身体の指示と運動 上肢の骨と筋 身体の指示と運動 下肢の骨と筋 身体の指示と運動 骨の組成・筋収縮 身体の指示と運動 関節の運動 内臓機能の調節 内分泌系 内臓機能の調節 内分泌系 内臓機能の調節 内分泌系 内臓機能の調節 内分泌系 内臓機能の調節 内分泌系 情報の受容と処理 神経系概観 情報の受容と処理 膜電位と活動電位 情報の受容と処理 シナプスと神経伝達物質 情報の受容と処理 脳の主な機能 情報の受容と処理 脳の主な機能 情報の受容と処理 脊髄神経 情報の受容と処理 脳神経 情報の受容と処理 脳神経 情報の受容と処理 反射 情報の受容と処理 眼の働き 情報の受容と処理 耳の働き 情報の受容と処理 味覚・嗅覚・記憶など 情報の受容と処理 上行路と下行路 情報の受容と処理 姿勢保持 身体機能の防御と適応 皮膚と体温調節 生殖発生と老化の仕組み 男性生殖器、女性生殖器 精子・卵子の作られ方 性周期 受精卵と着床後の発生過程について 成長と老化		授業内容は概ね、指定教科書に沿って展開されます。予習では、左記の授業内容を参考にし、該当する教科書の項目を通読してください。どのような臓器の何について学ぶのか確認してください。復習では理解の確認を行い、特に理解できていないところを自分で発見することが一番最初に重要な作業になります。次に、何がわからないのかを突き詰めてみましょう。このような手当を自分でしてください。わからないことは質問などを行い、早期に対抗しましょう。		授業の前日に30分程度を行いましょう。授業が終わった日に、もう一度教科書と配布物を見て、何を学んだかを15分程度かけて、確認しましょう。後日、授業内容に応じて、月に2,3回は復習を2,3時間行いましょう。		
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (10%), 期末試験 (90%)						
課題のフィードバックの方法	Google Drive など遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する。						
テ キ ス ト	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院						
参 考 図 書	人体の正常構造と機能 日本医事新報社, ギャノン 生理学 (丸善株式会社), ガイトン生理学・グレイ解剖学 (ELSEVIER), Ross 組織学 (南江堂), ラングマン人体発生学 (医学書院)						
履修上の留意点	理解できているところと、理解できていないところを予習と復習を通して、自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。						

授業科目名	生化学		担当教員名	芝崎 誠司・唐崎 美樹			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●			
授 業 形 態	講義			●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-3		D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 体内での物質変化と代謝系機能を中心に、栄養や臨床検査等の関連について解説する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体を構成する成分である糖・脂質・タンパク質の役割を理解する。 2. エネルギーの代謝とホメオスタシスについて学び、これらの異常がどのように疾患と関連するのかを理解する。 3. 遺伝情報の流れを学び、遺伝子の変異がもたらす疾患について理解を深める。 						
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	生体の成り立ちと生体分子			高等学校履修内容の復習			2
第 2 回	タンパク質の性質			高等学校履修内容の復習			2
第 3 回	酵素の性質と働き			高等学校履修内容の復習			2
第 4 回	糖質の代謝 1			高等学校履修内容の復習			2
第 5 回	糖質の代謝 2			高等学校履修内容の復習			2
第 6 回	脂質の代謝 1			高等学校履修内容の復習			2
第 7 回	脂質の代謝 2			高等学校履修内容の復習			2
第 8 回	タンパク質の代謝			高等学校履修内容の復習			2
第 9 回	生化学的診断			高等学校履修内容の復習			2
第 10 回	ホルモン			高等学校履修内容の復習			2
第 11 回	遺伝子のはたらき 1			高等学校履修内容の復習			2
第 12 回	遺伝子のはたらき 2			高等学校履修内容の復習			2
第 13 回	遺伝子のはたらき 3			高等学校履修内容の復習			2
第 14 回	病気と生化学			高等学校履修内容の復習			2
第 15 回	まとめ			高等学校履修内容の復習			2
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 90%, 演習 10%						
課題のフィード バックの方法	講義内で演習の解答、解説を行う。						
テ キ ス ト	「ここが知りたい 生化学～生命のふしぎを理解する～」芝崎誠司(学術研究出版)2018年						
参 考 図 書	「Essential 細胞生物学(原書第4版)」中村桂子、松原謙一(南江堂)2016年						
履修上の留意点	双方向の講義を心がけますので、学生諸君の積極的な発言を期待します。						

授業科目名	病態治療学 I (総論)	担当教員名	川口 哲郎			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-2-4	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要] 看護を学ぶにおいて基礎となる病理総論的な考え方を説明し、炎症、免疫、腫瘍、細胞・組織とその障害や再生と修復、循環障害、免疫とアレルギー、先天異常などの総括的病変について教授する。(病理病態論)。種々の症候とその機序および、それぞれの症候を呈する疾患を説明する。(病態症候論)</p> <p>[学修目標] 1. 病態に関する医学用語が正しく理解できる。 2. 看護の基盤となる、各疾患の病理の総論的なことが理解できる。 3. 種々の症候を説明でき、その原因疾患を列記できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>病理病態論 1. バイタルサイン 2. 体液の異常 3. 血行障害、炎症と修復 4. 免疫および免疫疾患 5. 感染 6. 変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成 7. 先天異常、代謝異常 8. 代謝異常、前半テストと解説</p> <p>病態症候論 9. 咳嗽・喀痰・咯血、呼吸困難、胸痛 10. 不整脈、チアノーゼ、ショック 腹痛、肥満、やせ、食欲不振、嚥下障害 11. 嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢、腹部膨満、腹水、黄疸、貧血 12. 出血傾向、リンパ節腫脹、皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、運動失調 13. 歩行障害、嘔声、めまい、視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、感覚障害、しびれ、腰痛、関節症状 14. 発熱・低体温、浮腫、脱水、排尿異常、尿量異常、尿所見異常 15. 睡眠障害、倦怠感、後半テストと解説</p>		<p>授業の内容に該当するところをテキストと配布したレジメに目を通しておく。</p>			<p>各回ごとに 30~60分</p>
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況、レポート提出状況、前半・後半テストの結果などを参考にして、期末テストの結果を中心に(90%以上の割合)成績評価を行う。 オンライン授業が行われた場合、レポート形式に変更になる可能性あり					
課題のフィードバックの方法	授業中に小テスト(2回)を行い終了後に答え合わせと解説をする。 レポートは提出後に解答例を配布する。					
テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 疾患の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版					
参 考 図 書	系統看護学講座 疾患の成り立ちと回復の促進(1) 病理学 医学書院 看護のための臨床病態学 南山堂					
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください					

授業科目名	食生活と看護	担当教員名	關戸 啓子・竹市 仁美			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間		●			
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-13	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について学習する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義を理解する。 2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法を理解する。 3. 栄養アセスメントの意義と方法を理解する。 4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活を理解する。 5. 疾病回復のための食事療法についての根拠と方法を理解する。 6. 疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を理解する。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	栄養とは (1) : 栄養と栄養素		各回、その時間に学習する授業の内容に該当するテキストのページを事前に読んでおいてください。また、授業は前回の知識に積み上げていく内容ですから、前回学習した要点を自分でノート (A4 サイズで1~2ページ) にまとめておいてください。			各回 90分
第 2 回	栄養とは (2) : 栄養素の分類					
第 3 回	検査食、治療による回復を促すための食事					
第 4 回	経口摂取できない患者のための栄養管理					
第 5 回	日本人の食事摂取基準					
第 6 回	栄養アセスメント					
第 7 回	食文化					
第 8 回	人生各期における健康生活と栄養					
第 9 回	運動と栄養					
第 10 回	疾患を治療するための食事 (1) : 消化器系疾患					
第 11 回	疾患を治療するための食事 (2) : 内分泌、代謝疾患					
第 12 回	疾患を治療するための食事 (3) : 循環器、腎疾患					
第 13 回	嚥下障害のある人のための食事					
第 14 回	食事指導・食育の実際					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	授業の区切りで数回実施する小テストの結果 (100%) で成績評価を行います。					
課題のフィード バックの方法	小テストを実施した次の回の授業で、フィードバックを行います。					
テ キ ス ト	關戸啓子編：ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学、メディカ出版 東あかね他編：社会・環境と健康 健康管理概論 第3版、講談社サイエンティフィク					
参 考 図 書	授業中に適宜紹介します。					
履修上の留意点	小テストについて授業の初回に説明します。小テストの日は特に欠席しないよう気を付けてください。					

授業科目名	福祉教育の本質		担当教員名		松岡 広路			
期 間	後期		履 修 学 年	1	2	3	4	
単位数・時間	2単位・30時間			○				
授 業 形 態	講義+ワークショップ		●-必修・○-選択					
カリキュラム記号	A-2-14		D P 記 号	DP-3				
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 生涯にわたる教育や ESD（持続可能な開発のための教育）の中核としての福祉教育・ボランティア学習の理論・実践枠組みを概説し、そこでの「学びの型（かた）」を体験するワークショップを実施する。</p> <p>〔学修目標〕 福祉教育・ボランティア学習の現代的意義、理念、目的を理解するとともに、ワークショップなどのアクティブラーニングを体験しつつ、福祉教育・ボランティア学習の実際や新しい教育の方法論・技法への理解と関心を深める。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容				必要時間	
第 1 回	福祉教育・ボランティア学習の魅力							
第 2 回	生涯教育としての福祉教育 1		前回の復習				0.5H	
第 3 回	生涯教育としての福祉教育 2		前回の復習				0.5H	
第 4 回	脱学校論を基盤とする実践		前回の復習				0.5H	
第 5 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 1		前回の復習				0.5H	
第 6 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 2		前回の復習				0.5H	
第 7 回	ニューエイジング時代の福祉教育		前回の復習				0.5H	
第 8 回	インクルーシヴ社会における実践		前回の復習				0.5H	
第 9 回	災害支援と福祉教育・ボランティア学習		前回の復習				0.5H	
第 10 回	福祉教育づくりワークショップ 1		前回の復習				0.5H	
第 11 回	福祉教育づくりワークショップ 2		前回の復習				0.5H	
第 12 回	福祉教育づくりワークショップ 3		前回の復習				0.5H	
第 13 回	ESD とボランティア 1		前回の復習				0.5H	
第 14 回	ESD とボランティア 2		前回の復習				0.5H	
第 15 回	総括討議		前回の復習				2H	
学修評価の方法 (成績割合%)	毎回の授業のリフレクションペーパーと総括レポートによって評価する (概ね、優 30% 良 50% 可 20%を目安とする)							
課題のフィード バックの方法	授業の冒頭でのリフレクションシートへのコメントタイムを設けるとともに、第 15 回の授業で総括 レポートシェアリングワークショップを行う							
テ キ ス ト	使用しない							
参 考 図 書	フレイレ『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011 松岡広路『生涯学習論の探究』学文社、2006 など							
履修上の留意点	ワークショップ形式を取り入れるので、遅刻・欠席をしないように。							

授業科目名	基礎看護学Ⅱ (フィジカルアセスメントの技術)	担当教員名	奥津 文子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・45時間		●			
授業形態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-2	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 医療現場におけるコミュニケーションの目的・意義について教授し、看護師と患者および家族、看護師と他職種、患者と重要な他者との間で信頼関係が形成されるようなコミュニケーション技法を教授すると共に、効果的・効率的にアセスメントするためのもう問診の技法を演習を通して享受する。さらに、臨床における看護判断の根拠となる身体に関する情報の必要性とその意味について理解し、身体アセスメントの知識・技術・態度を教授する。</p> <p>[学修目標] 1. コミュニケーションとは何かについて理解し、医療・看護における効果的なコミュニケーションの重要性を考える。 2. 情報収集を効果的に行うためのコミュニケーション技術を身に着ける。 3. 看護診断過程のアセスメント段階における情報収集の意義と目的を理解する。 4. フィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、身体各部のアセスメントに必要な基本的フィジカルアセスメントの知識・技術・態度について学ぶ。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	コミュニケーションとは 医療・看護における効果的なコミュニケーション情報収集の技術		「コミュニケーションとは」についてまとめる		30分	
第 2 回	看護診断過程のアセスメント段階における情報収集の意義と目的		効果的な情報収集の方法についてまとめる		30分	
第 3 回	看護診断過程のアセスメント段階における情報収集の意義と目的		看護診断過程と情報収集の関連についてまとめる		1時間	
第 4 回	フィジカルアセスメントの目的と方法		体験したことのあるフィジカルアセスメントについて		30分	
第 23 回	“第4回～23回 *フィジカルアセスメントの実際 1) 口腔、皮膚・爪のアセスメント 2) 腹部のアセスメント 3) 胸部のアセスメント 4) 骨・筋肉・神経系のアセスメント 5) 全身の系統的アセスメントの実際 (NEV 演習)		フィジカルアセスメント技術の反復練習		各授業前 30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (80%)、課題提出状況 (20%)					
課題のフィードバックの方法	授業の中で解説する					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 医学書院					
参考図書	随時紹介する					
履修上の留意点	無断欠席は認めない。講義および演習に主体的・積極的に参加し、今後の学習に役立てること。					

授業科目名	基礎看護学Ⅲ-b (生活の援助技術)	担当教員名	犀川 由紀子・太田 智美 奥津 文子			
期間	後期	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・60時間		●			
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-4	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 健康障害を持つ対象の療養上のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための看護技術の基本的知識と技術を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象の日常生活および治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 対象にとっても看護者にとっても安全で安楽な日常生活の援助技術を実践するための知識と技術を習得する。 3. 看護技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。 					
授業回数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回	コースガイダンス 健康管理に関する基礎知識	血圧測定に使う動脈の名称と	30分			
第 2 回	健康管理に関する基礎知識 バイタルサイン	走行について調べる				
第 3・4 回	健康管理に関する基礎知識 バイタルサイン	バイタルサインの自主練習	90分/週			
第 5・6 回	健康管理に関する看護技術 バイタルサイン					
第 7・8 回	感染予防の基礎知識 ガウンテクニック他	テキストを読み事前学習	30分			
第 9・10 回	感染予防の基礎知識 洗淨・消毒・滅菌					
第 11 回	感染予防技術 ガウンテクニック 滅菌手袋	滅菌手袋の着脱の自主練習	30分			
第12・13回	清潔の援助に関する基礎知識	皮膚の構造と機能(解剖生理学)の復習	60分			
第14・15回	清潔の援助に関する基礎知識 清拭・寝衣交換	清潔(入浴)動作の具体化	30分			
第16・17回	清潔の援助に関する基礎知識 洗髪・足浴	排尿・排便のメカニズム	60分			
第18・19回	排泄の援助に関する基礎知識	排泄習慣の振り返りと観察				
第20・21回	排泄/清潔の援助に関する計画立案(陰部洗淨/部分清拭/更衣)	援助計画立案・修正	30分			
第22・23回	排泄/清潔の援助に関する看護技術	復習	60分			
第24・25回	活動・運動に関する基礎知識 移乗・移送	移乗・移送に使用する物品の	30分			
第26・27回	活動・運動に関する看護技術	名称を覚える				
第28・29回	技術のまとめ	技術の自主練習	60分/週			
第 30 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(70%) 技術のまとめ・小テスト・課題・提出物(30%)					
課題のフィード バックの方法	技術のフィードバックは演習時に対面で実施。小テスト終了後は解答を解説する。課題・提出物は提出後にコメントをつけて返却する。計画立案など個人の意見やグループで話し合った内容の共有ができるように遠隔教育システムを活用し、全体の意見としてまとめ、ドライブに更新する。					
テ キ ス ト	系統看護学講座専門分野I基礎看護技術I、基礎看護技術II(医学書院) 看護技術プラクティス(学研)					
参 考 図 書	随時紹介する					
履修上の留意点	授業時間だけでは看護技術の習得は不可能。自己のスケジュール管理・空き時間の有効活用による計画的な技術習得への取り組みが不可欠である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。					

授業科目名	看護学原論	担当教員名	江川 隆子 小平 京子・下舞 紀美代			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1 単位・30 時間		●			
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-7	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>看護理論の講読を通して、看護の5概念について教授する。さらに、看護とは何か、看護の歴史、看護教育の歴史、看護理論の変遷、看護の哲学と倫理、看護をとり巻く医療行政および医療状況、また看護に対する社会のニーズなど多軸的な観点からも教授する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> それぞれの看護理論の特徴を学ぶことができる。 看護理論の現在の看護実践への影響について学ぶことができる。 看護理論の講読や討論を通して、看護観とは何かを学ぶことができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	看護理論の読み方について①		各回事前のテキスト 講読 配布資料の復習			各回 60分
第 2 回	看護理論の読み方について②					
第 3 回	看護理論について ナイチンゲールの看護論を通して①					
第 4 回	看護理論について ナイチンゲールの看護論を通して②					
第 5 回	看護理論について ヘンダーソンの看護論を通して①					
第 6 回	看護理論について ヘンダーソンの看護論を通して②					
第 7 回	看護理論について オレムの看護論を通して①					
第 8 回	看護理論について オレムの看護論を通して②					
第 9 回	看護理論について オレムの看護論を通して③					
第 10 回	看護理論について ロイの看護論を通して①					
第 11 回	看護理論について ロイの看護論を通して②					
第 12 回	看護理論について ロイの看護論を通して③					
第 13 回	看護理論について ロイの看護論を通して④					
第 14 回	看護理論の現在の看護への影響について					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (80%)、レポート (20%)					
課題のフィード バックの方法	個別指導					
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・V.ヘンダーソン著/湯楨ます他 訳 (2012): 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会. ・小玉香津子・尾田葉子訳 (2014): フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会. ・コニー・M・デニス著/小野寺杜紀 監訳 (2012): オレム看護論入門 セルフケア不足看護理論へのアプローチ, 医学書院. ・ヒューサー A. アンドリュース シスター C. ロイ著/松本光子 監訳 (2010): ロイ適応看護論入門, 医学書院. ・看護をめぐる法と制度 (ナーシング・グラフィカ) メディカ出版 					
参 考 図 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ライダー島崎玲子他編著 (2013): 看護学概論 看護追及へのアプローチ, 医歯薬出版. 					
履修上の留意点						

授業科目名	成人看護学 I (概論)	担当教員名	神谷 千鶴			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間		●			
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-18	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 成人期にある人を全人的（身体・心理・社会的な統合体）にとらえ、生活者としての健康の維持・破綻・回復過程における特性及び健康問題の特徴の理解を図り、看護を実践するための理論的知識を学習する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の対象である成人を、成長・発達の見点から理解する。 2. 成人期にある人の家族および社会における役割とともに、成人の健康・福祉に係る法律・制度・政策について理解する。 3. 成人の健康のとらえ方と健康障害の特性を理解する。 4. 成人看護の目標および役割と機能を理解する。 5. 健康障害によって生じる成人の反応や現象を説明する理論やモデルを理解し、健康レベルに応じた看護実践の考え方を理解する。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	成人看護の目標(成人とは、成人期の特徴)		教科書の当該ページを読んでくる。(全回)			30分
第 2 回	成人をとりまく今日の状況：家族・仕事・日常生活・環境問題・死生観)					
第 3 回	成人期にある人の健康(健康とは、成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策と今日の健康課題)					
第 4 回	成人期にある人の健康(生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティ・更年期に関連する健康障害))					
第 5 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方・					
第 6 回	成人の反応や現象を説明する理論やモデルの理解(ケアリング、エンパワメント、パートナーシップ、ストレスコーピング、危機、セルフケア、セルフエフィカシー、アンドラゴジー)					
第 7 回	健康状態に応じた看護(ヘルスプロモーション、生活機能障害、急性期、慢性期、終末期)					
第 8 回	成人看護を充実させる実践的環境看護者の倫理綱領					
学修評価の方法 (成績割合)	筆記試験 60%・レポート課題 30%・小テスト 10%により総合的に評価する。					
課題のフィードバックの方法	小テストはその時間のうちに解答解説を行う。レポート課題については評価指標に基づき点数化し、個別に返却を行う。筆記試験は後日解答解説の時間を設ける。					
テ キ ス ト	林直子他編集(2020)：成人看護学概論(改訂第3版)，南江堂，東京。					
参 考 図 書	基礎看護学概論、看護学原論で使用したテキストおよび資料					
履修上の留意点	☆小テストは適宜、授業時間内で Google classroom から解答してもらうので、通信環境を整えておくこと。					

授業科目名	人間関係論	担当教員名	栗井 光代			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			○		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-1-12	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 人間の社会性を支える心の特性について、基本的な知識を幅広く教授する。さらに、学習者自身の日常経験を踏まえつつ、他者の心的状態を理解し、共感するときの心の働きはどのようなものか、自己と他者はどのように区別されるのか、人間社会はどのように成立し、存続しうるのか、等の問題について社会心理学などの知見を中心に教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会性という観点から、私たちの心の働きにはどのような基本的特徴があるのか理解できる。 2. よりよい人間関係を築くための基本的な知識を理解できる。 3. 他者の心について理解し、組織の活動にかなった人間関係・社会集団を形成するうえで必要な視点が何か理解できる。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・心の働きとは		授業ごとに、予習・復習の内容を説明します。(人間関係論は人、生活に関係している。日々の生活の中で起こっていることを意識できるようにすること。そのことが授業の内容に関連して、深く考えることができる。)		各回30分 から60分 程度	
第 2 回	心の発達					
第 3 回	性格と行動の発達					
第 4 回	人とのつながり					
第 5 回	集団と心理					
第 6 回	自己とは(1)					
第 7 回	自己とは(2)					
第 8 回	他者とは(1)					
第 9 回	他者とは(2)					
第 10 回	非言語コミュニケーション					
第 11 回	言語コミュニケーション					
第 12 回	対人コミュニケーション					
第 13 回	組織内コミュニケーション					
第 14 回	社会とコミュニケーション					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合)	出席状況(25%)、受講態度(25%)、課題・レポート(50%)をあわせて総合的に評価する					
課題のフィード バックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	人間関係とは何かを探求し、人間関係に関する考え方やコミュニケーションの知識とスキルを身につける。心を読み取る姿勢や行動を知り、円滑な人間関係を築くことができるようになる。					

授業科目名	人文教養特別講義Ⅱ (自然と文化②)	担当教員名	栗井 光代			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			○		
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-13	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、きわめて重要である。この科目では、「自然と文化」という大枠の中から、必ずしも看護と直接関係しない任意のテーマ(例えば政治、社会、言語、歴史、人間、科学、生命、物質)を講義する。人文教養特別講義Ⅰでは主として「文化」に関わるテーマを、人文教養特別講義Ⅱでは主として「自然」に関わるテーマを選ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1 自然と文学について学ぶ意義を理解できる。 2 自然と文学について基本的な概念を理解できる。 3 文学を通して、文化、社会、歴史についての理解を深め、国語力を培う。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・文学とは		授業ごとに予習・復習の内容を説明します。次回扱う資料(作品等)を読み、理解してくること。授業後には講義ノートを整理、まとめること。		各回30分から60分程度	
第 2 回	文学から自然を見る(1)					
第 3 回	文学から自然を見る(2)					
第 4 回	文学から命を考える(1)					
第 5 回	文学から命を考える(2)					
第 6 回	文学から自然現象を知る(1)					
第 7 回	文学から自然現象を知る(2)					
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合)	出席状況(25%)、受講態度(25%)、課題・レポート(50%)をあわせて総合的に評価する。					
課題のフィードバックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するもので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	文学作品、作者への理解を通して、速読力・読解力を身につけるとともに、論理的に書く力や目的に応じて書く能力の育成をめざす。また、文学が日々の生活を豊かにすることを学ぶ。					

授業科目名	英語Ⅲ	担当教員名	西垣 有夏			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-17	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 英語Ⅲでは、看護における専門的な英語語彙の学習と併せて、医療関係の記事の読解を行う。1-2回の講義で教科書のUnitを一つ終えるペースで授業を行う。この授業は英語Ⅳ、Ⅴへの橋渡しとなる。</p> <p>〔学修目標〕 看護における専門的な英語の語彙を身につけ、看護や医療に関わる基本的な英文の記事を読めるようになることを目標とする。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回	ガイダンス / Unit 1	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 2 回	Unit 1	看護語彙学習	60分			
第 3 回	Unit 2	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 4 回	Unit 2	語彙復習	60分			
第 5 回	Unit 4	看護語彙学習	60分			
第 6 回	Unit 4 / Unit 6	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 7 回	Unit 6	復習	60分			
第 8 回	(中間テスト) / Unit 8	看護語彙学習	60分			
第 9 回	Unit 8	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 10 回	Unit 9	語彙復習	60分			
第 11 回	Unit 9	看護語彙学習	60分			
第 12 回	Unit 10	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 13 回	Unit 10 / Unit 11	看護語彙学習	60分			
第 14 回	Unit 11	看護語彙学習 / 本文訳	60分			
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合)	単語テスト (20%), 課題 (中間テスト) (40%), 期末テスト (40%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive 等を用いて適正に行う。					
テ キ ス ト	山崎朝子・笹島茂著,「医療と看護の総合英語 (改訂版)」三修社.					
参 考 図 書						
履修上の留意点	必ず予習を行ってから授業に臨んでください。また、辞書を必ず持って来ること。					

授業科目名	病態治療学Ⅱ	担当教員名	川口 哲郎			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・60時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-5	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護を学ぶにおいて必要な各臓器の代表的な内科的疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて学ぶ。循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、代謝系、内分泌系、血液系、免疫・アレルギー系、神経・筋肉疾患系に分類して教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 看護学を勉強する上で、臨床医学の基礎知識が理解できる。 2. 代表的な内科的疾患の定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法及び予後についての内容が理解できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第1～4回	1～4. 呼吸器疾患		授業の内容に該当するところをテキストと配布したレジメに目を通しておく。		各回ごとに 30 ～60 分	
第5～9回	5～9. 循環器疾患					
第10～11回	10～11. 腎疾患					
第12～16回	12～16. 消化器疾患、肝・胆道・膵疾患					
第17～18回	17～18. 内分泌疾患					
第19～20回	19～20. 代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症など)					
第21～23回	21～23. 血液・造血器疾患					
第24～25回	24～25. アレルギー・自己免疫疾患					
第26～30回	26～30. 神経・筋疾患					
	数項目終了後に小テスト(4回を予定)を行い、知識を深める。					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況、レポート提出状況、小テストの結果などを参考にして、期末テストの結果を中心に(90%以上の割合)成績評価を行う。ただし、登校規制などによりオンライン授業が行われた場合、小テスト、期末テストはレポート形式などに変更になる可能性もあります。					
課題のフィードバックの方法	授業中に小テスト(4回)を来ない答え合わせと解説を行う。各項目ごとのレポートは提出後、解答例を配布する。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～15]					
参 考 図 書	ナーシング・グラフィカ イーエックス 2 疾病と治療 メディカ出版 新体系看護学全書 疾患の成り立ちと回復の促進(第4巻～13巻)メヂカルフレンド社					
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください。					

授業科目名	病態治療学Ⅲ	担当教員名	川口 哲郎・百田 芳春・浦浜 憲永 松井 祥治・蘭 潤・藤岡 政行			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-6	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 外科的治療を成功に導く諸因子の中で看護の果たす役割は大きい。ここでは外科に関する臨床看護学に必要な知識と技術、考え方や理念を学ぶ。また、各臓器の代表的な疾患について、病因、病理、病態および外科的治療法を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 総論（外科看護の基礎）として、周術期（術前・術中・術後）の看護に必要な知識、技術、考え方を学ぶ。各論として、頭部および頸部、肺および胸部、心臓および脈管系、消化器および腹部、脳神経系、運動器系など各臓器の疾患の外科手術療法について学ぶ。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	1. 外科診断、外科治療の基本的な考え方		授業の内容に該当する ところをテキストと配布 したレジメに目を通して おく。		各回ごとに 30 ～60 分	
第 2 回	2. 腫瘍、外傷					
第 3 回	3. 麻酔法、輸血療法					
第 4 回	4. 体液・栄養管理					
第 5 回	5. 呼吸管理（酸素療法と機械的人工換気）					
第 6 回	6. 緩和治療					
第 7 回	7. 外傷とショック					
第 8 回	8. 救急処置法					
第 9 回	9. 災害医療					
第 10 回	10. 外科的処置が必要な疾患（病態と基礎及び治療の実態）					
第 11 回	11. 外科的処置が必要な疾患（各論）①消化器及び腹部					
第 12 回	12. 外科的処置が必要な疾患（各論）②頭頸部および運動器					
第 13 回	13. 外科的処置が必要な疾患（各論）③脳及び神経					
第 14 回	14. 外科的処置が必要な疾患（各論）④肺及び胸部					
第 15 回	15. 外科的処置が必要な疾患（各論）⑤心臓及び脈管系					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況などを参考にして、期末テストの結果を中心に（90%以上の割合）成績評価を行う。ただし、登校規制などによりオンライン授業が行われた場合、期末テストはレポート形式などに変更になる可能性もあります。					
課題のフィード バックの方法	レポートは提出後、解答例を配布する。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 臨床外科看護総論および各論 医学書院					
参 考 図 書	新体系看護学 別巻 臨床外科看護学Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社、 スタンダードテキストブック 標準外科学 医学書院、ナースの外科学 改定4版 中外医学社					
履修上の留意点	構造機能学、病態治療学Ⅰ、Ⅱで習得した知識を基礎に、外科疾患の病態を理解し、なぜそういう治療をするのか、なぜそういう看護をするのか、の因果関係を十分に理解し、身につけることが大切です。					

授業科目名	生命と倫理	担当教員名	山本 道雄			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-7	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>[学修の概要] 看護の臨床で求められる倫理の前提にある諸問題を、下の「授業内容」に見られる様に、倫理学の原理的次元から順を追って学びます。</p> <p>[学習目標] マニュアル的に倫理を理解するのではなく、倫理の背景にある原理や歴史にまで理解を深めるのがこの講義の目的です。いささか抽象的で原理的な議論もありますが、辛抱して下さい。問題意識さえあれば、将来必ず役に立ちます</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	倫理の基礎としてのメタ倫理 規範倫理 義務倫理 功利主義(1) 功利主義(2) 徳倫理 応用倫理としての生命倫理(1) 応用倫理としての生命倫理(2) 現代バイオエシックスの歴史(1) 現代バイオエシックスの歴史(2) 看護倫理 患者の権利という思想 インフォームドコンセント 終末期医療の問題		各テーマに関して与えられた問題を解いてきて下さい。		1時間程度	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席は受験のための必要条件、成績は定期試験のみで行う。					
課題のフィードバックの方法	Google Meet の Classroom を利用して理解度を確認して前に進む。					
テキスト	赤林編「医療倫理1」、勁草書房					
参考図書	特になし。					
履修上の留意点	しっかりノートをとってください。					

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	西村 由実子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-8	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 人々が疾病を予防し健康を維持・促進するには、そのための仕組みや環境が必要である。視点を個人から集団、組織、地域社会、国、地球へと広げ、公衆衛生学の基礎を学ぶ。基本的な概念や歴史をおさえた上で、集団を把握し人々にアプローチするための方法を学び、多様な健康課題に実践的に取り組む態度と姿勢を身につける。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の基本理念を理解し具体的事例と関連させて説明できる。 2. 健康指標と行動理論の意味を理解し活用できる。 3. 学校や職場などの特性と健康課題を理解し説明できる。 4. 地球規模の諸課題を理解し説明できる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	公衆衛生の概念と歴史		テキスト第1,3章通読		30分	
第 2 回	日本の地域保健活動の歩み		テキスト第2章通読		30分	
第 3 回	健康指標と疫学(1)		テキスト第6章通読		30分	
第 4 回	健康指標と疫学(2)		テキスト第4章通読		30分	
第 5 回	健康教育と行動理論		テキスト第5,8章通読		30分	
第 6 回	学校保健と産業保健		テキスト第14,15章通読		30分	
第 7 回	地球環境と国際保健		テキスト第16章通読		30分	
第 8 回	感染症・まとめ		テキスト第13章通読		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席(24%)、レポート(24%)、定期試験(52%)					
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、レポート等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テ キ ス ト	平野ら編『ナースング・グラフィカー健康支援と社会保障②公衆衛生』メディカ出版(最新版)					
参 考 図 書	清水ら編『わかりやすい公衆衛生学』ヌーヴェルヒロカワ(最新版) 平野ら編『ナースング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活』メディカ出版(最新版)					
履修上の留意点	履修希望者は第1回に必ず出席してください。 視野を広く持ち、ワークを交えて実践的に学びましょう					

授業科目名	薬理学 I (総論)	担当教員名	百田 芳春			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-9	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 薬理学は様々な科学的分野（化学・生化学・生理学）と関連しながら、「薬物が生体に作用し、異常な生理状態から正常な生理状態に戻す理由」を説明する医学系科目の異分野である。本科目では、薬物全般の人体への作用様式、薬物の形状、薬物の細胞レベルでの応答について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 薬物と受容体、細胞内情報伝達機構、薬物の体内動態、有害作用・副作用、薬物の投与方法、薬物の形状について説明できるようになる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	薬物療法の目的 薬理学で学ぶ学習の全体像		授業内容に該当するところをテキストと配布物に眼を通しておく。		目安として、おおよそ30分から60分程度。	
第 2 回	薬理作用 薬物の作用点・受容体について					
第 3 回	薬理作用 薬物の作用点・受容体について					
第 4 回	薬理作用 細胞内への作用					
第 5 回	薬理作用 細胞内への作用					
第 6 回	薬物の投与方法と剤型					
第 7 回	体内動態（薬物の吸収から排泄まで）					
第 8 回	薬物の分解過程と有害作用及び副作用					
第 9 回	小児、妊婦、高齢者の薬物治療					
第 10 回	受容体の理解：自律神経を例にして					
第 11 回	受容体の理解：自律神経を例にして					
第 12 回	神経伝達物質と薬物の関係：中枢神経					
第 13 回	神経伝達物質と薬物の関係：中枢神経					
第 14 回	神経伝達物質と薬物：薬物による痛みの緩和					
第 15 回	東洋医学による漢方について					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (10%), 期末試験 (90%)					
課題のフィードバックの方法	Google Drive など遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する					
テキスト	わかりやすい薬理学 第3版 編者：安原一・小口勝司 NOUVELLE HIROKAWA					
参考図書	エース 薬理学 監修 金井好克 南山堂 NEW 薬理学 編者 田中千賀子・加藤隆一・成宮週 南江堂 薬がみえる シリーズ MEDIC MEDIA					
履修上の留意点	理解できているところと、理解出来ていないところを予習と復習で自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。					

授業科目名	病態心理学	担当教員名	花村 カテリーナ			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-15	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>病気になる人は様々な心理的变化を体験する。そこにはいくつかの共通傾向がみられる。それらを理解するために、まず患者の心理と行動の一般的な特徴について、続いてそれぞれの疾病に特有の特徴について具体的な事例を紹介しながら教授する。看護者として望ましい関わり方がどういふものなのか具体的にイメージできることを重視する。</p> <p>[学修目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気になることで生じる様々な心理のプロセスについて理解する。 2. 次にあげる様々な状態、健康障害に特徴的な心理と望ましい関わり方を理解する。 ①糖尿病・がん ②ストレスによる健康障害 ③うつ ④摂食障害 ⑤精神科疾患 ⑥認知症 ⑦様々な依存症 ⑧神経発達障害 ⑨性別違和 ⑩終末期 3. 思春期に生じる心理的・社会的変化とそれに伴う様々な不適応を理解する。 4. 患者の家族に生じる心理的变化、患者と家族と相互作用について概観をつかむ。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス。心理学の観点から捉える「病」		各回とも、講義資料を復習してください。 理解を深めるため、適宜課題を出します。		各回とも 30分程度	
第 2 回	患者になることによって生じる心理的变化					
第 3 回	疾病の心理的特性1：糖尿病・がん					
第 4 回	疾病の心理的特性2：ストレス反応と健康障害					
第 5 回	疾病の心理的特性3：うつ					
第 6 回	疾病の心理的特性4：摂食障害					
第 7 回	疾病の心理的特性5：精神科疾患					
第 8 回	疾病の心理的特性6：認知症					
第 9 回	疾病の心理的特性7：様々な依存症					
第 10 回	神経発達障害					
第 11 回	思春期の心と不適応					
第 12 回	性別違和とLGBTQ+					
第 13 回	終末期：死の受容と看取りの心理のプロセス					
第 14 回	患者の家族に生じる心理社会的変化					
第 15 回	患者による暴力行為の理解、対応、予防					
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加度(15%)、課題の提出(50%)、期末試験(35%)					
課題のフィードバックの方法	課題の具体的な評価基準はその都度ルーブリックにて提示し、採点後に各自の配点を確認できるようにする。					
テ キ ス ト	プリントを配布・配信する。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	各回の授業の最後に配る課題を実施することで講義内容の理解がスムーズとなりますので、問題意識を持って取り組むようにしてください。					

授業科目名	社会保障と福祉	担当教員名	西村 由実子 池田 英生			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-16	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を学び、現代の我が国における意義と課題を理解する。特に、人々の健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉の諸制度について、法的基盤や行政の仕組みなどの実践体系を含めて理解を深める。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を理解する 2. 実践において必要な社会保障と社会福祉の諸制度に関する基本的知識を習得する 3. 医療従事者として人々の社会生活全体を関連づけて関わる態度を身につける 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・社会保障・社会福祉とは		第1章 通読		30分	
第 2 回	保健・医療・福祉の関連法規		第1章 通読		30分	
第 3 回	子ども・家庭と福祉		第5章(1)通読		30分	
第 4 回	障害児・者と福祉		第5章(2)通読		30分	
第 5 回	生活保護		第6章 通読		30分	
第 6 回	地域福祉		第4章 通読		30分	
第 7 回	医療保険制度		第7章(2)通読		30分	
第 8 回	生活と福祉		第8章 通読		30分	
第 9 回	社会保障と社会福祉の歴史		第2章 通読		30分	
第 10 回	社会福祉の実践		第3章 通読		30分	
第 11 回	高齢者と福祉		第5章(3)通読		30分	
第 12 回	社会保障(社会保険)		第7章(1,4,5)通読		30分	
第 13 回	介護保険制度の概要		第7章(3)通読		30分	
第 14 回	地域包括ケアと地域共生社会への取り組み		第7章 通読		30分	
第 15 回	まとめ		全章 通読		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席(15%)、レポート(15%)、定期試験(70%)					
課題のフィードバックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、レポート等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テキスト	増田雅暢ら編『ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障』メディカ出版【最新版】					
参考図書	福田素生ら著『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』医学書院【最新版】					
履修上の留意点	生活者としての基本知識であると同時に、看護師国家試験においても出題される内容なので、基本をしっかりと学びましょう。					

授業科目名	医療と経済		担当教員名	永合 位行			
期 間	前期		履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				○		
授 業 形 態	講義			●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-17		D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 医療を取り巻く問題を考えるにあたっては、経済学的な視点も持つ必要があります。授業では、前半で経済学の基本的な考え方を学び、後半でそれを用いて医療の諸問題を考えます。</p> <p>〔学修目標〕 まず、経済学の基本的な考え方やツールをしっかりと理解します。その上で、医療を取り巻く諸問題を経済学的な視点に立って見ていくことで、それらの諸問題の深い理解へとつなげていくことを目指します。</p>						
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	授業概要と経済学的視点の必要性の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 2 回	経済学の基本的な考え方の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 3 回	市場の機能(1):需要についての説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 4 回	市場の機能(2):供給についての説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 5 回	市場の機能(3):市場と効率性の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 6 回	医療サービスの性質の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 7 回	医療サービスの性質の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 8 回	医療情報の非対称性の問題の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 9 回	医療情報の非対称性の問題の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 10 回	医療保障制度の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 11 回	医療保障制度の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 12 回	国民医療費の問題の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 13 回	国民医療費の問題の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 14 回	医療供給体制の問題の説明			練習問題解答と復習		1時間	
第 15 回	医療供給体制の問題の説明			期末試験の準備		7時間	
学修評価の方法 (成績割合%)	練習問題(30%) 期末試験(70%)						
課題のフィード バックの方法	各回の練習問題は、翌週の授業中に答え合わせをし、理解度の向上につなげます。						
テ キ ス ト	使用しません(資料を配布します)						
参 考 図 書	河川洋行『医療の経済学第3版』日本評論社 2015年、真野俊樹『入門医療経済学』中公新書 2006年						
履修上の留意点	毎回、授業の最後に理解度確認のために練習問題に取り組みます。毎回、欠かさず復習をし、理解を深めることが求められます。						

授業科目名	基礎看護学Ⅳ (診療の補助技術)	担当教員名	犀川 由紀子・太田 智美 奥津 文子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間			●		
授業形態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-5	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 健康状態の向上や回復、障害を予防するために対象に行われている治療の必要性を理解し、診療の補助技術を安全に提供するための基礎知識と技術を身につける。</p> <p>[学修目標] 1. 診断・治療過程にある看護の対象が治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 健康状態を回復するために必要な診療の補助技術について、基本的知識と技術を理解する。 3. 安全かつ安楽な看護技術を実践するために、解剖生理学の知識と合わせて学ぶ。 4. 看護技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回	コースガイダンス					
第 2 回	巻法の基礎知識 冷巻法・温巻法	テキストで方法の復習	30分			
第 3 回	包帯法に関する基礎知識	包帯法の名称と取り扱い	30分			
第 4 回	排泄に関する基礎知識 解剖生理 尿路系	腎臓・尿管・膀胱・尿道の解剖と排尿のメカニズム	60分			
第 5 回	排泄に関する看護技術 導尿(一時的導尿)	消化管の解剖と排便のメカニズム	60分			
第 6 回	排泄に関する基礎知識 解剖生理 消化器系					
第 7 回	排泄に関する看護技術 浣腸					
第 8 回	与薬に関する基礎知識 薬物動態	薬物動態	30分			
第 9 回	与薬に関する基礎知識 内服薬	薬剤の剤型と特徴	30分			
第 10 回	与薬に関する基礎知識 内服薬以外					
第 11 回	与薬に関する基礎知識 皮下注射・筋肉内注射	注射に使われる部位(皮下/筋肉)の解剖学的位置の確認	60分			
第 12 回	与薬・採血に関する基礎知識 静脈内注射	注射 / 採血に使用する血管の名称確認	60分			
第 13 回	与薬・採血に関する基礎知識 採血					
第 14 回	技術のまとめ					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(70%) 技術のまとめ・小テスト・課題・提出物(30%)					
課題のフィードバックの方法	技術のフィードバックは演習時に対面で実施する。小テスト終了後は解答を解説する。課題・提出物は提出後にコメントをつけて返却する。必要時、遠隔教育システムを活用し資料の添付やフィードバックの更新を行う。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院 看護技術プラクティス、学研					
参考図書	随時紹介する					
履修上の留意点	自己のスケジュール管理、空き時間の有効活用、解剖生理学の復習による計画的な自己学習が重要である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。					

授業科目名	看護診断学 I	担当教員名	江川 隆子・笠岡 和子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-8	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護診断の歴史、看護診断の背景となる諸理論と関係、および看護診断の意義や意味について教授する。さらに、臨床でよく用いられる看護診断とそのアセスメント、それぞれの看護診断について教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護診断の概念を学ぶことができる。 2. 看護診断の背景になっている諸理論とその関係について学ぶことができる。 3. アセスメントとおよび看護治療（看護援助）、評価との関係について学ぶことができる。 4. 看護診断含め看護援助の範囲を学ぶことができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	看護の法と定義		各回 事前のテキストの講読 配布資料の復習		各回 60分	
第 2 回	看護診断の歴史的背景					
第 3 回	看護診断概念とその背景となる理論①					
第 4 回	看護診断概念とその背景となる理論②					
第 5 回	看護診断概念とその背景となる理論③					
第 6 回	看護診断概念とその背景となる理論④					
第 7 回	看護診断概念とその背景となる理論⑤					
第 8 回	看護診断と看護過程の関係					
第 9 回	看護診断過程①(病態の理解)					
第 10 回	看護診断過程②(情報収集)					
第 11 回	看護診断過程③(アセスメント)					
第 12 回	看護診断過程④(看護診断と成果の関係)					
第 13 回	看護診断過程⑤(成果と計画の関係)					
第 14 回	看護診断過程⑥(評価)					
第 15 回	看護実践と看護記録					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (90%)、出席 (10%)					
課題のフィード バックの方法	個別指導					
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・江川隆子編 (2013)：これなら使える看護診断，コンパクト新版，医学書院。 ・江川隆子編 (2010)：これなら使える看護介入，医学書院。 ・江川隆子編 (2016)：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，第6版，ヌーヴェルヒロカワ。 					
参 考 図 書						
履修上の留意点	・日本看護診断学会監訳：NANDA-I 看護診断定義と分類，医学書院（学校で購入した本・卒業生が使用した本を利用する。）					

授業科目名	公衆衛生看護学概論	担当教員名	伊木 智子・東 美鈴			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-11	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 地域で生活する人々の健康と QOL を高めることを主眼とする公衆衛生看護について理解し、地域を基盤として行われる看護活動の概要とその理論を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1. 地域で働く看護職の役割・機能、活動の方法について理解する。 2. 公衆衛生看護活動の対象を理解する。 3. 公衆衛生看護活動の展開を理解する。 4. 公衆衛生看護学の理論的背景を理解する。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11~12 回 第 13~14 回 第 15 回	<p>公衆衛生看護とは 公衆衛生看護の特性・機能・役割 地域社会・集団とは 地域に暮らす人々の健康課題 公衆衛生看護活動の基盤となる理論 公衆衛生看護活動の対象理解 公衆衛生看護活動の活動分野と看護の役割① 公衆衛生看護の活動分野と看護の役割② 公衆衛生看護活動の方法①: 個人・家族のとらえ方と援助 公衆衛生看護活動の方法②: 集団のとらえ方と援助 公衆衛生看護活動の方法③: 地域全体を対象とした援助 公衆衛生看護活動の展開方法 住民の健康課題についての理解 まとめ</p>		<p>【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。</p> <p>【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。</p>		<p>1~2時間 以上</p> <p>1~2時間 以上</p>	
学修評価の方法 (成績割合%)	課題レポート (10%) 定期試験 (90%)					
課題のフィードバックの方法	課題レポートはコメント付きで返却する。					
テキスト	麻原きよみ他編著：公衆衛生看護学テキスト1公衆衛生看護学原論（最新版）					
参考図書	標美奈子他編著：標準保健師講座 1, 公衆衛生看護学概論, 医学書院。 平野ら編著：ナースング・グラフィカ健康支援と社会保障①健康と社会・生活, メディカ出版					
履修上の留意点	看護師として働く時にも、公衆衛生看護の視点が重要になります。関心をもって主体的に学習をしてください。					

授業科目名	老年看護学Ⅰ (概論)	担当教員名	下舞 紀美代			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-23	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 老年看護の対象である高齢者とその家族の尊厳と権利を理解する。 老年期の発達課題と健康問題について身体的、心理・社会的な側面から高齢者を理解し、 老年看護の役割の重要性を理解する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 老年看護学の概念、背景となる理論を説明できる。 2. 老年看護の対象となる人々の権利を尊重し、その擁護に向けた行動の重要性が説明できる。 3. 高齢者のライフサイクルと発達について説明できる。 4. 加齢に伴う健康問題について理解し、健康の保持増進、疾病予防を説明できる。 5. 高齢者に関する社会政策や看護政策について説明できる。 6. 老年看護の展開と役割の重要性を説明できる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	授業ガイダンス 第1章：老いるということ、老いを生きるということ。第2章：超高齢社会と社会保障 ①高齢社会の統計的輪郭		1回：テキスト第1章と2章の①を読んでくる		1時間	
第 2 回	第2章：超高齢社会と社会保障 ②高齢社会における保健医療福祉の動向 ③高齢社会における権利擁護		2回：テキスト第2章の②③を読んでくる		1時間	
第 3 回	第3章：老年看護のなりたち		3回：テキスト第3章、4		1時間	
第 4 回	第4章：高齢者のヘルスアセスメント		章を読んでくる			
第 5 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ④日常生活を支える基本的活動⑤食事、食生活		4回：テキスト第5章の④⑤を読んでくる		30分	
第 6 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑥コミュニケーション⑦セクシュアリティ⑧社会参加		5回：テキスト第5章の⑥⑦⑧⑨を読んでくる		1時間	
第 7 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ⑨症候のアセスメントと看護⑩身体疾患のある高齢者の看護		6回：テキスト第5章の⑩⑪⑫を読んでくる		1時間	
第 8 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ⑪身体疾患のある高齢者の看護 ⑫認知機能障害のある高齢者の看護		7回：テキスト第6章の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫を読んでくる		1時間	
学修評価の方法 (成績割合%)	成績評価は、成績評価は、筆記試験(80%)と小テスト(20%)と課題で評価する。未提出は点数0点とする。課題内容は授業内容に応じて提示する。					
課題のフィードバックの方法	1. 準備学修においては、図表の読み方、重要箇所の強調を授業時間に口頭で示し、再度テキストを読み解くよう解説する。2. 小テストは試験終了後に解説する際に、事前にテキストを読み込むことで理解が深まるよう解説する。時には課題の箇所を口頭で質問し理解度を確認する。					
テ キ ス ト	北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院					
参 考 図 書	佐々木秀忠他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院					
履修上の留意点	知識に基づいた老年看護の全体論が各自定着できるよう自己学習準備をしてきて下さい。ノートの準備をお願いします。					

授業科目名	小児看護学Ⅰ (概論)	担当教員名	箕浦 洋子						
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4			
単位数・時間	1単位・15時間			●					
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択						
カリキュラム記号	B-26	D P 記 号	DP-2						
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 小児看護学の概念、対象理解のための理論、小児看護の基本的な援助方法を教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 小児看護の特徴を理解できる。 2. 子どもの成長・発達について理解できる。 3. 子どもが心身ともに健康に成長・発達するための必要な支援方法を理解できる。</p>								
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間			
第 1 回	ガイダンス		・次回講義についてテキストにて該当の頁を読む ・講義後復習を行う(毎回)			毎回 30分			
第 2 回	1. 子どもを取り巻く問題と課題 2. 子どもの権利 3. 子どもを理解するための基本理論 4. 子どもの成長・発達の評価 1) 成長・発達の原則、成長・発達の評価								
第 3～6 回	5. 小児各期の成長・発達とその特徴 1) 新生児・乳児期と子どもの成長と発達 2) 幼児期と子どもの成長と発達 3) 学童期と子どもの成長と発達 4) 思春期と子どもの成長と発達								
第 7 回	6. 子どもの成長・発達への支援 1) 子どもの遊びとコミュニケーション 2) 予防接種とワクチンの役割 3) 小児看護に関わる主な法律								
第 8 回	7. 子どもと家族の特徴とその支援								
学修評価の方法 (成績割合%)	課題レポート・小テスト(30%)筆記試験(70%)で評価する。								
課題のフィード バックの方法	小テストの解答を提示し解説する。課題レポートは採点及びコメントを入れて返却する。								
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論								
参 考 図 書	授業時に提示する								
履修上の留意点	小児看護学を理解するための基礎力を養う大切な授業となります。予習・復習状況を確認する小テストおよびレポート提出等を随時実施します。しっかり予習・復習をしましょう。								

授業科目名	母性看護学Ⅰ (概論)	担当教員名	曾我部 美恵子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-29	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 母性看護の基盤となる概念、性と生殖に関する生命倫理問題、社会システムと健康、生活者としての人間理解、発達課題に特徴づけられる看護、多様な場の特徴に応じた看護を教授する。 〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護学で使われる概念と理論を説明できる。 母性看護における生命倫理、性と生殖に関する現状と倫理的問題を説明できる。 社会システムと環境と健康の関連、性と生殖に関する統計、法や施策、周産期システムを説明できる。 女性の性と生殖に関わる生殖機能の変化、多様な性の在り方、家族の機能を説明できる。 発達段階に特徴づけられる看護実践としてライフサイクル各期の健康課題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する社会問題を説明できる。 多様な場の特徴に応じた看護実践として周産期のメンタルヘルス、在日外国人への看護を説明できる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	母性看護学の概念		予習は教科書の該当箇所に通して概要を把握しておく。 復習は教科書や配布資料をもとにキーワードをまとめる。		30分程度	
第 2 回	性と生殖に関する倫理的問題					
第 3 回	社会システムと健康 (1)					
第 4 回	社会システムと健康 (2)					
第 5 回	生活者としての人間理解					
第 6 回	発達課題に特徴づけられる看護実践 (1)					
第 7 回	発達課題に特徴づけられる看護実践 (1)					
第 8 回	多様な場の特徴に応じた看護					
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 100%					
課題のフィードバックの方法	課題達成のために必要な学習内容は講義中に説明と解説を行い評価する。達成状況に応じて学内または研究室において集団指導あるいは個別指導を行い課題の確認をする。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院 最新版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院 最新版					
参 考 図 書	授業中に提示する					
履修上の留意点	母性看護に関する授業内容は、人間、社会、健康、看護の視点から講義をします。興味、関心をもち、1回の授業内容の予習、復習をしながら講義に望みましょう。広く女性の健康にかかわる授業内容を理解していきます。					

授業科目名	母性看護学Ⅱ-a (援助論)	担当教員名	神谷 映里・小笠原 百恵 濱西 正三			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-30	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 妊婦・産婦の生理と特徴や変化をふまえ、アセスメントの方法を教授する。 妊婦・産婦におけるハイリスク状況をふまえ、異常および医学的管理と看護を教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 妊婦・産婦の身体的、心理・社会的特徴や変化を理解することができる。 2. 妊婦・産婦が健康に経過することの意義を理解することができる。 3. 妊婦・産婦やその家族の看護と医学的管理方法を理解することができる。 4. 妊婦・産婦やその家族の看護に必要な援助方法を説明することができる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	妊娠の生理と特徴		予習 テキストの授業内容部分を 読んでくること			各30分
第 2 回	妊婦と胎児のアセスメント		第1～3回 母性看護学各論 第3章			
第 3 回	妊婦と家族への看護		第4回 母性看護学各論 第4章			
第 4 回	分娩の経過、産婦・胎児のアセスメント、産婦と家族への看護		第5～8回 母性看護学各論 第7章			
第 5 回	妊婦と産婦の異常 (1)		復習 テキストの授業内容部分と 配付資料で理解を深めるこ と			
第 6 回	妊婦と産婦の異常 (2)					
第 7 回	妊婦の看護 (異常)					
第 8 回	産婦の看護 (異常)					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (100%)					
課題のフィード バックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。					
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論					
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産 文光堂 病気がみえる 産科 メディックメディア					
履修上の留意点	詳細については、初回授業で提示します。解剖生理学のテキスト第7章の生殖・発生のしくみをよく復習しておいてください。					

授業科目名	精神看護学Ⅰ (概論)	担当教員名	小出水 寿英			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-33	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 精神看護学における歴史、理論および人間の捉え方を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1 精神医療・看護の歴史について理解する。 2 精神発達理論を理解する。 3 精神看護に活かす臨床心理学について理解する。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3～5 回 第 6～7 回 第 8 回	<p>精神医療・看護の歴史 諸外国の精神医療・看護の歴史 日本の精神医療・看護の歴史 自我の発達と人間関係 1) 自我の発達 2) 自我の発達と構造 3) 防衛機制 4) 人格の発達 治療の構造 1) 心理検査 2) 精神療法 3) 各種療法 精神科における看護師の役割</p>	<p>第1回～第2回: テキスト精神看護① 1章、10章～11章を通読し概観を 理解する。 第3回～第5回: 2章～4章を通読し内容を確認す る。 第6回～7回: テキスト精神看護①6章、9章を通 読し内容を確認する。重要用語を 確認する。 第8回:12章を通読し内容を確認 する。</p>			各60分	
学修評価の方法 (成績割合%)	課題(10%)、確認テスト(10%)、出席状況(10%)、テスト(70%)で評価する。					
課題のフィード バックの方法	課題・確認テストは講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。 いずれにおいても質問等があれば随時対応する。					
テ キ ス ト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本, MC メディカ出版, 最新版. ナーシンググラフィカ 精神看護学② 生活障害と看護の実践, MC メディカ出版, 最新版.					
参 考 図 書	講義中適宜紹介する。					
履修上の留意点	精神看護学専門科目ですので、予習、復習をしながら講義に望んで下さい。					

授業科目名	法と人権	担当教員名	白鳥 義彦			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-14	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 近代的な人権思想が成立してきた背景や展開の過程を概観した上で、立憲主義の考え方を踏まえながら、日本国憲法の主要原理である国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に教授する。さらに憲法に定められる統治機構（内閣、国会、裁判所）についても考察する。</p> <p>〔学修目標〕 看護者として、あるいはそれ以前に人間として必要不可欠な、人権の知識と人権感覚を身につけるために、憲法ならびに国際的な諸法規が保障する人権の歴史的展開や内容やその意義、社会的に不利な立場の人々が直面する人権問題について、具体例を交えて解説し、法と人権との関わりという観点から現実をとらえる視点を得ること、また人権を保障するための制度としての統治機構についての基本的な知識を得ることを目的とする。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	Q&A 暮らしの中の人権問題		具体例から人権を考える		4時間	
第 2 回	人権の履歴書-人権思想のあゆみ(1)		人権の歴史的展開を学ぶ		4時間	
第 3 回	人権の履歴書-人権思想のあゆみ(2)		人権の歴史的展開を学ぶ		4時間	
第 4 回	人権の履歴書-人権思想のあゆみ(3)		人権の歴史的展開を学ぶ		4時間	
第 5 回	人権思想の現代的な展開(1)		人権の現代的展開を学ぶ		4時間	
第 6 回	人権思想の現代的な展開(2)		人権の現代的展開を学ぶ		4時間	
第 7 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表(1)		(第7回~第9回)グループ発表の準備と、他のグループの発表内容の復習		4時間	
第 8 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表(2)				4時間	
第 9 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表(3)		人権への国際機関の役割		4時間	
第 10 回	国際機関と人権				4時間	
第 11 回	憲法と人権		人権に対する憲法の役割		4時間	
第 12 回	統治機構-歴史的、国際的な考察				4時間	
第 13 回	統治機構-内閣		統治機構の概要を学ぶ		4時間	
第 14 回	統治機構-国会				4時間	
第 15 回	統治機構-裁判所		特に内閣について学ぶ		4時間	
					4時間	
学修評価の方法 (成績割合%)	各授業後のコメント(10%)、グループ発表(20%)、テスト(70%)					
課題のフィードバックの方法	各授業後のコメントに対しては、次の授業時に重要なものを取り上げてフィードバックする。グループ発表に対しては、授業の中で発表後にフィードバックする。					
テキスト	通常の授業はプリントを配布して行う。					
参考図書	樋口陽一著『一語の辞典 人権』三省堂 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権』、『憲法2統治』有斐閣					
履修上の留意点	具体的な事例とも関連づけながら授業を進めたいと思いますので、ニュース等にも幅広く関心を持ってください。自らの問題と感じられるように心がけながら、楽しく授業を進めていきたいと思っています。					

授業科目名	英語Ⅳ	担当教員名	西垣 有夏			
期間	後期	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間			○		
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-18	D P 記号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 英語Ⅱで身につけた英語のコミュニケーション能力と英語Ⅲで習得した専門語彙をもとに、看護の現場で実際に起こり得る場面を設定し、実践的なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>〔学修目標〕 看護の現場で用いる英語コミュニケーション能力の習得を目標とする。</p>					
授業回数	授業の内容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第1回	ガイダンス / Unit 1					
第2回	Unit 1 / Unit 2	看護語彙学習			60分	
第3回	Unit 2	看護語彙学習			60分	
第4回	Unit 5	看護語彙学習			60分	
第5回	Unit 5	看護語彙学習			60分	
第6回	Unit 6	看護語彙学習			60分	
第7回	Unit 6	看護語彙学習			60分	
第8回	(中間テスト) / Unit 7					
第9回	Unit 7	復習			60分	
第10回	Unit 8	看護語彙学習			60分	
第11回	Unit 8 / Unit 3	看護語彙学習			60分	
第12回	Unit 3	看護語彙学習			60分	
第13回	Unit 12	看護語彙学習			60分	
第14回	Unit 12	看護語彙学習			60分	
第15回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	小テスト (20%), 中間テスト (or 課題)(40%), 期末テスト (40%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive 等を用いて適正に行う。					
テキスト	帥岡ヴィヴィアン、杉浦テリー著, "Vital Signs: Essential English for Healthcare Professionals (Revised Edition)," 南雲堂.					
参考図書						
履修上の留意点	辞書を持ってくること。また、コミュニケーション作業時の積極的な参加を促します。					

授業科目名	薬理学Ⅱ (臨床薬理)	担当教員名	百田 芳春			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-10	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 臨床の場で頻用される代表的な薬物の薬理作用や特筆すべき有害作用などを取り上げて解説する。</p> <p>〔学修目標〕 各種薬物の薬理作用と用途を説明できるようになる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	末梢神経作用薬		授業内容に該当するところをテキストと配布物に眼を通しておく。		目安として、おおよそ30分から60分程度。	
第 2 回	末梢神経作用薬					
第 3 回	中枢神経作用薬					
第 4 回	中枢神経作用薬					
第 5 回	心臓血管作用薬					
第 6 回	心臓血管作用薬					
第 7 回	血液・造血器系作用薬					
第 8 回	抗炎症薬					
第 9 回	呼吸器系作用薬					
第 10 回	消化器系作用薬					
第 11 回	ホルモン系・生殖器系作用薬					
第 12 回	抗感染症薬					
第 13 回	抗悪性腫瘍薬					
第 14 回	抗悪性腫瘍薬					
第 15 回	漢方薬					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (10%), 期末試験 (90%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive など遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する					
テ キ ス ト	わかりやすい薬理学 第3版 編者：安原一・小口勝司 NOUVELLE HIROKAWA					
参 考 図 書	エース 薬理学 監修 金井好克 南山堂 NEW 薬理学 編者 田中千賀子・加藤隆一・成宮週 南江堂 薬がみえる シリーズ MEDIC MEDIA					
履修上の留意点	理解できているところと、理解出来ていないところを予習と復習で自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。					

2 学 年
後 期

授業科目名	感染と免疫	担当教員名	百田 芳春			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-11	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 様々な病気の原因になる微生物の種類と性質を学び、これら病原性微生物の感染と感染に対する免疫機構や、感染症の現状について学ぶ。また感染症の予防、検査、治療について学習する。</p> <p>〔学修目標〕 ①病原性微生物を大別できるようになる。②病原性微生物の化学的物理的排除方法を説明できるようになる。③免疫系について説明できるようになる。④臓器・組織別の感染症を説明できるようになる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	微生物の基礎知識 歴史的な発展過程		授業内容に該当するところをテキストと配布物に眼を通しておく。		目安として、おおよそ30分から60分程度。	
第 2 回	各種微生物の分類と特徴					
第 3 回	感染症(そもそも感染とは?)					
第 4 回	感染症への体の応答(免疫) 1					
第 5 回	感染症への体の応答(免疫) 1					
第 6 回	肝炎原告被告団講話					
第 7 回	感染症の制御(国内法・化学的物理的制御)					
第 8 回	感染症の治療と耐性菌					
第 9 回	病原体の各論(細菌1)					
第 10 回	病原体の各論(細菌・真菌・原虫)					
第 11 回	病原体の各論(ウイルス)					
第 12 回	病原体の各論(ウイルス)					
第 13 回	病原体の各論(ウイルス)					
第 14 回	臓器組織別の感染症の理解 2					
第 15 回	臓器組織別の感染症の理解 3					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席(10%), 期末試験(90%)					
課題のフィードバックの方法	Google Drive など遠隔教育システムを用いて課題、問題、解答などを配信する					
テキスト	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 著 増澤俊幸 羊土社					
参考図書	エース 薬理学 監修 金井好克 南山堂 NEW 薬理学 編者 田中千賀子・加藤隆一・成宮週 南江堂 薬がみえる シリーズ MEDIC MEDIA					
履修上の留意点	理解できているところと、理解出来ていないところを予習と復習で自分で見出し、わからない箇所は早期に質問などを行い解決してください。					

授業科目名	保健医療福祉行政論Ⅰ	担当教員名	前田 則子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-18	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 わが国の保健医療福祉行政のしくみや制度の変遷と具体的内容について教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の理念、社会保険制度および社会福祉に関する法や施策について理解する 2. 看護活動の基盤となる法や施策および生活者の健康増進について理解する 3. 人々の健康を守るための従事者に関する法や施策およびサービス提供体制について理解する 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	保健医療福祉制度の変遷		テキストp2-49通読		30分	
第 2 回	保健医療福祉行政および財政のしくみ1 (国・都道府県・市区町村の行政のしくみ)		テキストp88-93通読		30分	
第 3 回	保健医療福祉行政および財政のしくみ2 (保健医療福祉の財政)					
第 4 回	社会保障制度1 (社会保障制度の理念としくみ)					
第 5 回	社会保障制度2 (社会保証制度をめぐる環境の変化)		テキストp95-148通読		30分	
第 6 回	社会保険制度1 (医療提供体制)					
第 7 回	社会保険制度2 (介護保険制度)					
第 8 回	社会福祉が関わる機関と機能 (社会保障・社会福祉の制度)					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(80%)、小テスト(20%)					
課題のフィード バックの方法	最終授業時に全体的なフィードバックを行います					
テ キ ス ト	標準保健師講座 保健医療福祉行政論 別巻1 医学書院 厚生指針 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版					
参 考 図 書	社会福祉六法					
履修上の留意点	テキストの重要項目にマーカーを引きます。蛍光ペン・付箋などを準備してください。					

2
学
年
後
期

授業科目名	医療と人権	担当教員名	西村 由実子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-19	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 現在の日本では、医療技術の発展に伴い出生前診断、脳死・臓器移植、尊厳死など、人の生と死に関わる様々な課題が存在する。一方、世界では貧困の中にあって基本的な生きる権利が蝕まれている人たちがいる。医療従事者として知っておきたい医療と人権に関わる諸課題について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と人権にかかわる今日的な課題を理解する 2. 諸課題に対して、様々な立場があることを知る 3. 諸課題について、自分の意見を表現する 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス／ワーク：“私は誰と誰”		自己紹介を考える		30分	
第 2 回	人権の思想		「世界人権宣言」通読		30分	
第 3 回	生殖医療の発展と人権（1）		「シネマの中の人間と医療」通読		30分	
第 4 回	生殖医療の発展と人権（2）		(a)第11章通読		30分	
第 5 回	生殖医療の発展と人権（3）		(a)第11章通読		30分	
第 6 回	人生の最終段階の医療と人権		(a)第16章通読		30分	
第 7 回	脳死・臓器移植（1）		日本臓器移植ネットワーク検索		30分	
第 8 回	脳死・臓器移植（2）／中間テスト		(a)第15章通読／復習		30分	
第 9 回	健康・医療の情報と人権		「リスボン宣言」通読		30分	
第 10 回	インフォームド・コンセント		(a)第8,9章通読		30分	
第 11 回	研究倫理と人権		「ヘルシンキ宣言」通読		30分	
第 12 回	貧困と生きる権利		(a)第17章通読		30分	
第 13 回	戦争と生きる権利「若人の広場公園」訪問		訪問レポート作成		30分	
第 14 回	戦争と生きる権利「若人の広場公園」訪問		訪問レポート作成		30分	
第 15 回	まとめ		総復習		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席（15%）、中間テスト（20%）、レポート（15%）、定期試験（50%）					
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、レポート等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テ キ ス ト	講義の中で適宜プリントを配布する。					
参 考 図 書	赤林朗編『【改訂版】入門・医療倫理Ⅰ』勁草書房・・(a) 患者の権利オンブズマン編『Q&A 医療・福祉と患者の権利【第2版】』明石書店					
履修上の留意点	履修希望者は第1回ガイダンスに必ず出席してください。 各回、活発にディスカッションをして学びましょう。					

授業科目名	カウンセリング論	担当教員名	花村 カテリーナ			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			○		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-20	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 看護の仕事においてカウンセリングの能力は極めて重要な役割を担うものである。カウンセリングの理論的基盤には大別すると人間性心理学、精神分析、行動主義心理学の3つがあるが、実際にはケースバイケースで折衷的または統合的アプローチが採用される。そのため、3つの学派の基礎的理論と技法に関する概観を示すと同時に、看護現場の特性を踏まえた具体的なアプローチについて様々な事例を示しながら教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現場におけるカウンセリングマインドの重要性と特性を理解する。 2. 主要な学派のカウンセリング理論と技法について概観をつかみ、看護現場の特性に合致するカウンセリング技法を実施できる。 3. 傾聴と共感を基本とした言語的・非言語的なコミュニケーション技術を実施できる。 4. 人の行動変容支援に必要な心理学の基礎的な理論について概観をつかむ。 5. チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法を理解する。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス。自己モニタリングの方法		第1回目前に基礎看護学IIの予習をしてください。 各回とも講義資料を復習してください。 理解を深めるために適宜課題レポートを出します。		各回とも 30分程度	
第 2 回	カウンセリング諸学派の概観					
第 3 回	人間性心理学派（来談者中心療法）の理論					
第 4 回	応答練習①					
第 5 回	応答練習②					
第 6 回	精神分析の理論					
第 7 回	「無意識」の概念を理解する					
第 8 回	行動主義心理学派の理論					
第 9 回	応答練習③					
第 10 回	認知行動療法の理論					
第 11 回	応答練習④					
第 12 回	看護カウンセリングの特性					
第 13 回	モデル・ケースの討論					
第 14 回	応答練習⑤					
第 15 回	連携とコミュニケーション					
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加度（50%）、レポート（50%）					
課題のフィードバックの方法	課題レポートは具体的な評価基準をその都度ルーブリックにて提示し、採点後に各自の配点を確認できるようにする。応答練習はグループワーク進行具合に沿ってその都度、または自己採点シートに個別でコメントを書くなどしてフィードバックを行う。					
テキスト	「ナースだからできる5分間カウンセリング」小島通代・吉本武史 医学書院1999年					
参考図書	適宜紹介します。					
履修上の留意点	「実際にやってみる」を中心とした授業です。自分の得意不得意を知ること、得意な技法を1つみつけることを目標にすると、実習や日常生活に役立ちます。					

授業科目名	基礎看護学V (問題解決技法)	担当教員名	奥津 文子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授業形態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-6	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 対象を統合体として把握し、看護問題を抽出する思考過程と、看護問題を解決するための計画・実践・評価のプロセスについて学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1. 看護師が科学的に看護実践するための思考過程である看護過程について学ぶ。 2. 看護診断過程のそれぞれの段階について学ぶ。 3. 看護診断過程の展開および看護計画の実際について学ぶ。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	コースガイダンス 看護診断過程		テキスト(特に「ゴードン		1時間	
第 2 回	看護診断過程 情報収集 情報の整理 解釈 総合		の機能的健康パターン			
第 3 回	看護診断過程 ステップ 問題の統合		に基づく看護過程と看護			
第 4 回	看護診断過程 成果の設定と看護計画		診断」を熟読してくる			
第 5 回	診断過程の実際(事例展開) 情報収集		情報をデータベースにク		30分	
第 6 回	診断過程の実際(事例展開) 情報の整理		ラスターごとにまとめる			
第 7 回	診断過程の実際(事例展開) 解釈 総合		データベースの情報を整		30分	
第 8 回	診断過程の実際(事例展開) ステップ1, 2		理する			
第 9 回	診断過程の実際(事例展開) ステップ3, 4		解釈・総合をやる		1時間	
第 10 回	発表 Discussion		ステップ1・2・3・4を		1時間	
第 11 回	診断過程の実際(事例展開) 問題の統合		やってみる			
第 12 回	診断過程の実際(事例展開) 成果・目標の設定		疑問点の整理		20分	
第 13 回	診断過程の実際(事例展開) 看護計画立案		成果・目標を立案		1時間	
第 14 回	診断過程の実際(事例展開) 看護計画立案		看護計画を立案		1時間	
第 15 回	発表 Discussion		疑問点の整理		20分	
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(80%)、参加状況(20%)					
課題のフィード バックの方法	提出課題へのコメントおよび授業の中で解説する					
テ キ ス ト	江川隆子; ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, スーベルヒロカワ					
参 考 図 書	江川隆子; かみくだき看護診断過程、日総研					
履修上の留意点	無断欠席は認めない。授業時間だけでは看護診断過程の理解・習得は不可能であり、主体的・積極的に学習に取り組むことが必要不可欠である。					

授業科目名	在宅看護論 I (概論)	担当教員名	古川 秀敏			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-9	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識を学ぶ。あわせて、在宅療養に関わる制度についても学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1. 在宅看護学の概念および特性と機能を理解する。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解する。 3. 在宅看護に係る制度を理解する。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	オリエンテーション・在宅看護の概念		教科書pp.70-109 通読		30分	
第 2 回	在宅療養と家族の支援—訪問看護の対象者・在宅療養の成立要件・家族看護		教科書pp.14-20・70-77・136-150 通読		30分	
第 3 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護①		教科書pp.211-212・214-215・216-218 通読		30分	
第 4 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護②		教科書pp.213-214-211・226-228 通読		30分	
第 5 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護③		教科書pp.213-214-211・226-228 通読		30分	
第 6 回	在宅看護の倫理と基本理念、高齢者虐待、リスクマネジメント		テキストpp.32-39・194-204通読		30分	
第 7 回	在宅看護が展開される様々な場と方法・災害・感染		テキストpp.72-75・200-201・202-204・通読		30分	
第 8 回	継続看護・退院指導、服薬管理		テキストpp.77-87・219-223通読		30分	
第 9 回	急性増悪・転倒予防 在宅看護を深める方法		テキストpp.198-199・216-217・270-273配布資料の通読		45分	
第 10 回	在宅療養における心理社会的課題①		事前配布資料 通読		30分	
第 11 回	在宅療養における心理社会的課題②		事前配布資料 通読		30分	
第 12 回	訪問看護の対象・小児		事前配布資料 通読		30分	
第 13 回	訪問看護の対象・難病①		事前配布資料 通読		30分	
第 14 回	訪問看護の対象・難病②		事前配布資料 通読		30分	
第 15 回	まとめ		講義資料		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (100%)。なお、単位取得には授業回数の 2/3 以上の出席が必要。					
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。					
テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア 第6版					
参 考 図 書	随時、紹介する					
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学習してください。					

2
学
年
後
期

授業科目名	公衆衛生看護活動論 I (対象別公衆衛生看護活動論)	担当教員名	伊木 智子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-12	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 公衆衛生看護の対象、場の特性に応じた看護活動のあり方と保健指導の展開を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1. 公衆衛生看護活動における保健指導の基本と展開方法を理解する。 2. 各発達課題、健康問題、健康レベル、場の特性に応じた対象別の保健指導を理解する。 3. 対象別保健活動の法的根拠や制度について理解する。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第 1 回	公衆衛生看護学の考え方と位置づけ：各ライフステージにおける発達課題と保健サービス、 法律・制度	<p>【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。</p> <p>【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。</p>	1~2時間 程度	1~2時間 程度		
第 2 回	成人期の保健活動					
第 3 回	高齢者保健福祉対策と高齢者の保健活動					
第 4 回	難病保健活動・障害者（児）保健活動					
第 5 回	精神保健福祉活動					
第 6 回	学校保健					
第 7 回	産業保健					
第 8 回	まとめ：公衆衛生看護活動の現状と課題					
学修評価の方法 (成績割合%)	課題レポート (10%)、2回の小テスト (20%)、定期試験 (80%)					
課題のフィードバックの方法	フィードバックとして課題レポートにコメントを返す。 2回の小テストは、翌週の授業時に返却し解答・解説する。					
テ キ ス ト	麻原きよみ他編著：公衆衛生看護学テキスト1公衆衛生看護学原論（最新版）					
参 考 図 書	<p>標 　ら編著：標準保健師講座 1, 公衆衛生看護学概論, 医学書院。</p> <p>中谷ら編著：標準保健師講座 3, 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院</p> <p>平野ら編著：ナースング・グラフィカ健康支援と社会保障①健康と社会・生活, メディカ出版</p> <p>市村ら編著：ヘルスプロモーション, メジカルフレンド社。</p>					
履修上の留意点	公衆衛生看護学概論での学びをもとに、地域で生活するあらゆる健康レベルや発達段階にある人々がどのように暮らし、どのような健康課題があるのか関心持ち主体的に学習してください。					

授業科目名	成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	担当教員名	笠岡 和子・原田 美穂子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-19	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 急性期・回復期にある成人の健康問題の特性を理解し、急激な変化・回復への過程を支えるために必要な看護を実践するための基礎知識・技術を教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期・回復期にある成人対象者の特徴とその看護の特性を理解することができる。 機能障害を持つ対象者の急性に変化する状況のアセスメント、看護援助方法を理解することができる。 チーム医療における看護師の役割を理解することができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	<p>救命救急時の看護：ショック、熱傷等 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 脳・神経疾患 ・脳の機能と症状との関係 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 ・クモ膜下出血、脳梗塞 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 呼吸器疾患 ・急性呼吸不全、急性期症状 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 呼吸器疾患 ・肺がん、検査時の看護 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 循環器疾患 ・急性心筋梗塞、急性期症状 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 循環器疾患 ・心不全、検査時の看護 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 消化器疾患 ・胃がん、大腸がん 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 消化器疾患 ・胆嚢炎、急性膵炎 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 内分泌・代謝疾患 ・内分泌ホルモン障害、症状と検査 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 腎・泌尿器 ・急性腎不全 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 性・生殖障害 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 アレルギー・膠原病・感染症 ・免疫不全、感染症、HIV 他 化学療法・放射線療法の看護</p>		<p>授業内容の復習と事前の授業内容の予習(該当ページを読んでくる) (全回)</p>			1時間
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験70%、小テスト20%、授業参加(授業中の態度、課題への取り組みなど)10%にて評価する。					
課題のフィードバックの方法	必要な学生に対して口頭(解説等)又は文章にて個別に対応する。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2-15〕、別館「救急看護」医学書院					
参考図書	随時提示する。					
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要					

授業科目名	成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)	担当教員名	笠岡 和子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-20	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 急性期・回復期にある成人の健康問題の特性を理解し、急激に変化する過程を支えるために必要な看護を実践するための基礎知識・技術について教授する。また、終末期の治療を理解し、苦痛の緩和方法を含めた看護援助方法について教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 周手術期にある対象者の特性と看護を理解することができる。 2. 機能障害を持つ対象者の急性に変化する状況のアセスメント、看護援助方法を理解することができる。 3. 終末期・リハビリテーション期にある対象者の特徴と看護の特性を理解することができる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	周手術期にある成人の治療・処置および看護 ①手術侵襲と生体の反応		復習と学習内容の予習 (事前に該当ページを読んでくる)(全回)		1時間	
第 2 回	②麻酔の影響と合併症に対する看護 ③手術後の創部治癒と痛みへの援助					
第 3 回	④腹部手術を受ける患者の看護：胃・直腸切除術 ⑤胸部手術を受ける患者の看護：肺摘出術					
第 4 回	⑥運動器手術を受ける患者の看護：骨折					
第 5 回	排泄能障害のある患者の看護：尿失禁					
第 6 回	運動機能障害を持つ人の看護：①骨折②脊椎疾患(術後) リハビリ期にある人の反応と看護援助：①運動系②呼吸器 ③循環器					
第 7 回	緩和ケアを受ける患者の看護					
第 8 回	化学療法・放射線療法の看護					
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 70%、小テスト 20%、授業参加(授業中の態度、課題への取り組みなど) 10%にて評価する。					
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して口頭(解説等)又は文章にて個別に対応する。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2-15]、別巻「臨床外科総論」「臨床外科各論」「救急看護」「がん看護学」「緩和ケア」「リハビリテーション看護」「臨床放射線医学」医学書院					
参 考 図 書	随時提示する。					
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要					

授業科目名	成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)	担当教員名	神谷 千鶴・下舞 紀美代			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-21	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>慢性期にある成人の疾患と治療によって生じる機能および健康問題の特性を理解し、病とともにその人らしく生きる過程を支えるための看護についての基礎知識を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康課題を有する患者と家族の状況を査定し、疾病管理に向けた看護援助方法について理解する 2. 慢性的な健康課題を有する患者と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について理解する 3. 慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について理解する 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	慢性期にある人と家族の理解、慢性期看護の理解		教科書の当該ページを読んでくる。当該疾患に関する人体構造機能学・病態生理学の復習をしてくる。(全回)			各60分
第 2 回	慢性期看護の展開					
第 3 回	慢性期にある人・家族への看護					
第 4 回	①慢性閉塞性肺疾患					
第 5 回	②気管支喘息					
第 6 回	③慢性心不全					
第 7 回	④白血病					
第 8 回	⑤潰瘍性大腸炎・クローン病					
第 9 回	⑥脳梗塞後遺症					
第 10 回	⑦慢性腎臓病					
第 11 回	⑧2型糖尿病					
第 12 回	⑨全身性エリテマトーデス					
第 13 回	⑩関節リウマチ					
第 14 回	⑪筋萎縮性側索硬化症					
第 15 回	脳梗塞後遺症患者の事例展開①					
	脳梗塞後遺症患者の事例展開②					
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 80%・小テスト 20%として評価する。					
課題のフィード バックの方法	小テストは授業時間内に解答解説を行う。筆記試験については、定期試験期間終了後、口頭または文章にて解答解説を行う。					
テ キ ス ト	黒江ゆり子編 (2020) 新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護 (第1版) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「2～15」医学書院 江川隆子他 (2014)：関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録、かみくだき看護診断過程、日経研、東京。基礎看護学V(問題解決技法) で用いるテキスト					
参 考 図 書	林直子他編集 (2016)：成人看護学概論 (改訂第2版), 南江堂, 東京。					
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要					

2
学
年
後
期

授業科目名	老年看護学Ⅱ (援助論)	担当教員名	下舞 紀美代			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-24	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 健康障害をもつ高齢者とその家族の特徴をふまえたアセスメントの基本的な知識を理解し、疾病からの回復および日常生活への適応に必要な看護援助について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に特有な健康障害の特徴とその家族の看護について説明できる。 2. 高齢者の生活機能と看護ケアについて説明できる。 3. 健康障害をもつ高齢者のアセスメントができる。 4. 終末期にある高齢者とその家族の看護が説明できる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス		1回目:		30分	
第 2 回	テキスト1. 第7章:治療を必要とする高齢者の看護		テキストの第7章を読んでくる。			
第 3 回	テキスト1. 第8章:エンドオブライフケア		2回目:		30分	
第 4 回	テキスト1. 第9章:生活・療養の場における看護		テキスト第8章、9章を読んでくる。			
第 5 回	テキスト1. 第10章:高齢者のリスクマネジメント		3回目:		90分	
第 6 回	テキスト1. 付章:看護過程の展開		テキスト第10章は呼んでくる。付章の事例展開の情報とアセスメントを読んでくる。			
第 7 回	テキスト2. 序章:「超高齢社会」における老年看護への期待		4回目~12回目まではその項目に沿ってテキストを読んでくる。		各60分	
第 8 回	テキスト2. 第1章:高齢者の生理的特徴		13、14回目はそれぞれの疾患の治療、薬、検査項目などを調べてくる。			
第 9 回	テキスト2. 第2章:老年症候群		*各課題は、それぞれが重要と判断した箇所をノートにまとめる。覚えることが目的なので、テキストのコピー添付や丸写しではなく、自分の学習に活かせるようにまとめる。		各30分	
第 10 回	テキスト2. 第3章:高齢者の健康状態の把握と総合機能評価					
第 11 回	テキスト2. 第4章:高齢者の疾患の特徴 ④認知症⑤精神・神経疾患⑥循環器系疾患					
第 12 回	テキスト2. 第4章:高齢者の疾患の特徴 ⑦呼吸器系の疾患⑧消化器系の疾患⑨内分泌・代謝系の疾患					
第 13 回	テキスト2. 第4章:高齢者の疾患の特徴 ⑩自己免疫疾患⑪血液の疾患⑫腎・泌尿器系の疾患					
第 14 回	テキスト2. 第4章:高齢者の疾患の特徴 ⑬運動器の疾患⑭皮膚の疾患⑮感覚器の疾患⑯歯・口腔の疾患⑰感染症					
第 15 回	テキスト2. 第5章:高齢者の薬 テキスト2. 第6章:高齢者のリハビリテーション テキスト2. 第終章:高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア 事例展開・病態関連図:心筋梗塞・心不全 事例展開・病態関連図:アルツハイマー型認知症 認知症患者のリラクゼーション					
学修評価の方法 (成績割合%)	ミニテスト (20%)・記述試験 (80%) 欠席・遅刻・途中退席で受けていないミニテストは0点となります。					
課題のフィードバックの方法	課題ノートは、最終的に提出してもらい、コメントを入れて返却する。また、課題遂行上不明瞭な点(質問事項)については、各個人に対応して説明する。					
テ キ ス ト	1. 北川公子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 佐々木秀忠他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院					
参 考 図 書	必要時提示します					
履修上の留意点	老年看護学Ⅰの概論を基に、看護学の知識を広げ、看護実践につながる講義です。したがって課題は、老年看護学Ⅰで使用したテキストも活用し取り組むこと。 ノートの準備をお願いします。					

授業科目名	小児看護学Ⅱ (援助論)	担当教員名	箕浦 洋子・植村 幹二郎							
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4				
単位数・時間	2単位・30時間			●						
授業形態	講義		●-必修・○-選択							
カリキュラム記号	B-27	D P 記号	DP-2							
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 健康障がいを持つ子どもによくみられる症状と疾患を理解し、さまざまな成長・発達段階と健康レベルに応じた子どもとその家族に看護を実践するための基礎知識と技術を教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 子どもによくみられる症状と疾患及びそれに対する看護が理解できる。 2. 子どもの健康回復や保持・増進にかかる看護とその家族への支援について、具体的な援助方法が理解できる。</p>									
授業回数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容	必要時間					
第1・2回	<p>ガイダンス</p> <p>1. 発達段階に応じた子どもへの説明と同意</p> <p>1) プレパレーションの概念とその実際</p> <p>2) 発達段階に応じた同意へのアプローチ</p> <p>2. 健康障がいをもつ子どもと家族への援助</p> <p>1) 入院している子どもの生活と環境</p> <p>①入院中の子どもの遊びとコミュニケーション</p> <p>②子どもの病気と家族の変化</p> <p>2) 子どもによくみられる症状とその看護</p> <p>①発熱</p> <p>②脱水</p> <p>③けいれん</p> <p>④痛み</p> <p>⑤救急ケア</p> <p>3) 急性期にみられる主な疾患とその看護</p> <p>4) 入院中の子どもと家族の看護</p> <p>5) 外来における子どもと家族の看護</p> <p>6) 手術を受ける子どもと家族の看護</p> <p>7) 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>8) 慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>9) 在宅における子どもと家族の看護</p> <p>10) 終末期にある子どもと家族の看護</p> <p>11) ハイリスク新生児と家族への看護</p> <p>3. 子どもによくみられる疾患とその治療</p>			<p>・次回講義についてテキストにて該当の頁を読む</p> <p>・講義後復習を行う(毎回)</p>	<p>毎回 30分</p>					
第3・4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11～15回										
学修評価の方法 (成績割合%)						課題レポート・小テスト(20%)、グループワーク参加状況(10%)、筆記試験(70%)で評価する。				
課題のフィードバックの方法						小テストの解答を提示し解説する。課題レポートは採点及びコメントを入れて返却する。				
テキスト						<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論</p>				
参考図書						授業時に提示する。				
履修上の留意点						小児看護学Ⅰ(概論)【小児各期の成長・発達段階】の復習をして下さい。臨床医師より疾患の講義があります。人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱの復習を行い講義に臨んで下さい。				

授業科目名	母性看護学Ⅱ-b (援助論)	担当教員名	神谷 映里・小笠原 百恵 植村 幹二郎・濱西 正三			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-31	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>褥婦と新生児の生理と特徴や変化をふまえ、アセスメントの方法を教授する。褥婦と新生児におけるハイリスク状況をふまえ、異常および医学的管理と看護を教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥婦と新生児の身体的、心理・社会的特徴や変化を理解することができる。 2. 褥婦と新生児が健康に経過することの意義を理解することができる。 3. 褥婦と新生児やその家族の看護と医学的管理方法を理解することができる。 4. 褥婦と新生児やその家族の看護に必要な援助方法を説明することができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	褥婦の生理と特徴、褥婦のアセスメント		予習 テキストの授業内容部分を 読んでくること		各30分	
第 2 回	褥婦と家族への看護					
第 3 回	新生児の特徴と生理的变化		第1～2回 母性看護学各論 第6章			
第 4 回	新生児のアセスメント、新生児と家族への看護		第3～4回 母性看護学各論 第5章			
第 5 回	新生児の異常		第5～8回 母性看護学各論 第7章			
第 6 回	褥婦の異常					
第 7 回	新生児の看護(異常)		復習 テキストの授業内容部分と配 付資料で理解を深めること			
第 8 回	褥婦の看護(異常)					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(100%)					
課題のフィード バックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。					
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論					
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産 文光堂 病気がみえる 産科 メデックメディア					
履修上の留意点	詳細については、初回授業で提示します。準備学習はテキストの授業内容の部分をよく読んでおいてください。					

授業科目名	精神看護学Ⅱ (援助論)	担当教員名	小出水 寿英					
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4		
単位数・時間	2単位・30時間			●				
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択					
カリキュラム記号	B-34	D P 記 号	DP-2					
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>精神看護に必要な医学的知識と治療ならびに精神障がいと社会の捉え方について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>1 主な精神疾患について理解する。</p> <p>2 主な精神疾患に必要な治療を理解する。</p>							
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間			
第 1 回	I. 精神の健康障がいについて	第1回：テキストp2-p36			各60分			
第 2～3 回	II. 精神症状の把握	第2回：テキストp37-p56						
	III. 精神疾患について	第3回：テキストp57-p78						
第 4～5 回	1) 内因性精神障がい	第4-5回：テキストp80-p96						
第 6～7 回	2) 心因性精神障がい	第6-7回：テキストp97-p110						
第 8～9 回	3) 身体因性精神障がい	第8-9回：テキストp111-p131						
第 10～11 回	4) 児童・青年期精神障がい	第10-11回：テキストp140-171						
	IV. 治療	第12回：テキストp230-p246						
第 1 2 回	1) 精神療法	第13回：テキストp274-p289						
第 1 3 回	2) 薬物療法	第14-15回：テキストp247-p273						
第 1 4 回	3) 精神科リハビリテーション①	*指定された部分を通読し内容を確認する。また、専門用語理解する。						
第 1 5 回	4) 精神科リハビリテーション②							
学修評価の方法 (成績割合%)	課題(10%)、確認テスト(10%)、出席状況(10%)、テスト(70%)で評価する。							
課題のフィード バックの方法	課題・確認テストは講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。いずれにおいても質問等があれば随時対応する。							
テ キ ス ト	上島国利、渡辺雅幸編著：ナースの精神医学，中外医学社，最新版.							
参 考 図 書	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 緒発達と看護の基本，MC メディカ出版，最新版. ナーシンググラフィカ 精神看護学② 活障害と看護の実践，MC メディカ出版，最新版.							
履修上の留意点	テキストの授業内容部分を必ず予習、復習して下さい。							

授業科目名	英語Ⅴ	担当教員名	William C. Simmons			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-21	D P 記 号	DP-1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>This class will cover common terms, situations, and circumstances for nurses dealing with patients in English.</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>The goal of this class is to increase the knowledge and confidence of students using everyday medical English.</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
Lesson 1	Introductions					
Lesson 2	Meeting Patients		Audio 1-03, 1-04 p.6-8		30分	
Lesson 3	Taking a Medical History		Audio 1-11, 1-12 p.12-14		30分	
Lesson 4	Assessing Patients' Symptoms		Audio 1-18, 1-19 p.18-20		30分	
Lesson 5	Taking Vital Signs		Audio 1-28, 1-29 p.26-28		30分	
Lesson 6	Taking a Specimen		Audio 1-35, 1-36 p.32-34		30分	
Lesson 7	Conducting Medical Examinations		Audio 1-41, 1-42 p.38-40		30分	
Lesson 8	Assessing Pain		Audio 2-03, 2-04 p.48-50		30分	
Lesson 9	Advising about Medication		Audio 2-11, 2-12 p.54-56		30分	
Lesson 10	Improving Patients' Mobility		Audio 2-19, 2-20 p.60-62		30分	
Lesson 11	Maintaining a Good Diet		Audio 2-28, 2-29 p.68-70		30分	
Lesson 12	Caring for Inpatients		Audio 2-35, 2-36 p.74-76		30分	
Lesson 13	Coping with Emergencies		Audio 2-42, 2-43 p.80-82		30分	
Lesson 14	Group Project - Role Play		Project preparation		60分	
Lesson 15	Group Project and Review for Final		Project preparation		60分	
学修評価の方法 (成績割合%)	Homework & Participation : 45%		Group Work : 30%		Final Written Test : 25%	
課題のフィード バックの方法	Written Test : Graded tests will be returned to student. Olar and Online Home Work will be graded on a Rubric.					
テ キ ス ト	Caring for People 必要					
参 考 図 書	ダウンロード Flashcards app. Twitter : @FlashcardsNKO You can download it for iOS and Android.					
履修上の留意点	This is a class for active talking. Don't be shy. Talk! Talk! Talk! I'm looking forward to working with all of you.					

授業科目名	疫学	担当教員名	西村 由実子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				○	
授業形態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-2-12	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>疫学は、地域社会や組織など集団における疾病や健康の分布や決定要因を探り、疾病予防および健康増進の対策に寄与する科学である。広く公衆衛生に貢献することを目的として、疫学的思考方法の基礎と国内外の健康動向を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究で使われる基本的な指標を理解し、計算することができる。 2. 様々な研究デザインの特徴を理解し、説明することができる。 3. 疫学研究の成果を地域における健康増進対策に役立てる方法を理解する。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス／疫学の概念		★ 1章 熟読		30分	
第 2 回	集団の健康状態の把握 (1)		★ 2章 熟読		30分	
第 3 回	集団の健康状態の把握 (2)		★ 2/9章 熟読		30分	
第 4 回	集団の健康状態の把握 (3)		★ 2章 熟読		30分	
第 5 回	疫学的研究方法 (1)		★ 3章 熟読		30分	
第 6 回	疫学的研究方法 (2)		★ 3章 熟読		30分	
第 7 回	疫学的研究方法 (3)		★ 3章 熟読		30分	
第 8 回	疾病登録／中間テスト		★ 5章 熟読／総復習		30分	
第 9 回	疾病の予防とスクリーニング		★ 4章 熟読		30分	
第 10 回	おもな疾患の疫学		★ 6章 熟読		30分	
第 11 回	疫学と公衆衛生看護		★ 7章 熟読		30分	
第 12 回	保健統計学の基礎 (1)		★ 8章 熟読		30分	
第 13 回	保健統計学の基礎 (2)		★ 8章 熟読		30分	
第 14 回	人口統計の基礎・保健統計調査		★ 9/10章 熟読		30分	
第 15 回	保健医療情報の管理・活用／まとめ		★ 11章 熟読／総復習		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (15%)、中間テスト (20%)、提出物 (15%)、定期試験 (50%)					
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、提出物等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テキスト	牧本清子他『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』医学書院 (最新版) ・★					
参考図書	丸井英二『最新 保健学講座6 疫学/保健統計』メヂカフレンド社 (最新版) 大木秀一『基本からわかる看護疫学入門』医歯薬出版株式会社 浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計』南山堂					
履修上の留意点	保健師国家試験受験資格を得ることを希望している人は必修です。その他のみなさんも歓迎します。履修希望者は第1回ガイダンスに必ず出席してください。					

授業科目名	カウンセリング論	担当教員名	花村 カテリーナ			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				○	
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	A-2-17	D P 記 号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 看護の仕事においてカウンセリングの能力は極めて重要な役割を担うものである。カウンセリングの理論的基盤には大別すると人間性心理学、精神分析、行動主義心理学の3つがあるが、実際にはケースバイケースで折衷的または統合的アプローチが採用される。そのため、3つの学派の基礎的理論と技法に関する概観を示すと同時に、看護現場の特性を踏まえた具体的なアプローチについて様々な事例を示しながら教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現場におけるカウンセリングマインドの重要性と特性を理解する。 2. 主要な学派のカウンセリング理論と技法について概観をつかみ、看護現場の特性に合致するカウンセリング技法を実施できる。 3. 傾聴と共感を基本とした言語的・非言語的なコミュニケーション技術を実施できる。 4. 人の行動変容支援に必要な心理学の基礎的な理論について概観をつかむ。 5. チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法を理解する。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間		
第 1 回	ガイダンス。自己モニタリングの方法		第1回目前に基礎看護学IIの予習をしてください。 各回とも講義資料を復習してください。 理解を深めるために適宜課題レポートを出します。	各回とも 30分程度		
第 2 回	カウンセリング諸学派の概観					
第 3 回	人間性心理学派（来談者中心療法）の理論					
第 4 回	応答練習①					
第 5 回	応答練習②					
第 6 回	精神分析の理論					
第 7 回	「無意識」の概念を理解する					
第 8 回	行動主義心理学派の理論					
第 9 回	応答練習③					
第 10 回	認知行動療法の理論					
第 11 回	応答練習④					
第 12 回	看護カウンセリングの特性					
第 13 回	モデル・ケースの討論					
第 14 回	応答練習⑤					
第 15 回	連携とコミュニケーション					
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加度（50%）、レポート（50%）					
課題のフィードバックの方法	課題レポートは具体的な評価基準をその都度ルーブリックにて提示し、採点後に各自の配点を確認できるようにする。応答練習はグループワークの進行具合に沿ってその都度、または自己採点シートに個別でコメントを書くなどしてフィードバックを行う。					
テキスト	「ナースだからできる5分間カウンセリング」小島通代・吉本武史 医学書院1999年					
参考図書	適宜紹介します。					
履修上の留意点	「実際にやってみる」を中心とした授業です。自分の得意不得意を知ること、得意な技法を1つみつけることを目標にすると、実習や日常生活に役立ちます。					

授業科目名	在宅看護論Ⅱ (援助論)	担当教員名	古川 秀敏			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-14	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識、展開方法を学ぶ。あわせて、在宅療養に関わる法律、制度について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護学の概念および特性と機能を理解する。 2. 在宅ケアシステムと在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解する。 3. 在宅看護に係る制度、法律を理解する。 4. 在宅における看護過程を展開できる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	オリエンテーション・在宅看護の概念		教科書pp.70-109 通読		30分	
第 2 回	在宅療養と家族の支援—訪問看護の対象者・在宅療養の成立要件・家族看護		教科書pp.14-20・70-77・136-150 通読		30分	
第 3 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護①		教科書pp.211-212・214-215・216-218 通読		30分	
第 4 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護②		教科書pp.213-214-211・226-228 通読		30分	
第 5 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護③		教科書pp.213-214-211・226-228 通読		30分	
第 6 回	在宅看護の倫理と基本理念、高齢者虐待、リスクマネジメント		テキストpp.32-39・194-204通読		30分	
第 7 回	在宅看護が展開される様々な場と方法・災害・感染		テキストpp.72-75・200-201・202-204通読		30分	
第 8 回	継続看護・退院指導、服薬管理		テキストpp.77-87・219-223通読		30分	
第 9 回	急性増悪・転倒予防 在宅看護を深める方法		テキスト pp.198-199・216-217・270-273配布資料の通読		45分	
第 10 回	在宅療養における心理社会的課題①		事前配布資料 通読		30分	
第 11 回	在宅療養における心理社会的課題②		事前配布資料 通読		30分	
第 12 回	訪問看護の対象・小児		事前配布資料 通読		30分	
第 13 回	訪問看護の対象・難病①		事前配布資料 通読		30分	
第 14 回	訪問看護の対象・難病②		事前配布資料 通読		30分	
第 15 回	まとめ		講義資料		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(80%)。紙面事例に対する看護過程の展開(20%)。なお、単位取得には授業回数の2/3以上の出席が必要。					
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。					
テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア 第6版					
参 考 図 書	随時、紹介する					
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学習してください。					

3
学
年

前
期

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅱ (公衆衛生看護管理論)	担当教員名	伊木 智子 専門分野教員			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	3単位・45時間				○	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-16	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>公衆衛生看護活動を実施するために、健康管理活動のあり方と具体的方法について学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>地域全体を視野に入れた公衆衛生看護活動という側面から、住民の健康生活を支援する看護援助の理論と具体的援助技術を習得する。</p> <p>1) 公衆衛生看護活動における地域看護診断の目的と展開方法を理解する。</p> <p>2) 地域看護診断に必要な理論と知識を理解し、具体的な技術を習得する。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1・2 回	地域全体を視野に入れた健康管理活動とは：様々なライフサイクル・健康レベルの人々に対する地域看護活動		<p>【予習】</p> <p>教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。</p> <p>【復習】</p> <p>教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。</p>		1～2 時間以上	
第 3・4 回	地域看護診断の概念と理論					
第 5・6 回	地域看護診断の展開方法					
第 7～10 回	地域看護診断の展開技術①：既存資料の分析					
	地域看護診断の展開技術②：地区踏査、 住民へのインタビュー					
第 11～14 回	地域看護診断の展開技術③：情報からのアセスメント					
	地域看護診断の展開技術④：地域看護活動計画の作成					
第 15～18 回	地域看護診断の展開技術⑤：発表とディスカッション					
第 19～22 回	地域における健康管理活動の展開、PDCA サイクル					
第 23 回	施策化の方法、地域における健康管理活動の課題と展望 まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	演習態度・演習記録・課題レポート50%、定期試験50%					
課題のフィード バックの方法	演習記録・課題レポートはコメント付きで返却する。					
テ キ ス ト	佐伯和子編著：地域看護アセスメントガイド，医歯薬出版株式会社。 標美奈子他編著：標準保健師講座1,公衆衛生看護学概論，医学書院。					
参 考 図 書	中村裕美子他編著：標準保健師講座2,：公衆衛生看護技術，医学書院 金川克子,田高悦子：地域看護診断，東京大学出版会 金川克子：コミュニティアズパートナー—地域看護学の理論と実際，医学書院，					
履修上の留意点	保健師国家試験受験者の選択必修科目である。保健師国家試験に必要とされる基礎的な知識および公衆衛生看護管理活動に必須である地域看護診断の具体的な技術を講義・演習をとおして、学ぶことができる。					

授業科目名	成人看護学Ⅳ-a (援助方法論)	担当教員名	原田 美穂子・笠岡 和子 神谷 千鶴・専門分野教員			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-22	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 事例を通して、治療を受ける成人期にある人の現象を捉え、科学的思考に基づいた看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者の現象を捉えるための関連図や看護診断過程を理解することができる。 2. 科学的思考に基づいた看護診断過程を行うことによって、医療問題・看護上の問題を明確にすることができる。 3. 医療問題・看護上の問題について、計画を立案することができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	急性期・慢性期事例を用いた看護診断思考過程の展開		病態関連図を作成するために必要な知識(疾患・治療など)を復習しておく。 ・関連図の書き方を復習しておく。 ・看護診断過程について、復習しておく。 ・看護診断過程によって導かれた看護上の問題に応じた看護援助について予習しておく。		1時間程度 1時間程度 1時間程度 1時間程度	
第 2 回	ガイダンス・関連図の作成方法					
第 3 回	看護過程(看護診断過程)について①					
第 4 回	看護過程(看護診断過程)について②					
第 5 回	急性期事例の病態関連図について					
第 6 回	急性期事例展開①					
第 7 回	急性期事例展開②					
第 8 回	急性期事例展開：解説					
第 9 回	急性期事例展開：解説					
第 10 回	慢性期事例の病態関連図について					
第 11 回	慢性期事例展開①					
第 12 回	慢性期事例展開②					
第 13 回	慢性期事例展開：解説					
第 14 回	慢性期事例展開：解説					
第 15 回	看護上の問題、医療問題の優先順位について 成人期における看護過程(診断過程)のまとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	事例展開記録冊子(急性期30%,慢性期30%)筆記試験40% 60%以上の点数を有することで合格とする。					
課題のフィードバックの方法	急性期事例展開および慢性期事例展開の記録冊子は、最終的に提出してもらい、コメントを入れて返却する。質問事項があれば、個人的に対応する。					
テ キ ス ト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 江川隆子編(2016):ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程と看護診断、第3版、ヌーベルヒロカワ。 2. 江川隆子編(2013):これなら使える看護診断 第4版 医学書院。 江川隆子編(2016):これなら使える看護介入 医学書院。 					
参 考 図 書	系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「リハビリテーション看護」「系統看護学講座成人看護学1~15」医学書院。					
履修上の留意点	病態治療学や人体構造機能学、生化学、薬理学、看護診断学、基礎看護学(問題解決技法)、成人看護学(急性期・慢性期援助論)など、既習の知識の統合を目指した演習となります。					

授業科目名	成人看護学Ⅳ-b (援助方法論)	担当教員名	神谷 千鶴・小平 京子 笠岡 和子・原田 美穂子 下舞 紀美代・専門分野教員			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・45時間				●	
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-23	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 事例を通して、治療を受ける成人期にある人の現象をとらえ、看護援助を行うための看護技術の方法とその根拠を学ぶ。</p> <p>〔学修目標〕 1. 成人期にある患者の現象をとらえるためのアセスメント方法を理解できる。 2. 看護介入に必要な看護治療技術を習得することができる。 3. 急性期・慢性期・回復期に必要な医療技術を習得することができる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス・事例の解説、患者教育について		成人看護学Ⅳaの復習		30分	
第 2 回	急性期の援助技術		成人看護学Ⅱa,bの復習		30分	
第 3～5 回	感染予防(手指衛生・無菌操作)／酸素療法・吸入療法 ／膀胱留置カテーテル		感染予防に関する復習 呼吸・循環に関する復習		30分	
第 6～8 回	輸液ポンプ／吸引／ドレーン・創傷管理		以下、当該技術の事前 配布資料・教科書の熟		各30分	
第 9～11 回	技術練習Ⅰ／技術練習Ⅱ／患者教育①		読、課題を行ってくる。			
第 12・13 回	技術確認Ⅰ・Ⅱ／患者教育②					
第 14 回	慢性期・回復期の援助技術Ⅲ					
第 15～17 回	経管栄養／心電図検査／フットケア					
第 18～20 回	関節可動域訓練／筋力強化訓練／血糖測定・インスリン注射					
第 21・22 回	技術確認Ⅲ／患者教育 GW⑤					
第 23 回	まとめ、患者教育発表会					
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況、学習態度、課題の提出(患者教育資料)20%、技術確認40%ならびに筆記試験40%の結果を総合して評価する。技術確認Ⅰ・Ⅱ、Ⅲと筆記試験のすべてが合格点(60点)以上であることが、単位認定の必須条件とする。					
課題のフィード バックの方法	課題については評価指標に基づき点数化して評価を返却する。技術確認は評価表に基づき、口頭でフィードバック行う。筆記試験については、解答解説を口頭または文章で実施する。					
テ キ ス ト	医療情報科学研究所 編(2019):臨床看護技術,看護技術がみえる vol.2,メディックメディア,東京.成人看護学Ⅰ・Ⅱa,b・Ⅲ,成人看護学Ⅳaで使用した資料ならびに参考書プラクティス、フィジカルアセスメントで使用したテキスト					
参 考 図 書	系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「リハビリテーション看護」,系統看護学講座成人看護学1～15巻,医学書院.					
履修上の留意点	小グループごとの演習で、グループごとに行う演習の順番が異なります。演習には指定された服装・身なりで臨むこと。					

授業科目名	老年看護学Ⅲ (援助方法論)	担当教員名	下舞 紀美代			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-26	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 既習の学習と関連させながら、高齢者とその家族を理解するためのアセスメント能力を養い、高齢者への看護技術の実践に向けて講義と演習を通して学習する。また、事例による看護過程の展開から、より実践的な看護活動を修得する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 健康障害をもつ高齢者へのアセスメントができる。 2. 健康障害をもつ高齢者の看護過程を展開できる。 3. 健康障害をもつ高齢者への看護技術ができる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス、事例展開解説 ・講義・病態関連図 ・事例の関連図 ・データベース情報記入 ・事例の関連図 ・整理・解釈・総合(アセスメント)		第1回 成人看護学Ⅳaのガイドラインを熟読してくる。		60分	
第 2 回	ND・NC・CPの根拠の説明 高齢者への援助技術:約35名 ①嚥下障害・義歯洗浄・口腔ケア(講義) 嚥下訓練・口腔ケア技術演習		第2回～第10回 1. 技術チェック表を見ながら実際の技術手順を覚えてくる。①～③全て 技術の必要物品を全て覚えてくる。①～③全て		60分	
第 3 回	②高齢者への援助技術:褥瘡ケア(講義) 体圧測定・体圧分散技術演習		2. 事例展開の課題 ・老年期の加齢により変化、フレイル、サルコペニア、老年症候群を説明できるようにノートに記載する。		60分	
第 4 回	③タッチングケア(講義・演習) 約70名は事例展開 高齢者への援助技術:約35名		・前著の内容を加味してアセスメントし計画立案を考えてくる。		30分	
第 5 回	①嚥下障害・義歯洗浄・口腔ケア(講義) 嚥下訓練・口腔ケア技術演習		・不明な点をノートにまとめてくる。		30分	
第 6 回	②高齢者への援助技術:褥瘡ケア(講義) 体圧測定・体圧分散技術演習		3. 手順・必要物品を全て覚えてくる。		120分	
第 7 回	③タッチングケア(講義・演習) 約70名は事例展開 高齢者への援助技術:約35名					
第 8 回	①嚥下障害・義歯洗浄・口腔ケア(講義) 嚥下訓練・口腔ケア技術演習					
第 9 回	②高齢者への援助技術:褥瘡ケア(講義) 体圧測定・体圧分散技術演習					
第 10 回	③タッチングケア(講義・演習) 約70名は事例展開					
第 11 回	事例解説 (全員学内:2教室に分散)					
第 12 回	技術確認 (実習室)40名 他事例展開					
第 13 回	技術確認 (実習室)40名 他事例展開					
第 14 回	技術確認 (実習室)10名 他事例展開					
第 15 回	技術確認後解説 (学内:2教室に分散)					
学修評価の方法 (成績割合%)	事例展開記録(25%)技術習得(25%)筆記試験(50%)それぞれが60%以上の点数を有することで合格とする。事例・技術習各15点以上、筆記試験30点以上の総合評価					
課題のフィードバックの方法	課題ノートは、最終的に提出してもらい、コメントを入れて返却する。また、課題遂行上不明瞭な点(質問事項)については、各個人に対応して説明する。					
テキスト	亀井智子編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版 医学書院					
参考図書	江川隆子編集:ゴードンの健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA 北川公子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 佐々木秀忠他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 小坂橋喜久代編集:ナーシングマッサージ入門 日本看護協会出版会 他、看護診断、看護介入など、事例展開に必要な薬理学、解剖・生理学					
履修上の留意点	看護過程を展開し、その看護展開に必要な技術を演習します。解剖学、生理学、病態、薬理学の予習復習が重要です。また、看護技術は決められた時間内に安全・安楽を確保できる技術力が必要です。ノートの準備をお願いします。					

授業科目名	母性看護学Ⅲ (援助方法論)	担当教員名	小笠原 百恵・神谷 映里 永峰 啓子・尾筋 淑子 専門分野教員			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-33	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 事例を通して、妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を理解し、支援を行う上で必要となる基礎的な看護技術の方法を教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康保持・増進を促す援助技術を説明できる。 ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護と医学的管理を説明できる。 妊婦・産婦・褥婦および新生児に対する基礎的な看護技術や援助の方法を習得できる。 妊婦・産婦・褥婦および新生児の家族への援助を理解できる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回	ガイダンス、妊婦・産婦の看護技術の概要	講義資料・教科書の復習	各60分			
第 2 回	事例の展開：妊婦健康診査	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 3 回	妊婦のアセスメントに必要な看護技術と援助方法	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 4 回	事例の展開：産婦	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 5 回	産婦のアセスメントに必要な看護技術と援助方法	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 6 回	妊婦の看護技術(演習)	課題の作成				
第 7 回	産婦の看護技術(演習)	課題の作成				
第 8 回	事例の展開：褥婦・母乳育児	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 9 回	褥婦のアセスメントに必要な看護技術と援助方法	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 10 回	事例の展開：新生児	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 11 回	新生児のアセスメントに必要な看護技術と援助方法	講義資料の復習・記録用紙の作成				
第 12 回	褥婦・母乳育児の看護技術①(演習)	課題の作成				
第 13 回	褥婦・母乳育児の看護技術②(演習)	課題の作成				
第 14 回	新生児の看護技術①(演習)	課題の作成				
第 15 回	新生児の看護技術②(演習)	課題の作成				
学修評価の方法 (成績割合%)	授業内で提示する課題の提出(50%)、筆記試験(50%)					
課題のフィード バックの方法	提出された課題は添削を行い、課題の達成状況を確認する。達成状況に応じて、講義室で全体説明を行うだけでなく、研究室などの学内施設において課題に対する個別指導を行う。					
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論、 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論					
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産 文光堂、病気がみえる 産科 メデックメディア					
履修上の留意点	詳細については、初回授業で提示します。母性看護学Ⅱ-a、Ⅱ-b の講義内容をはじめとする既習内容を復習しておいてください。					

授業科目名	精神看護学Ⅲ (援助方法論)	担当教員名	小出水 寿英			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授業形態	講義・演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-36	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 精神疾患に罹患した当事者を理解するための理論や概念、アセスメント方法、看護実践のための技法を習得する。また、学生自身が当事者を理解しながら共に成長していける基礎的知識を学ぶ。</p> <p>[学修目標] 1. 精神疾患に罹患した当事者を理解するための看護理論や概念、技法について理解できる。 2. 精神疾患に罹患した当事者の看護実践のためのアセスメント方法について理解できる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間		
第 1 回 第 2～3 回 第 4～6 回 第 7～11 回 第 12～13 回 第 14～15 回	<p>I. 精神疾患と看護実践</p> <p>II. 援助的人間関係についての理解 精神(科)看護のアセスメントに必要な理論と概念</p> <p>III. 退院後の援助</p> <p>1) 地域精神保健福祉活動と地域生活支援について 2) 精神障がい者とりカバリー</p> <p>IV. 当事者理解のためのアセスメントと技法</p> <p>1) 精神科看護における語りを傾聴する意義 2) 精神科看護における受容と共感の関わり</p> <p>V. ライフヒストリー(生活歴)からの理解</p> <p>VI. 援助的人間関係についての理解 オレム・アンダーウッドセルフケア理論について</p>		<p>第1回:テキスト①p110-p128</p> <p>第2-3回:ペプロウ看護論等は図書等を活用し確認すること。</p> <p>第4-11回:精神看護学I、精神看護学IIの教科書の該当箇所を読み確認すること。</p> <p>第12-13回:テキスト①p130-p152、テキスト①p154-p172を読み確認すること。</p> <p>第14-15回:オレム・アンダーウッドセルフケア理論は図書等を活用し確認すること。</p> <p>また、各回のテキスト②③の該当箇所を読み確認すること。</p>	各60分		
学修評価の方法 (成績割合%)	課題(10%)、確認テスト(10%)、出席状況(10%)、テスト(70%)で評価する。					
課題のフィードバックの方法	課題・確認テストは講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。いずれにおいても質問等があれば随時対応する。					
テ キ ス ト	<p>①中井久夫, 山口直彦編著:看護のための精神医学, 医学書院, 最新版.</p> <p>②宮本真巳著:看護場面の再構成 感性を磨く技法 I, 日本看護協会出版会.</p> <p>③萱間真美:パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護, 照林社.</p>					
参 考 図 書	精神看護学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、ならびに講義中に明示した資料ならびに参考図書					
履修上の留意点	テキストの授業内容部分を必ず予習、復習して下さい。					

授業科目名	看護診断学Ⅱ	担当教員名	江川 隆子・笠岡 和子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-37	D P 記 号	DP-2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 事例を活用して、看護診断が顕著にできる医療背景を理解するとともに、その人にとっての看護診断の意義や看護診断過程（思考過程）について教授する。また、その看護診断過程における看護記録とその方法について教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護診断とその背景となる医療状況について学ぶことができる。 2. 診断概念の概念について学ぶことができる。 3. 看護診断に対するアセスメントについて学ぶことができる。 4. 看護診断過程とその記録について学ぶことができる。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	看護診断の法とケアの範囲、看護診断概念について		<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきた中で使用した、興味を持った、または、判らなかった看護診断について復習しておく。 ・事前課題に対して予習しておく。 ・事前に渡された事例の病態の学習をしておく。 		各回60分	
第 2 回	看護診断と理論との関係					
第 3 回	看護診断過程①(情報収集、解釈、総合、分析)					
第 4 回	看護診断過程②(計画立案と評価、記録)					
第 5 回	看護診断の理解①; 事例を用いて					
第 6 回	看護診断の理解②; 事例を用いて					
第 7 回	看護診断の理解③; 事例を用いて					
第 8 回	看護診断の理解④; 事例を用いて					
第 9 回	看護診断の理解⑤; 事例を用いて					
第 10 回	看護診断の理解⑥; 事例を用いて					
第 11 回	看護診断の理解⑦; 事例を用いて					
第 12 回	看護診断の理解⑧; 事例を用いて					
第 13 回	看護診断の理解⑨; 事例を用いて					
第 14 回	看護診断の理解⑩; 事例を用いて					
第 15 回	看護診断の理解⑪; 事例を用いて					
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (50%)、レポート (50%)					
課題のフィードバックの方法	レポートへコメントを入れて返却・個別指導					
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・江川隆子編 (2013)：これなら使える看護診断, コンパクト新版, 医学書院. ・江川隆子編 (2010)：これなら使える看護介入, 医学書院. ・江川隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ヌーヴェルヒロカワ (※第4版可). 					
参 考 図 書						
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護診断学会監訳：NANDA-I 看護診断定義と分類, 医学書院 (学校で購入した本・卒業生が使用した本を利用する.) ・実習で使用した記録・事例を持参する事。 					

授業科目名	リスクマネジメント	担当教員名	笠岡 和子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間				●	
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-38	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 看護を展開するにあたり、対象の尊厳と生命を守る医療者としての責務を遂行するために、対象の安全と安寧を図る理念・知識・技術を教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の理念と看護の責務を理解する。 2. 看護職の法的責任を理解する。 3. 医療事故・医療過誤の定義、原因、予防策を理解する。 4. 医療安全文化を形成する一員としての自覚と実践する意思を形成する。 					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	医療安全と看護の責務、リスクマネジメント		テキスト第1章予習		30分	
第 2 回	医療安全施策と医療の質の評価		テキスト第2章予習		30分	
第 3 回	事故発生メカニズムと防止対策		テキスト第3章予習		30分	
第 4 回	医療機関における安全対策：組織の取り組み		テキスト第4章予習		30分	
第 5 回	看護における安全対策：看護業務事故発生要因		テキスト第5章予習		30分	
第 6 回	事故防止対策—KYT 事例：患者取り違え		テキスト第5章予習		30分	
第 7 回	事故防止対策—転倒転落		テキスト第5章予習		30分	
第 8 回	事故防止対策—皮膚障害		テキスト第5章予習		30分	
第 9 回	事故防止対策—機器・ライントラブル		テキスト第5章予習		30分	
第 10 回	事故防止対策—針刺し・注射		テキスト第5章予習		30分	
第 11 回	事故防止対策—誤嚥・経管栄養		テキスト第5章予習		30分	
第 12 回	事故防止対策—服薬		テキスト第7章予習		30分	
第 13 回	看護学生の実習と安全		テキスト第8章予習		30分	
第 14 回	医療事故後の対応		テキスト第9章予習		30分	
第 15 回	まとめ		全体の復習		30分	
学修評価の方法 (成績割合%)	最終試験 80%、講義出席状況 10%、グループワーク参加 10% で評価する。					
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して口頭（解説等）又は文章にて個別に対応する。					
テキスト	松下由美子他編集：ナースィング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全、メディカ出版					
参考図書	随時提示する。					
履修上の留意点	医療事故関係の新聞報道に着目。積極的にグループ討議に参加する。					

授業科目名	地域保健福祉ネットワーク論	担当教員名	前田 則子・古川 秀敏			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-39	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 地域保健福祉における地域ケアシステムの構築やグループ支援及び組織化について学習し、看護職が果たすべき役割を理解する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 地域組織活動の特徴を捉え地域の中に様々な住民組織があることを理解する。 2. グループ支援の方法を理解する。 3. 地域ケアシステムの構築とネットワーク化における看護職の役割を理解する。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			必要時間
第 1 回	地域保健と地域福祉の概念					20分
第 2 回	地域組織活動におけるネットワークとケアシステム		前回講義時の			30分
第 3 回	・地域社会の現状と地域保健・地域福祉		配布資料			
第 4 回	・社会資源の活用		熟読			
	・ソーシャルネットワーク・ソーシャルサポート					
第 5 回	・地域組織活動の展開					30分
第 6 回	グループ支援		前回講義時の			
第 7 回	・グループの特性		配布資料			
	・セルフヘルプグループの特徴と支援方法		熟読			
第 8 回	地域ケアシステム		前回講義時の			30分
第 9 回	・地域ケアシステムの概念と発展過程		配布資料			
第 10 回	・ネットワーク形成と地域ケアコーディネーション		熟読			
第 11 回	・地域ケアシステム形成の実際					
第 12 回	・地域保健福祉ネットワークにおける看護職の役割					
第 13 回						
第 14 回						
第 15 回	・まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	第15回目のまとめにおいてレポートの作成を課します。このレポートの内容によって評価を行います。メ切に間に合わなかったレポートは受け取りません。また、出席日数が全講義日数の2/3に満たない者のレポートは受け取ることはできません。					
課題のフィードバックの方法	まとめレポートの他に3回小レポートを課します。最終講義時に小レポートに対してのフィードバックを行います。					
テ キ ス ト	毎回、授業時にプリントを配布します。					
参 考 図 書	随時、紹介する。					
履修上の留意点						

授業科目名	健康と科学	担当教員名	西村 由実子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				○	
授業形態	講義	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-40	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 人間の健康を維持・増進するために必要な観点は何か、科学的知見に基づいて多角的に考えるための態度を習得し、自然や文化に対する科学的かつ学際的な視野を育成できるように、人間を取り巻く自然環境・社会環境、さらに人間と環境との相互作用について基礎的知識を幅広く教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 自然環境・社会環境の仕組みや、自己と環境との関連について様々な角度から理解できる。 2. 健康を維持・増進する手がかりについて、複数の視点から考察し、理解できる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間			
第 1 回	ガイダンス／健康とは・科学とは	健康を表現する	30分			
第 2 回	自然環境と人間 (1) 水	講義資料の復習・準備	30分			
第 3 回	自然環境と人間 (2) 実験	講義資料の復習・準備	30分			
第 4 回	社会環境と人間 (1) 用水路	講義資料の復習・準備	30分			
第 5 回	社会環境と人間 (2) 身近な名水	身近な名水を調べる	30分			
第 6 回	社会環境と人間 (3) フィールドワーク	講義資料の復習・準備	30分			
第 7 回	健康行動理論 (1) 社会的認知理論	講義資料の復習・準備	30分			
第 8 回	健康行動理論 (2) 健康信念モデル／中間テスト	第1～7回の復習	30分			
第 9 回	健康行動理論 (3) 行動変容段階モデル	講義資料の復習・準備	30分			
第 10 回	健康行動理論 (4) 計画的行動理論	講義資料の復習・準備	30分			
第 11 回	健康行動理論 (5) 普及論	講義資料の復習・準備	30分			
第 12 回	ソーシャル・マーケティング	プロジェクト計画	30分			
第 13 回	健康増進プロジェクト作成	プロジェクト計画	30分			
第 14 回	健康増進プロジェクト発表	発表準備	30分			
第 15 回	まとめ	総復習	30分			
学修評価の方法 (成績割合%)	出席 (15%)、中間テスト (20%)、プロジェクト (15%)、提出物と定期試験 (50%)					
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板、および返却物を通じて、提出物等の個別フィードバックと試験等の全体への講評を行う。					
テ キ ス ト	松本千明『やる気を引き出す8つのポイント行動変容をうながす保健指導・患者指導』医歯薬出版 2007					
参 考 図 書	Karen Glanzら編・曾根智史ら訳『健康行動と健康教育-理論、研究、実践』医学書院 2006 松本千明『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎-生活習慣病を中心に』医歯薬出版 2002					
履修上の留意点	履修希望者は第1回ガイダンスに必ず出席してください。 「水」と「やる気」に注目します。やる気のある人、一緒に学びましょう。					

授業科目名	国際・災害看護	担当教員名	犀川 由紀子			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	B-41	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>災害の定義、分類、災害サイクルの考え方を学び、災害事例を振り返りながら、災害時の支援に関わる諸制度や看護の方法を教授する。また、グローバルな視点で人々の健康問題をとらえ、保健医療分野における国際協力の意義と実際について教授する。</p> <p>〔学修目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の意味と災害が健康に及ぼす影響を理解する。 2. 災害各期における看護の役割を理解する。 3. グローバリゼーションが進む中での世界の健康問題を理解する。 4. 異文化理解と国内外における国際看護活動の実際について理解する。 					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス 看護とグローバル化社会 国際・災害看護学の意義と原則		(予習) テキストの該当ページを読んで講義に参加する		毎回 各30分	
第 2 回	災害看護の歩み 災害サイクルと看護活動					
第 3 回	災害時の医療救済活動と看護の役割					
第 4 回	災害時要援護者への看護		(復習)			
第 5 回	災害時の心のケア 支援者のストレスとケア		小テスト終了範囲を再度調べる			
第 6 回	災害復興支援と看護ボランティア		単語帳の作成			
第 7 回	減災を目指す市民活動 災害心理学と防災教育					
第 8 回	国際看護学とは グローバル社会と看護					
第 9 回	国際協力のしくみ 文化を考慮した看護					
第 10 回	開発途上国と看護					
第 11 回	国際看護活動の実際と課題					
第 12 回	国際災害看護学における教育・研究の実践例					
第 13 回	災害時の保健医療機関・災害地域の看護活動					
第 14 回	地域防災への取り組み、災害情報と法・制度					
第 15 回	災害時に必要な看護技術 トリアージの実際					
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 80% 授業参加状況・小テスト 20%で評価する。					
課題のフィード バックの方法	小テスト終了後は解答を解説した上で、遠隔教育システムの活用により情報をドライブに更新する。					
テ キ ス ト	竹下喜久子編集：系統看護学講座，災害看護学・国際看護学，看護の統合と実践③ 医学書院					
参 考 図 書	随時提示する。					
履修上の留意点	日ごろから世界の国際情勢や国内外の災害関連情報に関心をもち、正確な情報を得る。そして、一人の人間としてまた看護をめざす者としてできることは何かを考え、行動する。					

授業科目名	英語Ⅵ	担当教員名	西垣 有夏			
期間	前期	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・30時間					○
授業形態	講義・演習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	A-1-22	D P 記号	DP-1			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕</p> <p>英語Ⅲ・Ⅳに引き続き、より実践的な看護英語を学ぶ。授業では看護の事例研究を取り上げた教材を用いる。最初のUnitは担当教員と共に全員で英文を読んで行き、以降は分担を決めて、毎週1つずつ、それぞれのユニットを担当者が発表していく。受講者の人数により、1人あるいは2人でひとつのユニットを担当することとなる。</p> <p>〔学修目標〕</p> <p>看護における専門用語の英単語の習得、また、論文を読む橋渡しとなる基本的な読解能力の養成。</p>					
授業回数	授業の内容	授業時間外(準備学修)の内容			必要時間	
第1回	オリエンテーション 授業詳細の説明・担当箇所の決定	各リーディングの予習・ 問題への取り組み・単語学習			各講義 60-90分 程度	
第2回	Unit1					
第3回	Unit2 担当者による発表、および質疑・議論					
第14回 第15回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	単語テスト(20%)、課題(10%)、講義内発表(20%)、期末テスト(50%)					
課題のフィード バックの方法	Google Drive等を用いて適正に行う。					
テキスト	"English for Medicine: 医療・看護のためのやさしい総合英語"					
参考図書						
履修上の留意点	講義は学生の発表により進めます。毎回講義時に課題範囲から単語テストを行います。					

授業科目名	看護研究の方法	担当教員名	江川 隆子・古川 秀敏 基礎・専門基礎・専門分野教員			
期 間	前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間					●
授 業 形 態	集中講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-42	D P 記 号	DP-3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>〔授業の概要〕 看護研究の必要性と意義及び看護の研究方法について教授する。実際に看護に関する疑問・問題から研究課題を明らかにし、研究計画書を作成する過程を通して、理論的、科学的思考の基盤と基礎的な研究方法について理解を深める。</p> <p>〔学修目標〕 看護研究とは何か、以下の内容を理解する。 1. 看護研究の役割及び研究課程の過程の概観について（研究の倫理、疑問など） 2. 看護研究の枠組みや研究の種類（概念枠組、研究デザイン、研究計画など） 3. 文献検索（文献の読み方、文献の整理、クリティカルな読み方など） 4. 研究に関する統計（データの収集、データの分析、研究結果の活用など） 5. 研究論文の書き方（質的・帰納的研究についてなど）</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	看護研究の意義と意味について（目標1、2）		各回事前の テキストの講読 配布資料の復習 講義時間中に提議した 課題について資料・ 文献などで調べて おくこと		各回 60分	
第 2 回	看護過程と看護研究の関係について（目標2、3）					
第 3 回	研究の枠組みや研究の種類について（目標2、3）					
第 4 回	研究方法（統計）について①(目標3、4、5)					
第 5 回	研究方法（統計）について②(目標3、4、5)					
第 6 回	研究方法（統計）について③(目標3、4、5)					
第 7 回	グループワーク① 課題1					
第 8 回	グループワーク② 課題1					
第 9 回	グループワーク③ 課題2					
第 10 回	グループワーク④ 課題2					
第 11 回	グループワーク⑤ 課題2					
第 12 回	グループワーク⑥ 課題3					
第 13 回	グループワーク⑦ 課題3					
第 14 回	グループワーク⑧ 課題3					
第 15 回	グループ発表					
学修評価の方法 (成績割合%)	① クリティーク論文 (50%) ② サブストラクション (30%) ③ グループワークへの参加 (20%)					
課題のフィード バックの方法	個別指導					
テ キ ス ト	南裕子 編集 (2010) : 看護における研究, 株式会社 日本看護協会出版会, 東京					
参 考 図 書						
履修上の留意点	授業の出席とグループワーク参加状況を成績評価に活かす。(集中講義)					

授業科目名	卒業研究	担当教員名	江川 隆子 専門分野教員			
期 間	通年	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	4単位・60時間					●
授業形態	演習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-43	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>[授業の概要] 「看護研究の方法」およびこれまでに培った看護研究に関する知識を活用し、授業や演習・臨地実習を通して興味・関心を抱いた「臨床疑問」を明確にする。「臨床疑問」を構成する「看護現象」「看護概念」を抽出し、「概念分析」する。グループワークを通し、看護の対象となる「看護現象」についての知識を整理し、理解を深める。</p> <p>[学修目標] 1. 看護における「概念」を明確にすることの重要性が理解できる。 2. 興味・関心を抱く「臨床疑問」から「看護現象」「看護概念」を抽出・選択し、概念分析に取り組む中で、看護の対象となる現象の理解を深めることが出来る。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	○演習		これまでの授業や演習・実習を通して興味・関心を抱いた「看護現象」「看護概念」を明確にしておく 関心を持った「看護現象」「看護概念」について、文献を検索し、講読しておく		1時間	
第 2 回	以下の内容は、グループ単位で行うものである。学習課題である「概念分析」は、グループでのディスカッションを通して進める。					
第 3 回						
第 4 回						
第 5 回	1. 興味・関心を抱く「臨床疑問」から「看護現象」「看護概念」を抽出・選択する。					
第 6 回	2. 興味のある看護現象を取り上げた論文を講読する。				2時間	
第 7 回						
第 8 回						
第 9 回	3. 取り上げた概念を分析することの意義・目標を明確にする。					
第 10 回	4. 関連概念を抽出し、取り上げた概念との相違点を明確にする。					
第 11 回	5. 取り上げた概念の属性を抽出する。					
第 12 回	6. モデル例（典型例・相反例）を提示する。					
第 13 回	7. 先行要件と結果を洗い出す。					
第 14 回						
第 15 回						
学修評価の方法 (成績割合%)	グループ評価：50% 課題の提出とグループワークへの参加状況などを総合して評価する。 個人評価：50% 別に実施する「卒業前学力考査」における得点率					
課題のフィードバックの方法	演習ごとに、グループおよび個人に対し、適宜フィードバックする。					
テキスト	南裕子 編集 (2020)：看護における研究，株式会社日本看護協会出版会，東京					
参考図書	随時紹介する					
履修上の留意点	課題の内容・提出方法・期日等の詳細は、担当教員を通じて指示する。					

授業科目名	公衆衛生看護学特論	担当教員名	伊木 智子・和泉 比佐子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・15時間					○
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-17	D P 記 号	DP-3			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 公衆衛生看護管理の目的および機能を理解し、保健師の担う公衆衛生看護管理の実際について理解する。 住民のニーズを把握し新たな事業の開発、政策や施策に反映させる保健師の役割、機能について理解する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 公衆衛生看護管理の目的と機能について理解する。 2. 感染症および災害などの健康危機における管理体制および適切な保健活動のあり方を理解する。 3. 地域の健康課題に応じた事業の開発、施策化のプロセスについて事例を用いて理解する。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	公衆衛生看護管理の目的と保健師の役割①		<p>【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。</p>		1~2時間 以上	
第 2 回	公衆衛生看護管理の目的と保健師の役割②					
第 3 回	感染症対策における保健師活動					
第 4 回	健康危機管理における保健師活動①					
第 5 回	健康危機管理における保健師活動②		<p>【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。</p>		1~2時間 以上	
第 6 回	政策、施策に反映させる保健師活動①					
第 7 回	政策、施策に反映させる保健師活動②					
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 (成績割合%)	5回の小テスト 50% 筆記試験 50% (別の実施する「卒業前学力考査」における得点率 *大学が定める卒業認定基準以上の得点)					
課題のフィード バックの方法	課題レポートはコメント付きで返却する。 5回の小テストは、翌週の授業時に返却し解答・解説する。					
テキスト	講義の中で適宜プリントを配布する。 財団法人厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2020/2021 財団法人厚生労働統計協会：国民福祉の動向 2020/2021					
参考図書	平野かよ子他編著：公衆衛生看護管理論 最新版，メジカルフレンド社。 石川雅俊他編著：公衆衛生がみえる，最新版，メディックメディア。					
履修上の留意点	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習での知識技術を統合していく科目です。 保健師の役割と専門性をより深く学ぶためにも、主体的、積極的に学習に取り組んでください。					

4
学
年
後
期

授業科目名	看護管理論	担当教員名	笠岡 和子			
期 間	後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・30時間					○
授業形態	講義		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	B-44	D P 記 号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>〔授業の概要〕 管理論の発展過程、主要概念、組織論などの「管理」についての基本概念を学び、看護管理過程に必要な知識と技術を教授する。</p> <p>〔学修目標〕 1. 管理の基本理念、基本的管理手法を理解することができる。 2. 看護ケアにおけるマネジメントを理解することができる。 3. 看護をめぐる動向、医療制度を理解することができる。 4. 看護サービスのマネジメントを理解することができる。 5. 看護管理に必要なスキルを習得することができる。</p>					
授業回数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		必要時間	
第 1 回	ガイダンス、看護とマネジメント：マネジメントとは		テキストの講義範囲のを 読んでくる (全回)		1時間	
第 2 回	看護とマネジメント：看護におけるマネジメント					
第 3 回	看護ケアのマネジメント：看護ケアマネジメントと看護職の機能					
第 4 回	患者の権利の尊重、チーム医療					
第 5 回	看護業務の実践、看護単位とケア提供システム					
第 6 回	看護サービスのマネジメント：看護サービスの組織化					
第 7 回	人材・環境・物品のマネジメント					
第 8 回	情報のマネジメント、サービスの評価					
第 9 回	看護を取り巻く諸制度：看護職と倫理					
第 10 回	看護実践の領域と場、医療制度					
第 11 回	マネジメントに必要な知識と技術：組織とマネジメント					
第 12 回	リーダーシップとマネジメント					
第 13 回	組織の調整					
第 14 回	組織と個人					
第 15 回	看護ケアのマネジメント：安全管理					
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 70%、グループ討議 30% にて評価する。					
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して口頭（解説等）又は文章にて個別に対応する。					
テ キ ス ト	系統的看護学講座 看護の統合と実践【1】看護管理、医学書院					
参 考 図 書	随時提示する。					
履修上の留意点						

授業科目名	老年看護学実習 I	担当教員名	下舞 紀美代 専門領域教員 他			
期 間	1年次(前期)	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	1単位・45時間		●			
授 業 形 態	実習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	C-8	D P 記 号	DP-2			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 高齢者の生活する場において、対象に合わせたコミュニケーション能力を養うことができる。また、自己のコミュニケーション能力を振り返る能力を養う。</p> <p>〔目標〕 1. 高齢者と言語的・非言語的コミュニケーションをとることができる。 2. 自己のコミュニケーションを振り返り課題を発見することができる。 3. 実習の学びや自己のコミュニケーションの課題を記述することができる。</p>					
	内 容	時間外(準備学修)の内容	必要時間			
実 習 計 画	<p>1. 実習演習(5日間) 1年次</p> <p>2. 実習内容 ①老年期の人および医療スタッフとのコミュニケーション ②学生間のコミュニケーション</p> <p>3. 実習日数 時間 【学内日1日】1限～4限 実習オリエンテーション、グループディスカッション、必要書類の記載他 【実習施設3日】 8:00～17:00 ①聖隷淡路病院 約12名/1日(火曜日～木曜日) ②順心淡路病院 約11名/1日(火曜日～木曜日) ③順心病院 約12名/1日(火曜日～木曜日) 約35名が臨地実習 約70名がAm 疑似高齢者との会話 Pm以下の①②の課題についてグループ討議を行いまとめる。 ①自己のコミュニケーションの特徴 ②高齢者とのコミュニケーション方法 【学内日1日】1限～4限 学びの整理・学びの発表 その他の事項および実習の詳細は、別途配付する「2021年度老年看護学実習I要項」に基づく。</p>	<p>1.実習に必要な、筆記用具、服装を準備する。</p> <p>2.登校前に健康チェックを行う。</p> <p>3.課せられている課題を仕上げる。 臨地実習中毎日</p>	30分	5分	30分/日を3日間	
学修評価の方法(成績割合%)	別途配布する「2021年度老年看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	レポート提出後、講義時間内で課題に関する解説を行う。					
テ キ ス ト						
参 考 図 書						
履修上の留意点	手洗い、マスク着用を厳守して下さい(感染防止)。指定の服装で参加して下さい(怪我がないように)。					

授業科目名	基礎看護学実習	担当教員名	奥津 文子 専門分野全教員			
期間	2年次(前期)	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	3単位・135時間			●		
授業形態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-1	D P 記号	DP-2			
実習目標	<p>〔概要〕 対象を統合体として把握し、看護問題を抽出する思考過程と、看護問題を解決するための計画・実践・評価のプロセスについて学ぶ。</p> <p>〔目標〕 1. 看護師が科学的に看護実践するための思考過程である看護過程について学ぶ。 2. 看護診断過程のそれぞれの段階について学ぶ。 3. 看護診断過程の展開および看護計画の実際について学ぶ。</p>					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
実習計画	<p>1. 学内実習(40時間) 2021年6月～7月</p> <p>2. 病院実習(95時間) 2021年8月2日(月)～8月31日(火) ○ 実習施設: 下記のいずれかで行う。 病院実習: 県立淡路医療センター、聖隷淡路病院、 順心淡路病院、兵庫中央病院、 上ヶ原病院、神戸徳洲会病院、その他</p> <p>その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「2021年度看護学実習要項」による。</p>		<p>看護過程展開についての復習</p> <p>よく見られる疾患の病態生理について</p> <p>情報の整理 看護問題か否かについてのアセスメント</p> <p>日常生活援助についての復習</p> <p>日常生活援助の手順・留意点のまとめ</p>		<p>5時間</p> <p>5時間</p> <p>2時間 2時間</p> <p>5時間</p> <p>2時間</p>	
学修評価の方法(成績割合%)	別途配布する「2021年度基礎看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	個別指導の中でフィードバックする					
テキスト	江川隆子; ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断, ヌーベルヒロカワ					
参考図書	随時提示する					
履修上の留意点	学生自身の健康管理に十分留意し、感染予防行動を徹底して行うこと。					

授業科目名	看護過程論実習	担当教員名	原田 美穂子・神谷 千鶴 下舞 紀美代・笠岡 和子 小平 京子・専門分野教員			
期 間	2年次（後期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	3単位・135時間			●		
授 業 形 態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-2	D P 記 号	DP-2			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 健康障害により療養生活を送っている成人で、日常生活行動における看護上の問題をもつ人を通して、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養う。</p> <p>〔目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が健康障害をもつことによって生じる影響を日常生活行動の視点から理解できる。 2. 対象がもつ健康問題、特に日常生活行動の問題を、科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 6. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 7. 実習事前課題をまとめたノートを作成することができる。 					
	内 容	時間外（準備学修）の内容	必要時間			
実 習 計 画	<p>○ 実習期間： 2022年2月2日（水）～ 2月22日（火）</p> <p>○ 実習施設：下記のいずれかで行う。 医療法人社団順心会 順心病院 医療法人社団順心会 順心淡路病院 兵庫県立 淡路医療センター 独立行政法人 国立病院機構 兵庫中央病院 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷淡路病院 医療法人沖縄徳洲会 神戸徳洲会病院 医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院 社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター</p> <p>その他の事項および実習の詳細については、別途配布する「令和3年度看護過程論実習要項」に準じる。</p>	<p>【臨地実習 事前準備】 解剖生理学、病態治療学、看護（看護診断）過程についての復習を行う。</p> <p>【臨地実習中】 受持ち対象者に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護援助についての学習を行う。 日々行動計画を立て、実施後は振り返りの記録を行う。 翌日の行動計画を記載する。</p> <p>【臨地実習 終了後】 学内実習において、看護過程（看護診断過程）および臨地実習の学びをまとめる。</p>	120分 毎日 180分 120分			
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度看護過程論実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。					
テ キ ス ト	解剖生理学、病態治療学、看護過程・看護診断過程、成人看護学援助論のテキスト講義資料。その他必要時紹介する。					
参 考 図 書	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 これなら使える看護診断 厳選 NANDA-I 看護診断 83 など					
履修上の留意点	既修の学修内容を活用しながら実習に臨みます。					

授業科目名	在宅看護学実習	担当教員名	古川 秀敏・伊木 智子 前田 則子・森花 美和子			
期 間	3年次（後期）・4年次（前期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位 90時間					●
授業形態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-3	D P 記 号	DP-3			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・地域）の特性に合わせて展開される看護活動を通して、基本的な知識と技術、展開方法を学ぶ。また、地域における保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を学ぶ。</p> <p>〔目標〕 1. 地域社会で生活する住民に対する看護活動の実際について理解する。 2. 在宅看護の展開について理解する。 3. 地域の保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を理解する。 4. 地域の特性を理解し、生活の場における看護の役割を学ぶ。</p>					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
実 習 計 画	<p>実習期間 令和3年9月21日(火)～令和4年3月18日(金)のうち2週間。 実習内容 【訪問看護ステーション実習】および【地域における多様な場での実習】を行う。 実習施設 下記のいずれかで行う。 【訪問看護ステーション実習】 順心会訪問看護ステーション加古川 順心会訪問看護ステーション宝殿 順心会訪問看護ステーション学園都市 順心会訪問看護ステーション淡路 聖隷訪問看護ステーション淡路 共生訪問看護ステーション 河上整形外科訪問看護ステーション あべいすと訪問看護リハビリセンター 尼崎医療協同組合訪問看護ステーション菜の花 あかね訪問看護・リハビリセンター Soraケアセンター 看守り処 花もり いちのみや訪問看護ステーション 訪問看護ステーション 桔梗ジャック訪問看護リハステーション 北須磨訪問看護リハビリセンター ほか 【地域における多様な場での実習】 淡路市社会福祉協議会 洲本市社会福祉協議会 淡路市</p>		<p>第1週 【訪問看護ステーション実習】 訪問予定の療養者の疾患や障害、その治療法や使用薬剤等、看護の方法のまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。</p> <p>第2週 【地域における多様な場での実習】 参加予定の事業の法的根拠、機能、役割、従事する専門職者等についてのまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。</p>		<p>毎日 180分</p> <p>毎日 180分</p>	
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度在宅看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックを行う。					
テ キ ス ト	在宅看護論のテキスト、講義資料。その他必要時紹介する。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	実習では、既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学習してください。					

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員名	神谷 千鶴・原田 美穂子 笠岡 和子・小平 京子 専門分野教員			
期 間	3年次（後期）・4年次（前期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	3単位・135時間					●
授 業 形 態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-7	D P 記 号	DP-2			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 健康障害をもち、療養生活を送っている成人期にある対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養うことを目的に、臨地実習を行う。</p> <p>〔目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある健康障害をもつ対象の特性を理解できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 看護過程または看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 6. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
実 習 計 画	<p>○ 実習期間：下記のいずれかで行なう。 病院実習（3週間） 令和3年 9月21（火）～10月7日（木） 令和3年 10月12（火）～10月28日（木） 令和3年 11月1（月）～11月18日（木） 令和3年 11月22（月）～12月9日（木） 全体オリエンテーションおよび事前演習 1日 9月○日</p> <p>○ 実習施設： 病院実習：下記のいずれかで行う。 兵庫県立 淡路医療センター 国立病院機構 兵庫中央病院 医療法人社団順心会 順心病院 社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター 国立病院機構 神戸医療センター その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和3年度成人看護学実習Ⅱ要項」による。</p>		<p>※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。</p> <p>※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。</p>		<p>毎日 120分</p> <p>30分</p> <p>30分</p> <p>60分</p> <p>60分</p>	
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度成人看護学実習Ⅱ要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。					
テ キ ス ト	成人看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。					
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて					
履修上の留意点	状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。					

授業科目名	老年看護学実習	担当教員名	笠岡 和子 専門分野教員			
期 間	3年次（後期）・4年次（前期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	4単位・180時間				●	
授 業 形 態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-8	D P 記 号	DP-2			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 健康障害を持ち、療養生活を送っている老年期にある対象の加齢に伴う変化や発達課題を理解したうえで、科学的根拠に基づく看護を実践・創造できる基本的能力を養う。</p> <p>〔目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある健康障害を持つ対象の特性を理解できる。 2. 老年期にある対象が持つ健康問題について科学的根拠を持って総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚してチームメンバーとの連携が取れる。 5. 看護過程・看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 6. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
実 習 計 画	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院実習（3週間） 3年次 2021年09月21日（火）～10月8日（金） 2021年10月12日（火）～10月29日（金） 2021年11月1日（月）～11月19日（金） 2021年11月22日（月）～12月10日（金） <p>1クール/2クールのオリエンテーションは9月17日に実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. シミュレーション実習（5日間） 2021年12月13日（月）～12月17日（金） <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院実習 社会福祉法人 聖隷福祉事業 聖隷淡路病院 医療法人社団順心会 順心淡路病院 2. シミュレーション実習 社会医療法人財団 聖フランシスコ会姫路メディカル シミュレーションセンターひめマリア <p>その他の事項および実習の詳細は、別途配付する「2021年度老年看護学実習要項」に基づく。</p>		<p>・臨地実習中、学内実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖・病態生理学、看護学全般についての予習・復習を行う。</p> <p>・日々の振り返りの記録を行う。</p> <p>・次の日の行動計画を記載する。</p>		<p>毎日</p> <p>1時間</p> <p>1時間</p> <p>30分</p>	
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度老年看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。					
テ キ ス ト	老年看護学、成人看護学、病態・解剖生理学教科書、授業資料、その他必要時提示する。					
参 考 図 書	病態・解剖生理学、基礎看護学、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断の教科書・授業資料すべて					
履修上の留意点	加齢による身体的変化を解剖学的・生理学的知識に基づき熟知して臨む。					

授業科目名	小児看護学実習		担当教員名				箕浦 洋子・池尻 都 専門分野教員					
期 間	3年次（後期）・4年次（前期）		履 修 学 年	1	2	3	4					
単位数・時間	2単位・90時間						●					
授 業 形 態	実習			●-必修・○-選択								
カリキュラム記号	C-9		D P 記 号	DP-2								
実 習 目 標	<p>[概要] 発達段階や健康レベルを踏まえて子どもとその家族を総合的に理解し、子どもの健康の回復、保持、増進に向けた看護援助を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>[目標] 1. 子どもとその家族を総合的に理解することができる。 2. 子どもの発達段階と健康レベルを考慮した看護過程の展開ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習に臨むことができる。 4. 小児看護学実習で経験した場面を振り返り、子どもの人権について自己の考えをレポートに記述することができる。</p>											
	内 容		時間外（準備学修）の内容				必要時間					
実 習 計 画	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>病院実習（2週間） 2021年9月21日（火）～10月1日（金） 2021年10月4日（月）～10月15日（金） 2021年10月18日（月）～10月29日（金） 2021年11月1日（月）～11月12日（金） 2021年11月15日（月）～11月26日（金） 2022年1月17日（月）～1月28日（金） 2022年1月24日（月）～2月4日（金） 2022年2月7日（月）～2月18日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。 病棟実習：兵庫県立尼崎総合医療センター 兵庫県立淡路医療センター 兵庫県立こども病院 済生会兵庫県病院 加古川中央市民病院</p>		<p>【1週目：学内実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの各期の成長・発達について復習を行う。 事例を用いた看護過程を展開し、看護計画を立案する。 立案した計画に基づき、ベッドサイドケアのプレゼンテーション計画を行う。 セラピー技術の演習レポートの作成を行う。 <p>【2週目：臨地実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち対象に応じた発達段階の確認、必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般等について予習・復習を行う。 日々学んだことを振り返り記録し、それを踏まえて翌日の行動計画を立案する。 				60分	180分	60分	30分	90分	60分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度小児看護学実習要項」に記載する。											
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。											
テ キ ス ト	小児看護学講義で使用したテキストおよび講義資料。その他、必要時別途提示する。											
参 考 図 書	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護（照林社） 写真でわかる小児看護技術（インターメディカ） こどもの病気の地図帳（講談社）											
履修上の留意点	小児看護学の授業で学修した内容（特に小児の成長・発達）について、復習をして実習に臨む。											

授業科目名	母性看護学実習	担当教員名	曾我部 美恵子・神谷 映里 尾筋 淑子・小笠原 百恵 永峰 啓子・専門分野教員			
期 間	3年次（後期）・4年次（前期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・90時間					●
授業形態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-10	D P 記号	DP-2			
授業の概要 学修目標	<p>[概要] 臨地での実習を通して、母子の健康意義や健康増進に向けた看護の役割を認識し、マタニティサイクルにある対象および家族への援助を行うための基礎的実践能力を教授する。</p> <p>[目標] 1. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象の特徴を理解し、根拠に基づいた看護過程の展開ができる。 2. 母子やその家族とのかかわりを通して、家族や親子の絆について理解できる。 3. 生活者として母子およびその家族を捉え、健康保持や増進のために行う支援について、その根拠や基本的な支援方法を説明できる。 4. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。</p>					
	内 容	時間外（準備学修）の内容	必要時間			
概 要	<p>○実習期間： 令和3年9月17日（金） ～令和4年3月18日（金）のうち2週間</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで実習を行う。 済生会兵庫県病院、たなべ産婦人科、 兵庫県立淡路医療センター ほか</p> <p>*その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「2021年度母性看護学実習要項」による。</p>	<p>・講義資料や教科書などを用いて、実習前に母性看護学I～IIIで学んだ知識の復習を行う</p> <p>・講義資料や教科書、参考書などを用いて、実習課題の作成を行う。</p>	各クール 1日あたり2時間			
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度母性看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	臨地での実習指導および実習記録の確認を行い、学修目標の達成状況を確認する。提出された課題は適宜添削し、実習施設および学内講義室等で個別に指導する。					
テキスト	母性看護学のテキスト・講義資料、そのほか適宜紹介する。					
参考図書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	*実習期間と実習場所に注意する。 *提示される事前学習を行って実習に臨む。					

授業科目名	精神看護学実習	担当教員名	小出水 寿英			
期間	3年次（後期）・4年次（前期）	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・90時間					●
授業形態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-11	D P 記号	DP-2			
実習目標	<p>[概要] 精神科医療・看護における生命の尊厳、基本的な権利など倫理的な理解を深める。また、精神科疾患の回復過程から精神障害者を理解するために、精神障害者のセルフケア不足をアセスメント・実施・評価する。さらに、精神障害者が地域移行や地域生活を定着するために必要な事柄を理解する。</p> <p>[目標] 1. 精神に障害を持つ対象者を全人的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。 2. セルフケア理論に基づき、ケアプランを立案し実施できる。 3. 地域で生活する精神障害者への継続看護、地域定着に必要な事柄を明確にできる。 4. 精神障害者のストレンクスと今後の課題を明確にすることができる。</p>					
	内 容	時間外（準備学修）の内容	必要時間			
概 要	<p>○ 実習期間：下記のいずれかで行なう。 令和3年9月～令和4年3月のうち2週間</p> <p>○ 実習施設：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 実習施設 新淡路病院 淡路障害者生活支援センター さくらんぼの里 訪問看護ステーション心</p>	精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を通読し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。	毎日 180分			
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度精神看護学実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。					
テキスト	精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書、文献等。					
参考図書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	これまでの学修内容は臨地実習に通じています。講義の復習、事前課題学習、実習中の課題の学習等、必ず実施して臨んでください。					

授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	担当教員名	前田 則子 専門分野教員			
期間	3年次(後期)・4年次(前期)	履修学年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・90時間				○	
授業形態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-4	D P 記号	DP-3			
実習目標	<p>[概要] 臨地実習を通して、学校保健の場における公衆衛生看護活動として、健康に関わる組織とその機能、および養護教諭の役割を教授する。</p> <p>[目標] 1. 学校保健の場および産業保健の場における公衆衛生看護の対象を理解することができる。 2. 学校保健の場における養護教諭の役割および産業保健の場における産業保健師の役割を理解することができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。</p>					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
概 要	<p>○ 実習期間：下記のいずれかで行なう。</p> <p>1. 産業保健実習(1週間) 令和3年 9月 上旬</p> <p>2. 学校保健実習(1週間) 令和3年 4月 ~ 令和3年 6月</p> <p>○ 実習施設：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 産業保健実習：滋賀県内および淡路島内の事業所</p> <p>2. 学校保健実習：淡路市内の小中学校</p> <p>*その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和2年度看護学実習要項」による</p>		<p>1. 講義資料・教科書を用いて復習する。</p> <p>2. 与えられた課題を作成する</p> <p>・産業保健実習：社員に向けた健康教育</p> <p>・学校保健実習：児童・生徒に向けた保健管理および保健教育</p>		<p>5時間</p> <p>5時間</p> <p>5時間</p>	
学修評価の方法(成績割合%)	別途配付する「2021年度公衆衛生看護学Ⅰ実習要項」に記載する					
課題のフィードバックの方法	課題に取り組む過程を通して添削し指導を行う。					
テキスト	児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂 日本学校保健会					
参考図書	適宜提示する					
履修上の留意点	保健師国家試験受験者の選択必修科目である 指示された事前課題に取り組む実習に臨むこと					

授 業 科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	担 当 教 員 名	伊木 智子・古川 秀敏 前田 則子・森花美和子			
期 間	3年次(後期)・4年次(前期)	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	3単位・135時間					○
授 業 形 態	実習		●-必修・○-選択			
カリキュラム記号	C-5	D P 記 号	DP-3			
実 習 目 標	<p>[概要] 地域で生活する人々と地域社会について理解を深め、地域特性と関連づけて実践できる能力や思考する基礎的な能力を養う。個人や家族および集団・組織を支援する公衆衛生看護活動の実際を通して、地域に暮らす人々の健康を高めるための基本的な知識および方法・技術を理解しそのあり方を学ぶ。</p> <p>[目標] 1. 人々の生活の場としての地域の特性を把握し、既存資料・データ、保健師活動等から地域に顕在および潜在している健康課題を理解する。 2. 地域住民の主体性を尊重した公衆衛生看護活動について理解する。 3. 様々なライフサイクルや健康レベルにある個人、家族、集団、地域全体の公衆衛生看護活動を理解する。 4. 公衆衛生看護活動における多機関・多職種との連携や地域包括ケアシステムにおける保健師の役割と機能を理解する。 5. 行政を基盤とした公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。</p>					
	内 容					必要時間
概 要	<p>別途配布する「公衆衛生看護学実習Ⅱ実習要項」に基づいて、下記の内容で実習を行う。</p> <p>1. 実習方法：学生6人のグループに分け兵庫県内の健康福祉事務所(保健所)3日間、市町8日間の3週間実習を行う。</p> <p>1) 実習オリエンテーション ・学内において全体オリエンテーションを行う。兵庫県総合オリエンテーションは県下大学合同で行う。 ・保健所、管内市町は、実習初日に実習施設で行う。</p> <p>2) 実習内容 ・実習地域の地域看護診断を行い、健康課題、住民の健康ニーズ、健康課題の解決に向けた地域特性をふまえた公衆衛生看護活動を理解する。 ・実習地域の保健事業に参加し公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。 ・地域における保健・医療・福祉の関係機関、他職種の連携調整の実際を理解する。 ・実習を通して学んだことについて考察を行い、まとめを実習報告会で発表する。</p> <p>2. 実習期間 ・2021年5月17日(月)～6月4日(金) 2グループ3週間 ・2021年6月14日(月)～7月2日(金) 2グループ3週間</p> <p>3. 実習施設 ・洲本健康福祉事務所、中播磨健康福祉事務所、あかし保健所 洲本健康福祉事務所管内、中播磨健康福祉事務所管内、明石市の保健・福祉施設</p>		<p>【実習前】 ・公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。 ・実習地域の地域看護診断を展開し健康課題を明確にする。 ・公衆衛生看護技術の事前演習を行う。</p> <p>【実習中】 ・地域看護診断や家庭訪問記録、日々の実習記録の課題を行う。 ・家庭訪問の対象者への支援に必要な情報収集等を行う。 ・参加する保健事業について、法的根拠、対象者、位置づけなどを調べる。 ・学びをまとめ考察していく。</p> <p>【実習後】 ・実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。 ・保健師国家試験の過去問、模擬試験問題を解く。</p>			<p>1～2時間/毎日</p> <p>1～2時間/毎日</p> <p>1～2時間/毎日</p>
学修評価の方法(成績割合%)	<p>実習への参加状況、記録・レポート内容、グループワーク、プレゼンテーション、カンファレンスの参加・貢献から実習目標の達成度から総合的に評価する。</p> <p>内訳：事前学習10%、実習態度・参加状況20%、実習記録20%、地域看護診断・まとめ30%、グループワーク、カンファレンス参加状況20%、</p>					
課題のフィードバックの方法	1. 臨地における個別指導 2. 実習記録およびレポートにコメントを記入する 3. カンファレンスでの個別、集団指導					
テ キ ス ト	<p>厚生労働統計協会編：国民衛生の動向 2020/2021 岩本里織他：公衆衛生看護活動論 技術演習 第2版、クオリティケア。 佐伯和子他編著：標準保健師講座2 公衆衛生看護学技術、医歯薬出版株式会社。 中谷芳美他編著：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院。 藤内修二：標準保健師講座・別巻1 保健医療福祉行政論 最新版、医学書院。</p>					
参 考 図 書	日本看護協会：保健師業務要覧, 日本看護協会出版会					
履修上の留意点	保健師国家試験受験者の選択必修科目である。					

授業科目名	課題実習	担当教員名	小出水 寿英 専門分野教員			
期 間	4年次（前期）	履 修 学 年	1	2	3	4
単位数・時間	2単位・90時間					●
授 業 形 態	実習	●-必修・○-選択				
カリキュラム記号	C-12	D P 記 号	DP-3			
実 習 目 標	<p>〔概要〕 領域別看護学実習の経験を踏まえ、多様な看護の場における看護の機能・役割を理解し看護のジェネラリストとして看護学の全領域を統合した実践的基盤を養う。また、自らの看護を深め、新たな看護・医療の発展に寄与できる能力を培う。</p> <p>〔目標〕 1. 多様な看護の場における看護の機能・役割を理解できる。 2. 看護の場の特性を理解し、自らの課題に基づいて看護を深めることができる。 3. 多様な場における対象・状況に応じた看護実践ができる。 4. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。</p>					
	内 容		時間外(準備学修)の内容		必要時間	
実 習 計 画	<p>○ 実習期間：下記のいずれかで行なう。 1. 実習（2週間） 4年次 2021年4月～7月の範囲で2週間で行う。</p> <p>○ 実習施設：下記のいずれかで行う。 1. 老人保健医療福祉施設 特別養護老人ホーム あわじ荘 特別養護老人ホーム 栄光園 特別養護老人ホーム 聖隷カーネーション 特別養護老人ホーム ゆうらぎ 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド 特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 介護老人保健施設 淡路白寿苑 介護老人保健施設 せんけい苑 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 2. 医療施設 姫路メディカルシュミレーションセンターひめマリア 3. 地域保健福祉施設 淡路市社会福祉協議会 順心会地域リハビリテーションセンター</p>		各領域で使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を通読し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。		毎日 180分	
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2021年度課題実習要項」に記載する。					
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。					
テ キ ス ト	各領域で使用した教科書、資料、文献、参考書等。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	履修に関しては、全領域の看護実習が終了しており、そのすべての単位認定が見込まれることを原則とする。					



〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 1456-4
TEL 0799-60-1200 FAX 0799-60-1201